

平成 30 年度 事業報告書

社会福祉法人 北摂杉の子会

I. 事業報告

1. 法人本部

平成30年度社会福祉法人北摂杉の子会年度方針

1. 第4次5か年中期計画の確実な遂行

特に以下の計画の確実な実現に注力する。

- (1) 利用者の重度化・高齢化に対する対策として、医療的ケア体制の充実、訪問看護事業所の開設に向けた検討と取り組みを進める。

【成果】

医療的ケア体制の充実として、支援員による医療的ケアが可能になる研修受講者が増加した。医療連携推進室でご家族に向けた医療的ケアの研修会を2回実施した。訪問看護開設に向けて、訪問看護ステーションこころ様と協働し、実際の動きをシミュレーションした。ニーズ調査も行い、在宅支援のニーズが明らかになった。平成31年4月1日に開設することができた。

- (2) 就労継続支援事業について以下の取り組みの推進を図る。

- ① 就労継続事業B型の工賃向上の取り組みを強化するとともに、利用者のニーズに応じたプログラムの提供を行う。

【成果】

毎月、収入と経費のバランスを確認し、職員間で共有し、利用者個々のニーズや目標を支援計画に反映させるため毎月2回の個別面談で着実な支援計画の進捗管理等を行なった。

- ② 就労移行支援事業における企業就労定着を進める。

【成果】

平成30年10月より就労定着支援事業の新規指定を受け、事業を開始した。ジョブジョイントおおさかの十三・高槻とも20名程度の契約者（就職者）を定着支援している。

- (3) 以下の施設整備を進める。

- ① ジョブサイトひむろの移転整備

【成果】

「ジョブサイトひむろ移転」については、現在の場所での建て替えの方向で、地主さんや隣接する保育園と話を進めているが、大阪北部地震、台風21号と度重なる災害の影響で、進捗が遅れている状況である。

- ② 萩の杜従たる事業所の移転整備

【成果】

7月に高槻市氷室町にあった萩の杜生活介護従たる事業所(20名定員)の奈佐原への移転を完了することができた。移転に伴い、高槻支援学校卒業生を中心に3名の新規利用者の受け入れもおこなった。

- ③ グループホームみやたの移転整備

【成果】

3月～8月末にかけて新築工事を実施し、9月17日に移転を完了した。生活環境が改善したことや、各居室の壁紙をご利用者が選択されることで意思が反映されるなど「豊かな暮らし」の実現につながった。

④ グループホーム第2レジデンスなさはらの整備

【成果】

平成30年10月から31年2月末にかけて新築工事を実施した。各居室をご利用者の特性に合わせたオーダーメイド設計を取り入れ、合理的配慮を盛り込むことが出来た。しかし、スタッフの確保が大きな課題となり、4月1日から2番館のみを開設している。

⑤ 十三地区におけるグループホームの整備

【成果】

候補となる土地はいくつも見つかったが、地域の住民の反対に遭ったので地主が売らない、建物のオーナーの気が急に変わり別の希望者に販売することに決定する、土地自体がマンションの狭間で採光の関係で建設不可などなかなか先に進めず苦慮している。少し離れた土地で送迎も視野に入れて現在探している。

⑥ 居宅介護事業所の開設準備

【成果】

人材の確保が厳しい状況となっており、居宅介護事業所を開設出来るだけのマンパワーが課題となり、30年度中の開設は出来なかった。ご利用者の地域生活支援を推進していくためには重要な事業であるため継続して検討していきたい。

(4) 自閉症・発達障害児者支援については、以下の取り組みに注力する。

① 新たな療育拠点事業の検討と準備を進める。

【成果】

豊中市立あゆみ学園で実施の単独通園事業及び個別療育事業、並びに新規事業である障害児一時預かり事業について、プロポーザルに応募、事業受託が決定した。1月より開設準備室を設置し、豊中市との協議を重ねながら、各事業の具体的な実施案を検討した。

2. 人材（財）確保と育成に組織を挙げて注力する

(1) 人材（財）確保の組織的な取り組みを更に強化する。

【成果】

正職員採用について、今年度も積極的に活動を行い、24名に内定を出し、既卒内部昇格を含め20名を採用した。内定辞退者は10名を数え、今後の対応を検討する必要がある。非常勤職員の採用が進まず、既卒者採用と含め大きな課題となっている。

(2) 引き続き e-ラーニングの作成を通じた研修の充実を図る。

【成果】

平成30年4月より法人内の全スタッフを対象にeラーニングを受講。株式会社Lean on Me と共同開発した全6章のコンテンツを視聴してもらい、管理者は受講後のレ

ポートを通して人材育成に努めることができた。

(3) 職員満足度調査を実施する

【成果】

法人内でプロジェクトを発足（星明、富、新谷、河辺、松本、段）。調査項目について議論を重ね、12月より職員満足度調査を実施。年度末に集計を行い、次年度より調査内容を反映させていきたい。

(4) 企業内保育所の設置・運営についての調査。検討を進める。

【成果】

地域の医療機関から組織連携による企業内保育所設置の呼びかけがあり、設置検討に入る。株式会社インサイトに委託し、法人内のニーズを抽出するためアンケート調査を実施する。

3. 利用者に対する権利擁護の取り組みを進める

(1) 意思決定支援、表現性コミュニケーション支援の取り組みを進める。

【成果】

表現性コミュニケーション支援システムである PECS に着目し、外部 SV を招いて、研修と PECS の実践についての振り返りを年間 8 回実施した。法人内でも述べ 300 名弱の支援員が参加し、表現性コミュニケーション支援について進展がみられた。

(2) 特に各事業所における虐待防止に向けた取り組みを強化し、虐待防止体制の体制整備を進める。

【成果】

法人全体および各事業所で「権利擁護虐待防止計画」を策定し、2 か月ごとの委員会にて進捗やトピックスを確認した。e-ラーニングの視聴を開始したことで、少しずつクレドが浸透しつつある。

(3) 利用者の満足度調査を行う。

【成果】

利用者満足度調査の実施にむけて、法人内で検討した。次年度も継続して検討を進める。

4. 安定した法人経営のための収益の確保

(1) 施設整備計画の確実な実施に向けての資金確保と資金計画の進捗管理を確実に進める。

【成果】

ふれっとなさはら、なさはら 2 丁目、なさはらもとまち 1・2 番館の 3 案件の新規建物建設が同時並行で進んだが、支払と財源の管理を細かくチェックして、計画的に資金繰りを遂行した。

(2) 30 年度の報酬・制度改定で示された法人として好機となる事業については、法人の強みを更に活かして、収入の確保の取り組みを図る。また脅威となる事業につい

ては、早期に予測される収入減に対する対策を講じる。

【成果】

ジョブサイトよど、ぷれいす Be、ジョブサイトひむろの3事業所において、今年度より新たに生活介護事業に創設された「重度障害者支援加算」の算定を行い、収入増につなげた。また、就労継続支援 B 型事業においては、前年度の実績が基本報酬になるため、次年度以降の収入増を目指して、工賃向上に注力しているところである。

(3) 利用率の維持と向上、業務の効率化と経費削減の取り組みを行う。

【成果】

30年7月から、電気料はエフビット（中間電気小売業者）を介入することによる引下げの効果、水道料は節水器を取り付けることによる経費引下げ効果を図る。

（主な5事業所合計）

水道料 29年度 876万円 → 30年度 768万円（▲108万円）

電気料 // 1,801万円 → // 1,507万円（▲294万円）

5. 法人の社会的責任

社会の公器としてある社会福祉法人の自覚に基づいて、社会貢献活動の推進、法令順守に努めるとともに、透明性の高い法人運営を更に進める。

【成果】

理事会、評議員会とも法令に基づいた開催を行い、適正な法人経営を遂行できた。顧問社労士、顧問税理士からの指導を受けて、適切に労務管理、財務管理ができた。例年通り、事業報告書、決算書を法人ホームページに掲載するとともに、WAMNET（福祉医療機構）に法人情報を閲覧できるように手続きした。

2. 総務部

(1) 平成30年度重要実施事項

- ①地域移行、移転の整備計画を図る
- ②訪問看護事業所の平成31年度の開設を検討する。
- ③総務部主導の採用戦略をさら進めて事業展開に必要な人材を確保する。
- ④ワークライフバランスに配慮した職場環境作りを進める。
- ⑤企業内保育所の設置・運営についての調査、検討を進める。
- ⑥自閉症啓発デー等の地域住民を対象としたイベントを平成31年度4月に開催する。
- ⑦平成30年度報酬改定に伴う経営的対応を確実に実行する。
- ⑧総務部の各業務における業務改善を目指す。

(2) 平成30年度の取り組み内容

- ①グループホームみやたの移転、レジデンスなさはらもとまちの開設を実行できた。
- ②高槻において訪問看護ステーションを設置するにいたる。
- ③新規採用者を14名採用できた。

- ④第3回ワークライフバランスの会を実施した。
- ⑤光愛病院との連携事業で検討を始める。
- ⑥平成31年4月4日にイベントを実施した。
- ⑦報酬改定情報を入手して各管理者へ情報提供した。
- ⑧人材育成研修室のスーパーバイズ派遣の稼動が増加した。

(3) 評価

- ①建設実現により利用者のより快適な住環境が整備できた。
- ②開設により地域生活を送る利用者のニーズに応えられるようになった。
- ③既卒採用者も含めて最低限の必要採用数を確保できた。
- ④先駆的取り組みをしている他法人へ視察に行き、より充実した会を実施できた。
- ⑤株式会社インサイトに業務委託しニーズ調査から始めることになった。
- ⑥地域住民への自閉症発達障害の啓発が広がった。
- ⑦いち早く情報提供することで予算組みをスムーズに着手できた。
- ⑧全国各地の強度行動障害者支援へのサポートがさらに進み専門性が向上した。

3. 萩の杜

(1) 平成30年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 高齢・重度化を見据えた個別支援を事業所・職種間連携を図りながら遂行する。
 - ii) 喀痰吸引等研修受講を継続し、支援員による医療的ケア体制構築に取り組む。
 - iii) 利用者像に応じた健康維持のための運動プログラムの開発を進める。
 - iv) 利用者像の変化や長期修繕計画に基づき、生活環境改善に向けた検討を行う。
 - v) 生活介護 従たる事業所を移転し、安定運営に取り組む。
- ②人権を守る砦となる
 - i) 業務の振り返りとeラーニングを活用し、権利擁護意識を高める。
 - ii) 利用者個々の障害特性に応じた“合理的配慮”に基づく支援を展開する。
 - iii) 利用者の“意思決定”“表出性コミュニケーション”支援に引き続き取り組む。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 法人の人材育成とリンクしながら、個人研修計画を立案・実行する。
 - ii) 効果的な内部研修を企画・実行する(年3回程度)。
 - iii) 職員間のコミュニケーションを促進し、業務改善等の提案につなげる。
- ④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) グループホームを利用しての地域移行を前提とした新規利用者1名の受け入れ。
 - ii) 施設実習や見学等の受け入れを積極的に進める。
 - iii) 安全対策委員会等、家族会との協力を継続し、透明性のある施設運営を目指す。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 強度行動障害支援者養成研修の計画的受講を引き続き行い加算取得を継続する。
 - ii) 引き続き全体会議等において収支確認を行い、固定費削減等に取り組む。

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 計画通りのスケジュールで進めることができた。
- ii) 喀痰吸引等研修(3号)を3名が受講した。
- iii) 作業療法士と連携しながら歩行改善等のプログラムを実施した。
- iv) 必要な修繕や利用者像に合わせた施設設備環境について適宜おこなった。
- v) 7月に移転を完了し、計画していた新規利用者3名の利用も開始した。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りについて実施した。
- ii) グループ毎に毎月の支援会議を開催し、適切な個別支援を実施できるように努めた。
- iii) PECSの研修に支援員2名を派遣し、あわせて法人主催のPECS研修にも参加し現場での実践をおこなった。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 個人研修計画を立案することはできなかったが、各支援員が希望する研修受講ができるように取り組んだ。
- ii) 年3回の内部研修等、計画通り実施した。
- iii) 年3回の全体会議において事業計画や予算の進捗状況等共有し、各ユニットの目標等を話し合った。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 想定している利用者像の希望者を選定することが出来なかった。
- ii) 施設実習や見学等を積極的に受け入れ、実習生には実習後のアンケート協力をいただいた。
- iii) 安全対策委員会や家族会定例会等において、利用者状況や運営状況について定期的に報告をおこなった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)を4名が受講し、実践研修については2名が受講した。
- ii) 全体会議において定期的に収支確認をおこなった。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) サービス管理責任者を中心に、年間を通して各関係者間で連携して進めることができた。
- ii) 支援員の喀痰吸引等研修(3号)の計画的受講について、目標の正職/嘱託職員の50%の受講を達成することができた。
- iii) 高齢・重度化が課題となっている為、今後も継続して実施する必要がある。
- iv) 高齢・重度化等、利用者像に合わせた施設設備環境改善については今後課題が多くなる見込みなので、検討を継続する必要がある。

- v) 利用者の移行については大きな混乱なく実施することができた。計画に挙がっている次年度新規利用者3名確保についても達成することができた。

②人権を守る砦となる

- i) eラーニングの活用については十分に出来ていない。視聴者数を増やすことが課題である。
- ii) 必要な環境整備等も含め、継続して進めていくことが必要である。
- iii) 個別支援への反映等、継続して取り組む必要がある。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 強度行動障害支援者養成研修やサービス管理責任者研修、喀痰吸引等研修等、加算取得や事業運営に必要な研修受講が優先となる傾向が強くなっている。
- ii) 12月の実践報告会には法人内他事業所の参加もあった。
- iii) 各ユニットの目標を共有することで、目標達成に向けた意識向上に繋がったと考える。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 新規受け入れには至らなかった。
- ii) 実習終了後アンケート結果について、支援姿勢や施設環境等概ね良好な結果であった。
- iii) 適切な情報提供等、透明性のある施設運営に取り組むことで、一定家族の安心感に繋がっていると考えられる。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 加算取得の為、計画的受講を次年度も継続していく。
- ii) 固定費削減や収入確保等、引き続き努力していく必要がある。

4. 短期入所(ショートステイセンター ふれす・ふれいす Be 短期入所)

(1) 平成30年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 必要に応じてサービス担当者会議等に出席し、関係機関との連携を図る。
- ii) 利用者満足度調査を実施し、サービス内容の振り返りをおこなう。

②人権を守る砦となる

- i) 業務の振り返りとeラーニングを活用し、権利擁護の意識を高める。
- ii) 引き続き萩の杜と合同でリスクマネジメント活動を実施する。※ふれす
- iii) 内部研修を年6回開催し支援者としての基本姿勢を深めていく。※ふれいす Be

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 毎月の合同会議を継続し、情報の共有や課題解決に向けての検討をおこなう。
- ii) 年3回の内部研修を継続し、ケース検討等を通じて支援力を高める。
- iii) 年1回のストレスチェックを実施し、産業医との連携を図る。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 緊急時の受け入れや満床時などの利用調整をおこない、利便性を高める。

ii) サービスの質の向上を図り、選ばれる短期入所事業所を目指す。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 定期的に収支の確認をおこない、収支改善に向けた取り組みを検討し実施する。

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 必要に応じてサービス担当者介護等に参加した。

ii) 合同会議において利用者満足度調査票の内容検討を図った。

②人権を守る砦となる

i) 業務の振り返りチェックシートを両事業所とも実施した。

ii) リスクマネジメント活動を通して事故予防等に取り組んだ。

iii) 年 6 回のふれいす Be 内部研修に参加した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 毎月の合同会議を継続して開催した。

ii) 事例検討等、年 3 回の合同研修を計画通り実施した。

iii) ストレスチェックを 6 月に実施した(対象：週 30 時間以上勤務の職員)。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 緊急時や満床時等、必要に応じて両事業所間で利用調整を図った。

ii) 【ふれす】活動の選択等、個々のアセスメントに基づいた支援に取り組んだ

【ふれいす Be】ふれいす Be 生活介護との一体的運用により重症心身障害児者への継続したサービス提供と受け入れに取り組んだ。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 合同会議等において定期的に収支状況等を共有した。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 事業所間で利用者状況の共有が図ることができ支援の質の向上に繋がった。

ii) 調査項目等の検討を図ったが結論が出ず、実施には至らなかった。

②人権を守る砦となる

i) 事業所に特化した業務の振り返りチェックシートの改定には至らなかった。

ii) 安心安全な生活環境提供に向けて引き続き取り組む必要がある。

iii) 支援者としての基本姿勢をより深める為、引き続き取り組む必要がある。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 利用者状況や運営状況等を共有して、各課題解決等に繋げることができた。

ii) 職員育成は重点課題の為、次年度以降も継続して実施する。

iii) 法人全体の動きとリンクして継続して実施する。

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 同法人内事業所のメリットを活かした利用調整について今後も継続する。

ii) 【ふれす】個別支援の充実について一定の成果があった。

【ふれいす Be】重症心身障害児者へのサービス提供や受け入れについて、前年度

と同様の実績をあげることができた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 支援員確保が課題であり、ぶれすについては8月より週1回の閉所日を設けることとなった。利用率向上に向けた取り組みを実施することはできなかった。

5. ジョブサイトひむろ

(1) 平成30年度重要実施事項

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
- ②人権を守る砦となる
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築

(2) 平成30年度の取り組み内容

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
 - i) ジョブサイトひむろ移転整備の準備を進めた。
 - ii) 工賃向上の取り組みを継続した。
 - iii) 健康予防プログラムを推進した。
 - iv) ご家族、関係機関とのパートナーシップの強化に努めた。
- ②人権を守る砦となる
 - i) ご利用者の表出コミュニケーション支援を進めた。
 - ii) 権利擁護虐待防止計画の推進と進捗管理を行った。
 - iii) 説明責任と合理的配慮の徹底に努めた。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - i) 職種や職階に応じた役割期待とそれに応じた働き方の確立に努めた。
 - ii) 職員が共に学び成長できる仕組みを検討した。
 - iii) 非常勤職員の確保と定着に努めた。
- ④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 地域の社会資源を有効活用した。
 - ii) 地域で実施されるイベントには積極的に参加した。
 - iii) 地域ニーズの把握と掘り起こしに努めた。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 事業所内で収支の進捗確認を毎月実施した。
 - ii) 報酬改定に伴う加算要件を精査し、収入確保につなげた。

(3) 評価

- ①生涯に渡る地域での暮らしの実現
 - ・ジョブサイトひむろ移転整備については、現在の場所での建て替えを検討しているが、大阪北部地震と台風21号の影響により、進捗がストップしている状況である。
 - ・萩の杜従たる事業所の移転に伴い、一部、グルーピング変更を行った。

- ・就労支援事業収入は、クリーニング作業の受託増より、前年比 8.1%増の 1,026 万円となった。一方で、ご利用者の状態像の変化に伴い、生産活動と、健康、予防プログラムとのバランスが課題である。
- ・ご家族を対象に真野先生の勉強会を継続して実施した。また、新たな取り組みとして、各作業グループの職員、活動紹介を行った。

②人権を守る砦となる

- ・常勤職員 5 名が PECS レベル 1 ワークショップを受講した。また、門先生の研修会でも事例報告を行った。
- ・毎月 1 回、セレクト給食を実施し、昼食場面での選択の機会を継続した。今年度は、主菜、デザート以外でも実施した。
- ・グループホームとの連携会議をご利用者 1 名に対し年 2 回実施した。また、意思決定支援会議も開催した。
- ・権利擁護虐待防止計画に基づき、業務の振り返りチェックシート、内部研修を実施したが、クレドの浸透が十分ではなく、e-ラーニングの運用方法も含め、次年度に積み残した。
- ・RM 委員会が主体となり、定期的なリスクマネジメントに関する支援員会議を実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- ・職員の業務レベルに合わせ、役割や業務量の軽減を図ったが、超過勤務の減少にはつながらなかった。
- ・工賃向上委員会で受注作業の事例検討、また RM 委員会でケース検討会議を開催し事業所内での情報共有を図った。
- ・内部研修を勤務時間内に設定し、2 回に分けて実施したことにより、非常勤職員の参加率が向上した。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

たかつき〇まるしえを始め、地域で行われるイベントには多数参加した。また、夏のふれあいデーの工作ワークショップ、たかつきアート博覧会にも出店し、販売以外の場面でも啓発に努めた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- ・事業所内の毎月の全体会議において、収支の進捗確認を行った。
- ・年初からの 4 名の利用者増と、重度障害者支援加算の算定により、収入増につながった。

6. グループホームみやた・とんだ

(1) 平成 30 年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 衣食住の環境改善をさらに進める。

(設備面は移転に伴い、設備面以外でも QOL 向上の取り組みを進める)

- ii) 個々や集団での余暇活動を継続するとともに、新たに 2 種類程度の開発も行う。

iii) 余暇や暮らしの充実を目的に、居宅介護事業所の開設に向けて準備を進める。

②人権を守る砦となる

i) 日常的なアセスメントに基づき、個別性と「意思」を十分に考慮した支援を行う。

ii) 意思決定支援のシステムを構築する。

iii) 障がい特性や個別性の把握、支援の進捗のための情報交換を月一回以上行ない、検討や支援内容を深めて合理的配慮につなげる。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 研修機会のべ20回以上を今年度も確保し、個々や事業所のレベルアップを図る。

ii) 部内での人材交流を活性化する。

iii) 定期的（個別の状況にあわせるが基本毎月）なSVを実施する。

iv) 移転に伴い、レジデンスなさはらと横断的な支援体制の構築を図る。

④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人

i) 現在の地域資源の活用を継続する。

ii) 移転先の地域資源の開拓を始める。

iii) 移転後は、自治会に参加するなど、地域住民との関係を構築する。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 会議で収支状況を確認するなど、コスト意識をより高め、平成28年度比5%の固定費の削減を行う。

ii) 移転に伴うコスト削減のため、効率的に移転整備を実施出来るように努める。

(2) 平成30年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 9月に宮田町から奈佐原への移転を達成した。

衣類補充や住環境整備をその方の予算等に合わせ個別的計画的に行った。

ii) 例年実施していた個々や集団での余暇活動を継続した。

移転後に、徒歩でいける範囲での祭り情報があり、地域の祭りに参加した。

iii) 人間的な面と収支面の両方を踏まえ居宅介護事業所開設の検討を行なった。

②人権を守る砦となる

i) 移転後に向けて個別支援計画の様式を変更し、「意思」の項目を盛り込んだ。

ii) 策定会議や月のミーティングの中で、「意思」を確認する機会を増やした。

iii) 毎月1～2回支援についてのミーティングを行ない、現状把握、共通認識作成、支援の展開について確認を行なった。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

i) 可能な範囲で外部研修や他法人との意見交換の場に参加した。

また、内部研修の開催を行なった。

ii) 交流研修を実施した。

毎月の地域生活支援部会議や適宜の情報交換でお互いの状況についての確認を行なった。

- iii) 常勤職員は毎月、非常勤職員はその方に合わせた SV を実施した。
不定期であっても必要と思われる際は短時間であっても SV を実施した。
 - iv) 横断的な支援体制構築に向けての検討を行なった。
- ④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人
- i) 移転までの間は現在の地域資源を活用するとともに、それに代わる新しい地域資源の候補を検討した。
 - ii) 移転後は検討した地域資源の利用を開始し、良好な関係を築けるように留意した。
 - iii) 移転後に向けて自治会との相談を行なった。
移転後は近隣住民との挨拶などコミュニケーションを取るよう努めた。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- i) エフビット電気の導入を行なった。
 - ii) 移転（引っ越し）計画を建て、2 日間かけての引っ越しを達成し、引っ越し費用のみではなく、人件費としても最小限に収まるよう工夫した。
- (3) 評価
- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- i) 移転の達成に伴い、空調設備も含めた住環境は大幅に改善された。
また、賃貸物件でなく法人の所有物件になったことで、今後ご利用者の状況に合わせた住宅改修が容易になった。
衣類等の補充は個々人の状況に合わせて適宜進めており、一定数揃っている状況を維持している。
 - ii) 昨年度に引き続き夏季はかき氷や年末にクリスマス会など既存のイベントを行ない、ご利用者の笑顔が見られた。特にクリスマス会は会場の関係で 2 か所に分けて実施したが、それぞれの場所で趣向を凝らしご利用者にも満足していただける結果となった。
個々の余暇外出については移転後も内容は同じで行き先を変更し継続できている。室内余暇に関しても同じく継続実施した。
移転前はなかなか実施できなかった地域のお祭りへの参加も 2 回に 2 名ずつ参加していただき、楽しんでいる姿が見られた。
 - iii) 居宅開設に関しては、常勤職員 3 名の退職や募集をかけてもなかなか応募が無いことでグループホームの体制維持が難しく、現時点では停止している状況である。
- ②人権を守る砦となる
- i) 移転後の個別支援計画に意思の項目を盛り込んだことで、職員の意識としてご利用者の意思を考える機会が増えた。
 - ii) まだまだ意思確認を開始したところにとどまっており、次年度以降も日常的な場面からの意思確認を設定していきたい。
 - iii) 毎月のミーティングの中でそれぞれのご利用者の現状把握、共通認識作成、支

援の展開について、進捗確認や対応の統一を行ない支援の向上を図ることで豊かな生活の実現へとつなげていった。

移転後半年ほどが経過しただけなのでさらなる向上が求められる。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 前期はおおむね計画通り、外部や内部の研修に参加できたが、後期に入り職員不足が顕著となり、研修参加も激減した。その様な状況下でも候補を絞ったうえで調整を行ない参加できた外部研修もあった。復命講習までは行なえていないので次年度への積み残しとなっている。
- ii) 交流研修を1度しか実施できずこちらも次年度への積み残しとなった。定例の会議や随時行なった情報交換ではそれぞれの状況を考慮した協力体制を組み、部としての運営を視野に入れることができた。
- iii) SVに関しても後期は計画通りには行かなかったが、必要に応じて実施し支援の担保につなげたり、職員への助言であったりなど、ある程度の目的は達成できた。
- iv) お互いの状況を考慮したうえでそれぞれの事業所をしっかりと運営するために、横断的な職員体制構築は見送った。

④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 移転前からご利用者だけでなく職員も移転先近辺の情報を仕入れることで、移転後の地域資源の検討を行ない、移転後の予定にもあげることができた。
- ii) 予定どおり地域資源の活用を開始し、すぐに定着することができた。
- iii) 自治会との相談では今回の自治会参画は無かったものの、挨拶等を経て良好な関係の構築に努め始めている。今のところ近隣の方からの要望等は一切あがっていない。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) エフビット電気の導入で電気代に関しては3～4割程度の削減が行える月も出てきたが、移転に伴い生活費が大幅に変わり、まずは1年間運営したうえでのコストを出す必要が出ている。
- ii) 14名の引っ越しを業者をお願いして2日間、自分たちでも約2週間かけておこなうことでみやたと2丁目の両方に職員を配置しなくていいように計画しその通り実施した。業者をお願いしたのも大物をメインにしたことで引っ越し費用も大幅な削減につながった。

7. レジデンスなさはら

(1) 平成30年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 40歳以上の方の健康診断数値を注視し医療職と連携して健康維持の支援を組み立てる
- ii) ご利用者が、日常生活において、家事的な活動に自然に参加するなど、細やか

な「豊かさ」を感じられるよう意思決定機会を増やす

②人権を守る砦となる

- i) 平成 29 年度に構築した意思決定支援システム（ニーズ、意思から個別支援計画への流れ）を 10 名に実行する
- ii) 新たな基本的価値観（なさはら 3 ケ条等）を整備し、浸透させる
- iii) ご利用者ご本人の満足調査を検討する

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) アセスメント能力向上とネットワーク作りを目的に、他部署への人材交流を継続する
- ii) 幅広い支援の経験と人材育成を目的に、新みやたと横断的な支援体制の構築を行う
- iii) メンター制度の導入を開始し、年間で 12 名に実施する
- iv) 会議の持ち方、スタッフ間のコミュニケーションについて改めて活性化する
- v) 業務ガイドラインを上半期に作成し、職員自身が意思決定するなど、働きやすくする

④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) ご利用者が日常生活にて、地域に出て、地域資源を活用する。そして、職員がそれに対して必要な支援を行うことで、地域理解を深める
- ii) 職員が地域の方との交流の機会を検討する

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 送迎サービスを安定して実施することで利用率向上につなげる。7 月開始を目標とする
- ii) グループホームの制度改定に伴い、新たな体制整備の検討を行なう

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- i) 知的障害の方の高齢化について、真野先生の巡回相談等を活用し知識向上に努めた。また、体調面の変化に気がつくために、健康数値のベースラインを作成。ベースラインは保管し、毎年の健康診断数値と見比べ、差を把握できるようにした
女性ご利用者は、婦人科受診を行い、現状把握に努めた
- ii) ご利用者の家事スキルのアセスメント（サポートブックの活用）を取り、ご本人の持っている力を職員が把握した
- iii) 1,2 番館は、ご利用者により快適に過ごしていただけるようリビングのリニューアル案を作成した。実施は 2019 年度の予定。
3 番館は、グループホーム内での一人暮らし化をすすめた。
- iv) 旅行支援は、昨年度に引き続き、継続実施をした。

②人権を守る砦となる

- i) 平成 29 年度に構築した意思決定支援システム（ニーズ、意思から個別支援計画

- への流れ) を活用し、意思を尊重した個別支援計画作成を 10 名に実行した
- ii) 新たな基本的価値観 (なさはら 3 ヶ条等) を整備した。また、ポスターを作成し、各番館支援員室に掲示した。浸透については、年 2 回 (6 月、1 月) の振り返りチェックシートで、基本的価値観に沿った項目を整備し、振り返りを行った
 - iii) ご利用者ご本人の満足調査については、実施できなかった
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
- i) アセスメント能力向上とネットワーク作りを目的に、下記の様に他部署との人材交流を継続した
 - a 評価キットの練習、実施をふれいす Be と合同で実施した
 - d. ジョブサイトひむろとの連携会議を継続して実施した
 - e. さわらび診療所の稲垣 Dr に講師を依頼し、ひむろ、なさはら合同で精神科薬についての研修を実施した
 - f. 萩の杜へ 1 名の職員を派遣し、交流を図った
 - ii) 新みやたとの横断的な支援体制の構築できなかった
 - iii) メンター制度の導入を 4 名に行った
 - iv) 会議の持ち方、スタッフ間のコミュニケーションは、ホワイトボードミーティングを活用し、再活性化した
 - iv) 業務ガイドラインを作成し始め、職員自身が意思決定するなど、働きやすくなるように工夫を重ねた
- ④地域の全ての人たちから信頼・必要とされる法人
- i) レジデンス会議で、地域資源の情報共有を行った。例えば、余暇支援報告や、新しく開店するお店情報等を共有した
 - ii) 花壇を整備し、地域の方に喜んでいただく機会を設定した
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
- i) 送迎サービスは人員確保に至らず実施できなかった
 - ii) グループホームの制度改定に伴い、夜勤者 2 名体制を構築した
- (3) 評価
- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
- i) 健康数値一覧表を作成し、体調の異変や重度高齢化に気が付きやすいようになった
 - ii) 家事活動や意思選択の場面を増やすことができている
- ②人権を守る砦となる
- i) 意思決定支援システムの活用が始まり、より意思を尊重した支援が展開されるようになった
 - ii) 新なさはら 3 か条を作成した。結果、支援者間の支援が統一しやすくなった
 - iii) 1 名の意思決定会議を開催した
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 他部署への交流は交流研修、合同研修、連携会議にて交流を行い幅広い視点、スキルを身に付けることができた
- ii) メンターは4名に実施。目標の12名には届かなかったが、メンター制度を開始した方は、力を発揮され、支援の質の向上が確認できた
- iii) 会議の持ち方を見直し、会議で決まったことが実践できている
- iv) 余暇支援ガイドラインは完成し活用を開始している
- ④地域での全ての人たちから信頼・必要とされる法人
 - i) 地域資源の積極的活用と地域情報の共有がR会議にてできている
 - ii) 花壇を作り、交流の場を作ったが、交流までは至っていない
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 送迎サービスは介護タクシー案を検討中
 - ii) 2丁目と事業所番号を統一。効率的な人員配置となった

8. ふれいすBe通所部門

(1) 平成30年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 支援員による医療的ケアの着実な実施と対象者・ケアの更なる拡充を進める。
 - ii) 就労継続支援B型事業をメインに更なる工賃向上の実現に取り組む。
 - iii) 新規グループホームへの円滑な移行に向けて準備を進める。
- ②人権を守る砦となる
 - i) 個別支援計画書にコミュニケーション・意思決定に関する項目を設定する。
 - ii) eラーニングを活用し、法人クレドの浸透と実現を図る。
- ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) 内部研修をパッケージ化し支援者としての基本姿勢と必要な知識を獲得する。
 - ii) 法人SVの活用について仕組みを設け、事業所全体の支援力向上を図る。
 - iii) 外部研修を積極的に活用し、職員個々の学びを深める。
 - iv) 管理職による1on1を設定し、コミュニケーションの質と量を高める。
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) カフェBeのオープン10周年イベントの企画立案をおこなう。
 - ii) 生産活動等の取り組みを通じて地域との繋がりを深めていく。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 30年度の報酬改定に合わせて新たな加算を獲得する。
 - ii) 電気、ガス等の固定費削減を進める。

(2) 平成30年度の取り組み内容

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 具体的な取り組みを進めることができなかった。
 - ii) 7月に工賃規程の改訂をおこなった。また6月と3月に慰労金の支払いをおこなった。

iii) 次年度のレジデンスなさはらもちまち開設に向け、ご家族との面談や地域生活支援部等との連携を図った。

②人権を守る砦となる

i) 個別支援計画書の改訂に向けて、事業所内でプロジェクトチームを立ち上げ検討を重ねた。

ii) eラーニングの視聴および7月と3月に業務の振り返りチェックシートの配布と実施をおこなった。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

i) 年5回の内部研修を実施した。また自主的な勉強会や出張復命講習を別途開催した。

ii) 法人SVの中山清司さんに毎月訪問いただき、講義の開催やケースの相談に乗っていただいた。

iii) 職員個々の学びに応じて外部研修への参加をおこなった。

iv) 具体的な取り組みを進めることはできなかった。

④やさしさあふれる地域を耕す

i) 家族会との共催という形で10年記念事業委員会を立ち上げた。

ii) 軽作業やクリーニング等、新たな受託先の開拓をおこなった。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

i) 重度障害者支援加算の要件をクリアし、1月より加算算定をおこなった。

ii) 新電力会社との契約を結ぶことで、電気代の削減に繋がった。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) 職員体制を十分に整えることができず、具体的な進展はなかった。

ii) 就労継続支援B型の平均工賃が1万円を超えることとなり、次年度の報酬単価を引き上げることができた。

iii) 地域生活支援部やジョブサイトひむろ、各ご家庭（希望者の会）との定期的な打ち合わせや個別の聞き取り等をおこない、4月入居に向けて対応した。

②人権を守る砦となる

i) 副施設長を中心に現場職員で構成するプロジェクトチームを立ち上げ、他部署の様式も参考にしながら、具体的な改訂に向けての議論を積み上げた。

ii) eラーニングについては職員によって視聴状況にばらつきが生じた。業務の振り返りチェックシートは予定通り年2回実施することができた。

③働く人の成長とチャレンジを支える組織

i) 年5回の内部研修の他、自主的に出張（リーダー研修）の復命研修と自閉症の理解をテーマにした勉強会を各1件ずつ開催することができた。

ii) 今年度は「評価」をテーマに講義やケース相談等をおこない、日々の支援の振り返りや個々の取り組みに繋げていった。

iii) 個々のニーズや役割期待に応じて、外部研修の活用をおこなった。

- iv) 具体的な設定や枠組みを用意することができず、進展を見せられなかった。
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 大がかりなイベントではなく、家族会と共催という形で記念品の贈呈と記念植樹をおこなうことで検討を進めてきている。
 - ii) 新たに高槻市広報のポスティングや民泊のリネンクリーニング等の受託をおこなった。また職場開拓員と協力し新たな仕事開拓を進めてきた。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 強度行動障害支援者養成研修の基礎・実践を1名ずつ受講が完了し、1月より利用者5名分の重度障害者支援加算を取得することができた。
 - ii) 新電力会社（エフビット）に切り替えることにより、電気代が年間で約70万円削減することができた。

9. あんだんて

(1) 平成30年度重要実施事項

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) 地域との繋がりをつくる社会資源の開拓を進める。
 - ii) ボランティアワークやインフォーマルサービスの開拓を進める。
 - iii) 新規事業「自立生活援助」の実施を検討する。
- ②人権を守る砦となる
 - i) 計画相談・委託相談共にご利用者の意思や権利が尊重されようよう支援を進める。
 - ii) 成年後見人との連携を深め、健全な制度利用をサポートしていく。
- ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) 外部研修を積極的に活用し、職員個々の学びを深める。
 - ii) 管理職による1 on 1を設定し、健全な制度利用をサポートしていく。
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 保健所等と連携し、心理教育の導入について検討を進める。
 - ii) 「ご本人」や「ご家族」等の当事者グループの立ち上げを検討する。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 収支と業務のバランスを意識しながらサービス等利用計画の目標件数を定める。
 - ii) 丁寧な計画相談をおこない、報酬改定による新たな加算を獲得する。

(2) 平成30年度の取り組み内容

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) wish と定期的に現場会議を開催した。
 - ii) 高槻市障害者就業・生活支援センターと連携し当事者の食事会を毎月開催した。
- ②人権を守る砦となる

- i) サービス等利用計画と委託計画のバランスを取りながら、丁寧な支援を心掛けた。
 - ii) 家族会やクライアントの家族に向けての勉強会やグループホーム見学会等を開催した。
 - ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) 職員個々の学びに応じて外部研修への参加をおこなった。
 - ii) 具体的な枠組みや設定の検討をおこなった。
 - ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 高槻保健所が実施する家族心理教室の運営支援に参加した。
 - ii) 見学会やイベントを通して、当事者の声を拾っていった。
 - ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) サービス等利用計画については200件近い契約件数となっている。
 - ii) 強度行動障害支援者養成研修（基礎）を1名が受講した。
- (3) 評価
- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - i) wish との定期的な現場会議を実施し、円滑な支援のために情報共有や連携を深めた。
 - ii) 当事者の余暇活動支援として「エンジョイサークル」という名前で毎月1回、食事会を開催し、当事者間の交流をサポートした。
 - ②人権を守る砦となる
 - i) 計画相談や刑務所からの出所支援を1件おこなった。出所後すぐに精神科病院へ入院しているため地域移行支援としては算定していない。
 - ii) グループホーム見学会を2件、成年後見制度に関するイベントを3回開催し、ご家族への情報提供をおこなった。
 - ③働く人の成長とチャレンジを支える組織
 - i) 個々のニーズや役割期待に応じて、外部研修の活用をおこなった。
 - ii) 具体的な設定や枠組みの検討をおこなった。引き続き取り組みを進めていく。
 - ④やさしさあふれる地域を耕す
 - i) 保健所と連携し、家族心理教室の運営支援に参加することでノウハウを学んだ。
 - ii) 当事者や家族の声を参考にし、次年度以降の取り組みを検討した。
 - ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - i) 契約件数が200名近くとなり、新規での利用契約の受け入れはストップし委託契約で受け入れる等して対応した。
 - ii) 強度行動障害支援者養成研修の基礎は受講した。次年度は実践研修の受講を進め、加算の算定要件を満たしていく。

10. 生産活動支援部

(1) 平成30年度重要実施事項

生涯にわたる地域での暮らしの実現。

- ① 人権を守る砦となる。
- ② 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
- ③ LaLa-chocolat 店舗について、地域に溶け込む運営を目指す。
- ④ LaLa-chocolat TAKATSUKI の経営の安定を図る。

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

- ① 生涯にわたる地域での暮らしの実現。
 - ・ 法人内就労継続支援 B 型事業所の高工賃に向けた取り組みを通して、工賃規程の改定を行ない、現状に即しながらより良い工賃支給を目指した。
 - ・ 利用者のニーズや高齢・重度化にも柔軟に対応するため、法人内での事業所間移行がスムーズに行なえるよう、取り組みを進めていった。
- ② 人権を守る砦となる。
 - ・ 利用者個々の障がい特性に応じた合理的配慮と支援を行なった。
 - ・ 利用者のニーズが個別支援に反映され、ニーズに応じたプログラムを提供した。
 - ・ 権利擁護・虐待防止に関する取り組みを、定期的に行なった。(年 2 回の振り返りチェックの実施と、年 1 回の虐待防止研修)
- ③ 働く人のチャレンジと成長を支える組織。
 - ・ 定期的に S V を行ない、計画的な職員育成を図った。
 - ・ 繁忙期における残業時間を少しでも減らし、働きやすい労働環境を目指した。
- ④ LaLa-chocolat 店舗について、地域に溶け込む運営を目指す。
 - ・ 客数向上を目指し、ポイントカードシステムなどの取り組みを実施した。
 - ・ 年間販売計画を立案し、各自の役割を明確にしながら年間売上げ 2,100 万円を目指した。
- ⑤ LaLa-chocolat TAKATSUKI の経営の安定を図る。
 - ・ 毎月、収入と経費のバランスを確認し、職員間で共有していくことで、原副材料費や製造経費の削減を目指した。
 - ・ 定員充足率 100%を目指し、利用者確保を進めた。
 - ・ 2020 年 3 月で猶予期間終了となる食品表示法遵守に向けた準備を進めた。

(3) 評価

- ・今年度(2月末時点)の平均工賃(実績ベース)は、23,060 円で、昨年度比 110%の工賃支給の実現には至らなかった。
- ・利用者個々のニーズや目標を支援計画に反映させ、毎月 2 回の個別面談で着実な支援計画の進捗管理等を行なった。
- ・ e ラーニングを活用した研修を、全スタッフで実施した。
- ・各職員の個別研修計画を作成し、パティシエにはチョコレート製造研修など、役割期待に応じた研修に参加してもらった。また希望に応じたふれいす B e への事業所間交流研修などにも職員を派遣することが出来た。

- ・2月の繁忙期には、開店以来初となる月間500万円超の売上げを記録した。
- ・4月～2月の月間店舗売上実績で、昨年度を下回ったのが2ヶ月のみとなるなど、多くの月で前年を上回る売り上げを上げることが出来た。
- ・今年度新規2名のご利用者確保が出来たが、年度途中で1名のご利用者の事業変更、2月から新規ご利用者の入職など、最終の定員充足率の平均は、91%となった。

11. ジョブサイトよど・ジェイ・ブランチよど

(1) 平成30年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

【ジョブサイトよど】

- i) 職員の再編成に伴い、継続して安定した厨房内利用者支援の実施。
- ii) コロッケ店舗での多様な販売方法の検討。コロッケ弁当の販売を法人内事業所で2か所拡大する。
- iii) GH開設に向けた準備を行う。31年度開所を目指す。

【ジェイ・ブランチよど】

- i) 自主製品の販売を目指し、まずは余暇活動として和紙小物の製作を進める。
- ii) 地域で働く場をもう1拠点広げ、平均工賃1万円を目指す。
- iii) GH開設に向けた準備を行う

②人権を守る砦となる

- i) ご本人の意思を反映できる個別支援計画書に載せるに当たり、意思の引き出し方を模索する。
- ii) PECSの研修をさらに2名受講し、現場ではフェーズ1が定着してきたご利用者にはフェーズ2に進む。
- iii) リスクマネジメントに対する意識を高める。クレドの振り返りを7月と3月に実施継続する。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人内の事業所間交流研修を継続して全員実施する。
- ii) 研修計画を4月に作成しそれに基づき個々の研修を進めて行く。
- iii) 3か月に1回個別面談を実施する。(管理者⇒正職、事務職。GL⇒嘱託、パート職員)

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 地域の会合への月1回の参加と地域行事との連携。
- ii) 地域を巻き込んだイベントや啓発行事を計画的に実施する。
- iii) GH開設に向け、地域の中での理解を推進する。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

【ジョブサイトよど】【ジェイ・ブランチよど】

- i) 施設見学会の毎月開催とご利用者の利用時間の延長のための支援の強化。

- ii) サービス管理責任者、強度行動障がい支援者養成研修に最低2名は参加する。
- iii) ジョブサイトよど、ジェイ・ブランチよどの収支や定員充足率の毎月の全体共有とグループ毎の経費管理。

(2) 平成30年度の取り組み内容

①生涯にわたる地域での暮らしの実現（ジョブサイトよど）

- i) 職員の再編成に伴い、継続して安定した厨房内利用者支援の実施。
職員の入れ替わりが激しく製造を安定的に行う事と利用者支援を重点的に考えた
が、支援力のある職員が腰が悪くなったことや正職員を配置できなかったなどの
諸々の要因により更なる支援の強化はできなかった。
- ii) コロッケ店舗での多様な販売方法の検討。コロッケ弁当の販売を法人内事業所で2
か所拡大する。
コロッケ弁当の販売拡大も職員の退職などに伴い一旦コロッケ弁当を中止すること
となった。
- iii) GH開設に向けた準備を行う。31年度開所を目指す。
土地探しに難航した。地主が近隣の反対があれば売らないという条件のもと、その
土地の周辺を回ったが繁多に遭い断念。また見つかっても採光の問題で厳しかった
りと十三地区での土地探しはなかなか難しいことを実感した中、ジョブサイトよど
の隣の会社が売り出しに出ており好条件だったが、別の購入希望の人が現れ、オー
ナーがそちらに決めて叶わなかった。31年度の開所が厳しくなっている。

【ジェイ・ブランチよど】

- i) 自主製品の販売を目指し、まずは余暇活動として和紙小物の製作を進める。
和紙製品の制作をして民泊に販売などと考えていたが、教えていただける先生が事
情により断られたため中止となった。
- ii) 地域で働く場をもう1拠点広げ、平均工賃1万円を目指す。
平均工賃1万円はギリギリ達成できた。
- iii) GH開設に向けた準備を行う
準備に関してはブランチの入居希望のご利用者が食事の配慮がご病気のため必要で
あり法人の管理栄養士に相談をるところまではできた。

②人権を守る砦となる

- i) ご本人の意思を反映できる個別支援計画書に載せるに当たり、意思の引き出し方
を模索する。
絵カードや、写真、文字などの選択肢を用意して聞き取りを行った。
- ii) PECSの研修をさらに2名受講し、現場ではフェーズ1が定着してきたご利用者
にはフェーズ2に進む。
PECSの研修には予定通り2名受講した。門先生による研修も行っていただき、日々
の支援の中でPECSに取り組んだご利用者は数名いる。
- iii) リスクマネジメントに対する意識を高める。クレドの振り返りを7月と3月に実
施継続する。

クレドと事業所の振り返りチェック表を予定通り7月3月に実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 法人内の事業所間交流研修を継続して全員実施する。

正職は希望の事業所に交流研修を行った。他の事業所を見学して各自得られるものもあったようで、また事業所の中にも目を向けて振り返るチャンスにもなった。

- ii) 研修計画を4月に作成しそれに基づき個々の研修を進めて行く。

研修計画の表が完成しなかったため作成はできなかったが、それぞれ必要とされるまた、希望する研修には参加した。

- iii) 3か月に1回個別面談を実施する。(管理者⇒正職、事務職。GL⇒嘱託、パート職員)

実施した。面談の報告が上がってくるのが遅かったが、現場レベルでの面談も行ってグループごとのコミュニケーションは取れていると感じてはいる、課題解決まで至っているのかどうかはわからない。

④やさしさあふれる地域を耕す

- i) 地域の会合への月1回の参加と地域行事との連携。

会議と地域の行事には積極的に参加をした。

- ii) 地域を巻き込んだイベントや啓発行事を計画的に実施する。

よど祭りを実施した。地域の方にも参加してもらった。

- iii) GH開設に向け、地域の中での理解を推進する。

なかなか理解を得られることは難しいが、十三地域活動協議会などでは、法人の機関誌やよど新聞など啓発となるものは積極的に配布し、呼びかけたりした。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

【ジョブサイトよど】【ジェイ・ブランチよど】

- i) 施設見学会の毎月開催とご利用者の利用時間の延長のための支援の強化。

施設見学は定期で希望者があれば開催した。利用時間に関しては個々に個別支援計画に目標として設定して支援を行った。時間延長より通所が段々できない方が出てきている。こちらの支援方法も考えていかないといけない時期に来ている。

- ii) サービス管理責任者、強度行動障がい支援者養成研修に最低2名は参加する。

サービス管理責任者研修に2名、強度行動障害支援者養成研修に2名参加してもらった。

- iii) ジョブサイトよど、ジェイ・ブランチよどの収支や定員充足率の毎月の全体共有とグループ毎の経費管理。

充足率は事務職員より報告があると正職員に転送し、その後全員に下ろしてもらった。収支に関してはよど運営会議にて共有を行った。

(3) 評価

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

【ジョブサイトよど】

- i) 職員の入れ替わりが激しく弁当の販路を広げるところまで行っていない。

- ii) これも職員の入れ替わりによりしっかりとした支援体制が整っていない。
- iii) 土地探しに奔走しているがグループ用地を見つけるところまで行けていない。

【ジェイ・ブランチよど】

- i) 自主製品の製造は和紙小物に関しては実現できなかった。
- ii) 平均工賃を1万円にすることができた。
- iii) よどと同様。

②人権を守る砦となる

- i) ご利用者一人一人にあった意思の引き出し方を考えて取り組んだが、全員に実施はしていない。
- ii) 研修計画の要旨が完成しなかった。口頭で聞き取りを行い希望する研修棟に行っていたことはできた。
- iii) 個別面談を経過鶏通り行った。年間スケジュールに入れ込んで実施した。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

- i) 一部ブランチの職員は主任が抜けたり退職したりしたので延期という形をとっているが、基本他の職員は法人内の他部署への実習に行った。
- ii) PECSに取り組んでいるご利用者はフェーズ2に進んだ。
- iii) 7月と3月に法人のクレドと事業所の振り返りチェックを行った。

④地域のすべての人たちから信頼・必要とされる法人

- i) 会合に参加した。機関誌や、よど新聞などを配布した。
- ii) よど祭りを開催し、地域の方々にも足を運んでもらった。こちらからも地域のイベントには積極的に参加した。お手伝いなど地域の方と同じ役割を担った。
- iii) 啓発活動は4月の自閉症啓発デーには十三西側の喜八洲さんのご協力のもと、見返りトミー君の銅像を青くし、銅像前で啓発のためのティッシュ配りを行った。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

- i) 施設見学会を行い、ブランチで1名利用につながった。
- ii) サービス管理責任者と強度行動障害支援者養成研修はそれぞれ2名ずつ参加した。
- iii) 定員充足率の共有と収支の共有をよど運営会議などで行った。

1 2. ジョブジョイントおおさか・ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

(1) 平成30年度重要実施事項

①生涯にわたる地域での暮らしの実現

- ・プログラムを現状整理し、利用者ニーズにフィットした新規プログラムの開発
- ・自立訓練の事業内容を見直し、ねらいと目的を再構築する
- ・利用者アンケートを実施し、利用者の声を反映したプログラムの充実を図る
- ・就労支援実績の数値目標の達成（就職20名、職場実習90件以上）
- ・新設の就労定着支援事業の実施運営と定着支援・雇用の質の向上
- ・働くチカラPROJECTの継続実施とプログラム内容の深化を図る

②人権を守る砦となる

- ・利用者ニーズを事業所全体で大切できるよう定期面談の陪席の充実
- ・行動指針の策定と事業所内の浸透を目指す
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・管理者による正職員を対象にした 1on1(個別面談)のこまめな実施(月 1~2 回)
 - ・正職員の希望に合わせた星明ゼミの継続開催(月 1~2 回の開催)
 - ・全スタッフの自主的で積極的な研修参加の推奨
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - ・個々の就労ニーズにマッチングした企業開拓の強化と企業支援の質の向上
 - ・就労ネットと協働で高槻地域の企業を対象に意見交換会の定期開催(年 3 回)
 - ・JJ おおさか主催の「実践報告会(仮称)」の開催
 - ・JJ おおさか第三拠点の開設準備を目的としたプロジェクトチームの発足
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - ・財務や社会保障制度等における勉強会(ゼミ)の実施
 - ・大学、福祉事業所、企業等へのコンサルによる 150 万/年の収入増を目指す

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現
 - ・職員間でプログラムを現状整理し、新規プログラムの開発を検討した。
 - ・自立訓練の事業内容を見直し、ねらいと目的を再確認した。
 - ・利用者アンケートを実施した。
 - ・就労支援実績は就職 22 名、職場実習 118 件と、目標数値を大きく上回った。
 - ・平成 30 年 10 月より新設の就労定着支援事業の実施運営を開始した。
 - ・株式会社エンカレッジと協働で働くチカラ PROJECT を継続実施した。
- ②人権を守る砦となる
 - ・利用者ニーズを事業所全体で大切できるよう定期面談の陪席を行なった。
 - ・行動指針の策定と事業所内の浸透を目指した。
- ③働く人のチャレンジと成長を支える組織
 - ・管理者による正職員を対象にした 1on1(個別面談)を定期実施した。
 - ・正職員の希望に合わせた星明ゼミを継続的に開催した。
- ④やさしさあふれる地域を耕す
 - ・個々の就労ニーズにマッチングした企業開拓の強化に取り組んだ。
 - ・就労ネットと協働で高槻地域の企業を対象に意見交換会の定期開催をした。
 - ・平成 31 年 1 月に JJ おおさか主催の「実践報告会」を開催した。
 - ・JJ おおさか第三拠点の開設準備を目的としたプロジェクトチームを発足した。
- ⑤健全でタフな財務基盤の構築
 - ・大学、福祉事業所、企業等へのコンサルを定期実施した。

(3) 評価

- ①生涯にわたる地域での暮らしの実現 1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現
プログラムの現状整理や自立訓練の見直しは、一定の成果はあったものの、次年度

も継続して実施していきたい。就労支援の実績は数値目標を達成でき、就職者は 22 名であった。30 年度より定着支援事業を開始。手続きが不慣れなため運営効率を上げていきたい。働くチカラ PROJECT においては利用定員を上回る学生の申し込みがあり、プログラムも内容更新して実施できた。

②人権を守る砦となる

JJ 独自のクレドを作成。パートスタッフ含む全スタッフが順番に終礼でクレドに沿って意見を述べるなどクレドの浸透に取り組むことができた。

③働く人のチャレンジと成長を支える組織

管理者と正職員で定期的な 1on1 を実施。ゼミや内部研修なども定期的に行い、教育環境の機会提供、人材育成に取り組むことができた。

④やさしさあふれる地域を耕す

就労ネットとともに企業同士の意見交換会の定期的に行うことができた。

また、定員 100 を超える申し込みがあった JJ おおさか主催の実践報告会の実施では、多くの方にご参加いただき、アンケートも満足度の高い意見をいただくことができた。

⑤健全でタフな財務基盤の構築

財務に関する勉強会は実施できず、次年度は実施を検討したい。

コンサルや研修講師などの活動は広がってきており、収入増にもつながることができた。

13. アクトおおさか

(1) 平成 30 年度重要実施事項

- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
- ②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく
- ③生涯にわたる継続したサポートの実現
- ④職員の人材育成

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

- ①発達障がいに対する地域の支援力の強化
 - i) 地域支援マネージャー事業の実施 ～身近な地域での支援のために～
 - a) 地域での支援体制整備に向けて、市町村のニーズ把握や自立支援協議会などへの参画
 - b) 地域が抱えるケースへの S V (対応困難ケース、触法ケース等)
 - c) 連携強化 [医師、就労支援機関、教育機関、府内療育 6 拠点、司法関係・・・等]
 - ii) 公開講座の実施による啓発
 - iii) 家族支援の充実 (発達障害団体ネットワークへの参加及びペアレント・メンター事業の実施)
 - iv) 地域の支援機関との連携強化と人材育成

②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく

i) 直接支援ケースを通じた支援機関との地道な連携

ii) 既存のサービスにつながりにくい人たちへの支援のあり方を継続して模索する

③生涯にわたる継続したサポートの実現

i) 行政、福祉、保健・医療、司法、教育機関との組織的な連携強化を目指し、発達障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する

④職員の人材育成

i) アセスメントのスキルアップ（個別ケース及び地域アセスメント）および、外部専門家によるSVの活用

ii) 相談支援のノウハウを法人内に広げて行く（他部署の研修受け入れを継続実施）

(3) 評価

①発達障がいに対する地域の支援力の強化

i) 地域支援マネージャー事業の実施

a) 地域での支援体制整備に向けて、市町村のニーズ把握や自立支援協議会などへの参画地域支援マネージャー事業で、以下の10市町村に訪問し、自立支援協議会等と共同で研修等を実施した。

訪問した市町村：東大阪、豊中市、高槻市、八尾市、岸和田市、和泉市、羽曳野市、阪南市・岬町、太子町、能勢町

訪問回数：延73回

参加機関：延べ608機関

参加者：延べ1122名

b) 地域が抱えるケースへのSV（対応困難ケース、触法ケース等）

相談支援に関する機関コンサルテーション：294件

就労支援に関する機関コンサルテーション：23件

c) 連携強化〔医師、就労支援機関、教育機関、府内療育6拠点、司法関係・・・等〕

医療・保健・福祉・教育・労働等の関係機関の職員等に対して、発達障がいの理解と支援のための研修会を実施した。

実施回数：計48回 参加者数：延べ1,969人

ii) 公開講座の実施による啓発

a) 平成30年度は支援者対象公開講座として「発達障がいの理解と家族支援」をテーマに家族支援の重要性とペアレント・メンター事業について周知を実施した。行政をはじめ、37名の参加があった。

b) 府民及び支援者対象講座としては、「発達障がい児の早期療育および家族支援の重要性と今後への期待—大阪府発達障がい児療育拠点事業の予後調査の結果を踏まえて—」をテーマに講武庫川女子大学 教授 新澤 伸子氏に講演していただいたあと、大阪府内の3ヶ所の療育拠点事業所から実践報告していただいた。

早期発見と家族支援の重要性をふまえた上で、療育拠点事業所の実践を発信することで、療育拠点事業の重要性について確認できた。行政、保健センター、支援機関、当事者ご家族など294名の参加があった。

iii) 家族支援の充実（団体ネットワークへの参加及びペアレント・メンター事業の実施）

a) 発達障害団体ネットワーク会議は3回実施され、アクトおおさかは事務局として参加した。

ペアレント・メンター事業に関して、アクトおおさかでは事務局機能を担い、依頼元の市町村と派遣メンターの調整を実施した。

目標としていた派遣回数を達成し、多くの参加者があった。また、これまで活動経験のない方新たに7名に活動に参加していただいた。

b) 大阪府ペアレント・メンター事業登録メンターを対象にフォローアップ研修・スキルアップ研修を実施した。

フォローアップ研修では、行政の最新情報と実技を交えて自分自身の体験を語るこの意味や方法について、グループワークや実技を交えながら研修した。

スキルアップ研修では、メンター活動を安心して行うことについて研修した。

両研修ともに14名の登録メンターの参加があった。

iv) 地域の支援機関との連携強化と人材育成

i) これまでのコンサルテーション事業や個別ケースを通じて顔の見える関係がある地域の支援者との更なる連携強化を図ると共に、地域の支援者の相談支援スキル向上を目指して、小規模の連続講座として、「地域支援を考える会」を実施した。

また、これまでの事業の経緯から、支援経験の少ない支援者と、支援経験の多い支援者では、研修のニーズが違うことが考えられた。そのため、平成30年度は、支援経験の少ない支援者と多い支援者に分けて研修事業を実施した。

a) 「ルーキーのための3回連続講座」

定員は30名とし、これまでのコンサルテーション事業や個別ケースを通じて連携したことがある支援機関の職員で、基本的には実務経験が約1～3年の支援者を対象とした。ただし、まだまだ発達障がい児・者の支援に自信がなかったり、不慣れだと感じたりしている実務経験が3年以上の支援者の応募も受けつけた。

発達障がい支援に関する基礎的な講座を3回実施し、69名の参加があった。

b) 「発達障がい児者サポートプロジェクト（泉州・南河内版）“地域コミュニティーの中心的支援者”のためのオーダーメイド式研修会～」

サービスや資源が限られており、大阪都心までの距離が遠いなど大阪南部特有の悩みを抱えつつ、発達障がいという見えない障がい特性から起因する支援上の困難さに日々直面している支援者にとって、今何が自分たちの相談スキルを高めるために必要なのか、今後につなげられる対策は何かを一緒に考えていける場を開催する。そしてベテラン層であり地域で中心となって相談支援を行っている支援者との議論する場を設定した。

泉州・南河内地域で相談支援に従事する支援者8名と4回のミーティングを実施した。ミーティングの中で、市町村の枠を越えた課題の共有や地域へのアプローチの方策について議論、情報共有できた。

②今まで制度の狭間で十分なサービスを受けてこられなかった人たちへの質の高いサービスを創造していく

i) 直接支援ケースを通じた支援機関との地道な連携

発達障がい児(者)またはそのご家族等からの相談に対する助言および情報提供件数
実支援人員 964人 延支援件数 1,839件

個別支援のための調整会議

延実施回数 8回 延参加機関数 15機関

ii) 既存のサービスにつながりにくい人たちへの支援のあり方を継続して模索する

グループミーティング(発達障がいのある方の当事者グループ)

発達障がいの特性(客観視の難しさ、感覚鈍麻)も影響して、自身の不調に気づきにくく、心身の調子を崩してから初めて不調に気付く方も多い。そのため、今年度はストレスマネジメントに着目し、自身や他者のストレスマネジメント方法の意見交換を行い、様々な方法を体験しながら自己理解を深めていくこととした。また、他者との意見交換を通して、共感を得たり、他者の実践から自身に合ったストレスマネジメントの方法を見つけたりすることで、参加者のエンパワメントにつなげることとした。アクトおおさかの相談者の中から、参加者を募り計6名の応募があった。

プログラムは、ストレスマネジメントの講義、方法や実際の体験、振り返りなど全5回を実施した。プログラムを通じてPOMS(簡易版)を使って、参加者の状況を調査した結果、ストレスマネジメントのプログラム参加後は【緊張-不安】得点が減り、【活気-活力】得点が増えたという結果となった。また、参加者の振り返りでは、プログラムを通じて体験した方法を実際の生活に取り入れている方もいるなど、参加者にとって有意義なプログラムとなった。

③生涯にわたる継続したサポートの実現

i) 行政、福祉、保健・医療、司法、教育機関との組織的な連携強化を目指し、発達障がい者支援センター連絡協議会を継続実施する

平成30年度の発達障がい者連絡協議会では、「発達障がいの当事者の参画」を進めることをテーマに取り組み、昨年度の家族会代表者の参画に続き、今年度は当事者代表としてNPO法人DDAC発達障害をもつ大人の会代表広野ゆい氏に委員として参画いただいた。年2回実施し、延べ参加機関29機関となった。

④職員の人材育成

i) アセスメントのスキルアップ(個別ケース及び地域アセスメント)および、外部専門家によるSVの活用

外部専門家を招いての内部研修、ケース検討会を以下の通り実施した。

テーマ：発達障がいを持つ方の触法ケースの対応について

講師：山口県立大学 教授 水藤昌彦氏

- ii) 相談支援のノウハウを法人内に広げて行く（他部署の研修受け入れを継続実施）
今年度は実施できず

1 4. 児童発達支援部

(1) 平成 30 年度重要実施事項

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

- (1) 平成 30 年度の公募準備と定員数に合わせ事業所運営や職員体制の見直しを図る
(an/az)
- (2) 療育終了児を対象にしたグループ療育（4 人 G× 1 クール）を will でモデル実施し、31 年度のグループ療育開始に向けて検討を図る。
- (3) 高校卒業後の福祉・医療・高等教育機関への移行システムの構築に向けた検討と法人内事業所
への移行（相談支援、就労支援、生活介護など）に向け連携を強化し進める。
- (4) 職員対象にペアレント・トレーニング研修を実施し保護者支援の向上と次年度のリーダー養成
を図る。また、実費でのモデル実施（十三地区予定）についても検討する

2. 人権を守る砦となる

- (1) 利用者参加型 PASSO 個別支援計画面談や自己決定支援をモデルに低学年の個別支援計画の自己選択・意思決定の方法を評価し共有する
- (2) PECS の研修受講（2 名）や部内の人材育成を通して、コミュニケーション支援の質を深める
- (3) 部内における「権利擁護虐待防止委員会」の具体的な活動計画を 4 月に立案し
実行する

3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織

- (1) 部内会議の目的や役割・SV ラインの再編と明確化により業務管理の効率化と人材育成を図る
- (2) e-ラーニング活用と部内職員の研修計画、個別の目標に基づく系統的な人材育成を図る。
- (3) 実地指導前のチェックやサービス管理を管理職・サビ管・事務職員でマネジメントの定着化

4. やさしさあふれる地域を耕す

- (1) 委託事業の巡回相談（児発・放デイ・園や学校）を行うことにより、発達障がい
の支援を組織的に構築する。
- (2) 31 年度 地域に向けて支援の実際を発信する方法について検討を図る

5. 健全でタフな財務基盤の構築

- (1) 予算の進捗管理の徹底とサービス向上を伴う新事業の開拓と検討
- (2) 専門性のノウハウと行政の委託事業を活用し、人材育成と収支面（+100 万）
の改善を図る

(2) 平成 30 年度の取り組み内容

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

(1) 平成 30 年度の公募準備と定員数に合わせ事業所運営や職員体制の見直しを図る (an/az)

- ・大阪市及び法人内において協議を重ねた経緯もあり、31 年度の定員については法人の意向通り

未就学児（幼児）40 名、学齢児（20 名）の公募となり法人も公募に申請し受理される。但し、az が 40 名から 60 名に増えるに当たり内装工事を 3 月末に実施する。

(2) 療育終了児を対象にしたグループ療育（4 人 G×1 クール）を will でモデル実施し、31 年度のグループ療育開始に向けて検討を図る。

- ・8 月より計 4 回実施。対象者は 4 名で年齢は 1 年生 1 名、2 年生 1 名、4 年生 2 名で知的に遅れの無い ASD 児。実施時間は 70 分、集団活動はお買い物ごっこや宝探し、クッキングなどで集団活動の間に自立課題を実施した。グループ療育の体験と評価の視点、療育内容の検討等を目的に、支援スタッフは部内の各事業所のサビ管が担当し次年度以降の各事業所でのグループ療育実施を目指して取り組んだ。次年度は拠点である will・Link で実施する。

(3) 高校卒業後の福祉・医療・高等教育機関への移行システムの構築に向けた検討と法人内事業所への移行（相談支援、就労支援、生活介護など）に向け連携を強化し進める。

- ・高校 3 年生について 5 月に計画が立った後、夏休みの就労準備プログラム参加後の相談で進路先の希望と進捗確認をし、11 月の後期個別支援計画面談で保護者に移行支援会議、引継ぎ書の希望を先方に確認した。希望が上がれば相談支援事業所へも連絡し調整依頼。会議開催がなければ引継ぎ書で移行した。本人、保護者の意思を確認し、進路が決定したら、①高校生活支援カードを大学・専門学校版にして作成②個別支援計画（後期、評価込み）③後期モニタリング を持参予定。一方では、保護者の本人理解が進まない場合、本人の自己理解や生活力を育てるほうが有効であった。また、PASSO 終了児（20 歳以降）で地域移行が困難なケースについては、アクトに引継ぎを行う事としたが、保護者のニーズはあっても利用者にニーズがない場合の対応が難しい

(4) 職員対象にペアレント・トレーニング研修を実施し保護者支援の向上と次年度のリーダー養成を図る。また、実費でのモデル実施（十三地区予定）についても検討する

- ・ペアトレについても再検討したが、有効性は確認できつつも今年度は体制の都合もあり実施に至らなかった。

2. 人権を守る砦となる

(1) 利用者参加型 PASSO 個別支援計画面談や自己決定支援をモデルに低学年の個別支援計画の自己選択・意思決定の方法を評価し共有する。

- ・ an、 az、 will、 Link の事業所において、各事業所で小学生のご利用者 2 名～10 名程度の方に、個別支援計画をカード型にして分類する・温度計のイラストにカードを貼る・順番を記入する・イラストを加筆し内容のイメージが持てるようになるなど、個々の利用者様が分かる形態に工夫し、ご本人のやってみたい目標や、頑張りたい目標について、自己決定・自己選択していただく事に取り組んだ。小学生の方は、目標の自己決定をサポートする事で、自己選択できる様子が見られたが、幼児にはどのように理解していただき、自己決定していただくかや、知的に重度のご利用者にはどのように意思決定をしていただくのかについては、課題が残った。
- (2) PECS の研修受講 (2 名) や部内の人材育成を通して、コミュニケーション支援の質を深める
- ・ 職員の育成として、PECS 基礎研修を 2 名受講し、療育の実践に生かした。
 - ・ 門先生の SV 研修を通して、事例検討を行い、表出コミュニケーションや PECS の支援の方法についてより実践的に深めることができ、個々の療育に反映することができた。
 - ・ 各事業所において、療育児の自発的なコミュニケーションを知るために、コミュニケーションサンプルを取り、評価する力を身に付けた。そこから、コミュニケーションの質を高めるために個別に応じた支援目標を検討する機会を作った。
- (3) 部内における「権利擁護虐待防止委員会」の具体的な活動計画を 4 月に立案し実行する
- ・ クレド及び職員行動チェックリストの実施。
3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織
- (1) 部内会議の目的や役割・SV ラインの再編と明確化により業務管理の効率化と人材育成を図る
- ・ 部内の収支および組織体制や会議等の持ち方、SV ライン等々の見直しを図るため、管理職と関原氏が経営会議に参加し改善策を検討する。31 年度は収支や業務内容、職員体制等の整理から組織ラインを大きく変更し、各事業所のサビ管がセンター長を担うこととなった。
- (2) e-ラーニング活用と部内職員の研修計画、個別の目標に基づく系統的な人材育成を図る。
- ・ e-ラーニングは職員に周知し受講を勧めて一定の研修効果はあった。個別の研修計画は各サビ管や管理者とも人事考課面談時に目標を決めて SV 面談時において進捗管理を行うと共に長期的なスパンにおける系統的な人材育成計画とまでには至っていない。
- (3) 実地指導前のチェックやサービス管理を管理職・サビ管・事務職員でマネジメントの定着化
- 各事業所 (大阪地区) に副部長と嘱託事務員が訪問し、前年度にチェックした項

目の更新及び改善がされているか、実地指導前チェックと事業所評価（管理面、環境・設備面、療育の質など）を行った。各事業所の非常勤の事務職員とサビ管と一緒に確認できたことで、事業所内で役割分担が可能となった。2月には再評価の日程を設定し、未整備の箇所は事業所会議で確認をした。また、加算や変更申請の方法を新サビ管で確認及び職員の資格更新については、マイフェイスシートを毎年管理職に出すこととした。

4. やさしさあふれる地域を耕す

(1) 委託事業の巡回相談（児発・放デイ・園や学校）を行うことにより、発達障がい支援を組織的に構築する。

・担当者による教育委員会への巡回、大阪府委託の通所支援事業者育成事業の研修や巡回、淀川区や東淀川区委託事業の発達障がい関連の研修や親子講座等々は実施できて、一部の職員が人材育成を兼ねて同行する機会があったが、巡回支援を組織的に構築するまでには至らなかった。

(2) 31年度 地域に向けて支援の実際を発信する方法について検討を図る

・支援のノウハウなどを「すぎの子発達通信」を通してHP発信することはできている。公開講座の開催について前向きに検討するに留まる。

5. 健全でタフな財務基盤の構築

(1) 予算の進捗管理の徹底とサービス向上を伴う新事業の開拓と検討

・毎月の地区会議の中で各サビ管が利用率の報告を行い、サービス向上と収支の観点から共有と検討を図った。現状は個別療育の1対1体制であるが、複数の療育児の療育（グループ療育）のモデル実施を行い31年度はwillとLinkで実施することになった。大幅な収支改善には至らないが今後につながるスタートである。willとLink、an(よどと兼用)で複合機のサービス内容を見直しリース契約業者を変更に伴い、ランニングコストを見直した。

(3) 評価

1. 生涯にわたる地域での暮らしの実現

i) anとazの利用定員が60名と決定したことで、職員体制や収支面が一定した。

ii) 31年度グループ療育をwillとLinkで実施する事が決定した。

iii) 法人内の事業所や地域の就労移行支援事業所、就労継続B型事業所、生活介護事業所へは移行支援会議の開催や文書や写真による引継ぎ書による移行支援が定着してきた。専門学校や大学については移行するケース数が少ない事もあり移行支援はできていない。企業就労については、就労・生活支援センターとの連携ができたケースがあった事は成果である。

iv) 有効性は確認しつつも、今年度は実施に至らなかった。

2. 人権を守る砦となる

i) 保護者のみならず、療育児やご本人からの意思を確認する機会を作ったことで、ご本人は何を望んでいるか把握する機会にも繋がった。個々に合わせて、どう意思確認をとっていけばいいかは引き続き課題である。

- ii) コミュニケーション支援における質の向上を目指し、PECS 研修の受講、門先生のSV研修を通して学びを得ることができ、実践に生かす機会へと繋がった。
 - iii) クレドと職員行動チェックリストを7月に実施した。クレドについては、eラーニングからの学びもあり、昨年度に比べると意識があがった。
3. 働く人のチャレンジと成長を支える組織
- i) 管理職は経営会議で収支の検討を行いつつ、サビ管からは組織改善の希望が上がり、半年をかけて話し合い31年度は大幅な改編でラインを理事長直結にし、各事業所サビ管がセンター長になることになった。
 - ii) eラーニング、部内研修ともに計画通り実行できた。個人の研修計画は、今年初めて「職務レベルチェックリスト」から自身の評価を行い、サビ管とのSV面談のもと、「個別の目標」を書面にすることでサビ管と現場職員が目標を共有しやすくなった。それらをもとに「個人研修計画」を作成し計画通りに人材育成ができるように努めた。作成する書面が多く取捨選択の必要がある。
 - iii) 大阪地区においては、管理職が事務員とともに各事業所に訪問し、サビ管、事業所の事務員と実地指導の前のチェック、事業所内の環境面、管理面、療育内容などをチェックしフィードバックを行った。2月に未整備部分の確認と再評価をするという流れができ、1年で2回訪問し複数人で確認する事ができたことで現場職員への周知や意識付けのきっかけになった。
4. やさしさあふれる地域を耕す
- i) 委託事業の巡回相談は予定通り実施できたが、一部の職員によるものであり、組織的に構築するまでには至っていない。
 - ii) 「すぎの子発達通信」をHPにあげることで、支援のノウハウを地域に向けて発信できている。来年度の公開講座は、実施に向け検討を図る。
5. 健全でタフな財務基盤の構築
- i) 毎月の地区会議で利用率報告や多額な支出などを確認することで、地域全体で利用者や収支状況の共有が図れた。
 - ii) 複合機のリース契約の業者を変更したことで、サービス向上とランニングコストによる経費削減が図れた。

II. 各組織・事業の実施報告

1. 法人本部

(1) 理事評議員会

理 評	開催日	決 議 事 項	その他の事項
第 114 回	平成30年 5月22日	第1号議案 定款変更の件 第2号議案 規程類新設の件 第3号議案 (仮称)レジデンスなさはらもとまち建設並びに開設の件	①平成30年NHK赤い羽根共同募金の分配金について ②(仮称)レジデンスなさはらもとま

			<p>第4号議案 (仮称) レジデンスなさはらもとまち建設にともなう設計・監理業者の選定の件</p> <p>第5号議案 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件</p> <p>第6号議案 借入に伴う担保設定の件</p> <p>第7号議案 平成29年度 事業報告承認の件</p> <p>第8号議案 平成29年度 決算承認の件</p> <p>第9号議案 平成29年度 監事監査報告の件</p>	<p>ち建設にともなう入札に係る理事会日程について</p>
第65回	6月3日	<p>第1号議案 定款変更の件</p> <p>第2号議案 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件</p> <p>第3号議案 三菱UFJ銀行からの借入の件</p> <p>第4号議案 借入に伴う担保設定の件</p> <p>第5号議案 平成29年度 事業報告承認の件</p> <p>第6号議案 平成29年度 決算承認の件</p> <p>第7号議案 平成29年度 監事監査報告の件</p> <p>第8号議案 平成30年度 事業計画(案)の件</p> <p>第9号議案 平成30年度 予算(案)の件</p>	<p>①来年度評議員会予定について</p>	
第115回	7月2日	<p>第1号議案 (仮称) レジデンスなさはらもとまち新グループホームの入札と建設スケジュールの件</p> <p>第2号議案 (仮称) レジデンスなさはらもとまち新グループホームの建設に係る公告事項の件</p>		
第	7月27日	第1号議案 (仮称) レジデンスなさは		

116 回			らもとまち新グループホームの新築工事入札参加業者の決定並びに現場説明要項の決定の件	
第 117 回	8月1日	第1号議案 第2号議案 第3号議案	定款変更の件 規程類の改正の件 (仮称)レジデンスなさはらもとまち新グループホームの新築建設工事に係る予定価格の決定の件	①事業計画、予算進捗状況について ②コラボセミナーについて
第 118 回	9月3日	第1号議案 第2号議案	(仮称)レジデンスなさはらもとまち1番館、2番館の新築工事請負契約に関する件 独立行政法人福祉医療機構からの借入金額変更の件	
第 119 回	11月13日	第1号議案 第2号議案 第3号議案	豊中市児童発達支援事業等業務受託の件 平成30年度補正予算案の件 事業計画進捗状況の件	
第 120 回	平成31年 3月26日	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 第8号議案 第9号議案	新事業開始および定款変更の件 法人組織再編の件 部長人事の件 諸規則、規程類の改正の件 寄付金受領及び施設整備等積立の件 借入に伴う担保設定の件 平成31年度事業計画(案)の件 平成31年度予算(案)の件 定時評議員会開催の件	①中期計画進捗状況について

(2) 職員定期健康診断

健診内容：年齢35歳以上の社会保険加入者は「生活習慣病予防健診」を受診。

上記以外の職員は「一般健診」を受診し、35歳および40歳以上は「心電図」もあ

わせて受診。

【高槻地区事業所】

日程：平成30年10月1日から平成31年1月29日まで

場所：愛仁会 総合健康センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員238名。

【十三地区事業所】

日程：平成30年10月1日から平成31年12月6日まで

場所：医療法人健昌会 淀川健康管理センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員43名。

【枚方地区事業所】

日程：平成30年9月10日から10月4日まで

場所：医療法人 敬節クリニック

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員5名。

【長居地区事業所】

日程：平成30年9月8日から9月27日まで

場所：住吉民主診療所

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員3名。

【内本町地区事業所】

日程：平成30年10月11日から11月15日まで

場所：橘甲会 大阪予防医学健診センター

健診対象者：週あたり20時間以上勤務の職員6名。

(3) 高槻地域生活総合支援センター会議

①目的

- i) 第4次中期計画の具体案の検討
- ii) 第4次中期計画の進捗管理とまとめ

②構成メンバー

- ・ 萩の杜 勝部真一郎（施設長）、竹内恒（副施設長）
- ・ ジョブサイトひむろ 森田耕平（施設長）
- ・ ぷれいすBe 下裕幸（施設長）、奥平健正（副施設長）
- ・ 児童発達支援部 谷岡とし子（部長）、古東千鶴（課長）
- ・ 地域生活支援部 平野貴久（部長）、原田智弘（副部長）
伊名岡宏（副部長）
- ・ 生産活動支援部 木戸貴之（部長）
- ・ 医療連携推進室 小林哲理（室長）

③検討内容

- i) 第4次中期計画の進捗管理
 - ・ 4月～8月にかけては進捗管理を行なう。
- ii) 第4次中期計画の振り返りと検討

- ・9月～1月に振りかえりを実施し、2月は後半3か年の計画の検討。

(4) 大阪発達障がい総合支援センター会議

①目的

大阪発達障がい総合支援センターの各事業所における管理運営についての協議

②構成メンバー

- ・アクトおおさか 柳屋 美香 山根 和史
 - ・ジョブサイトよど 田端 たまみ
 - ・ジョブジョイントおおさか 星明 聡志
 - ・児童発達支援部 谷岡とし子 大澤 佳世子
 - ・総務部 佐々木 寛昭
- 以上 7名

③検討内容

- i) 第4次中期計画に基づく十三地区の進捗管理
 - a. 主任主体の研修検討と実施について
 - b. 人材育成とSV体制について
 - c. 第4次中期計画のモニタリングと計画修正について
- ii) 十三地区のGHの立ち上げ準備について
- iii) 事業所間交流について
- iv) 自閉症啓発デーイベントについて

④平成31年度検討課題

- ・第4次中期計画の取り組み
- ・事業所間交流

(5) 医療職会議（4回開催）

各施設の医療に関わる情報交換と疾病予防活動の検討を行う。

- ① 熱中症の予防対策
- ② 感染症（0-157）の予防対策
- ③ インフルエンザ・ノロウィルスの予防対策
- ④ 医療同意
- ⑤ 真野先生巡回検討、今年度会議振返りと来年度の計画

(6) 権利擁護・虐待防止委員会

①目的

- ・第4次中期計画「人権を守る砦となる」の遂行
- ・平成30年度権利擁護虐待防止計画（法人全体、各部）の遂行と進捗管理
- ・権利擁護虐待防止クレドの浸透
- ・表出コミュニケーション支援の実施

②平成30年度権利擁護虐待防止責任者および委員

部署名	責任者	委員
萩の杜	竹内 恒	勝部 真一郎
グループホームみやた	原田 智弘	

レジデンスなさはら	伊名岡 宏	
ジョブサイトひむろ	森田 耕平	
ふれいす Be	奥平 健正	下 裕幸
ジョブサイトよど・ジェイ・ランチよど	水口 真奈	田端 たまみ
ジョブジョイントおおさか	星明 聡志	
生産活動支援部	木戸 貴之	
児童発達支援部	谷岡 とし子	古東 千鶴
アクトおおさか	山根 和史	柳屋 美香
担当理事	平野 貴久	

③平成 30 年度委員会経過および検討内容

▼第 1 回定例会 4 月 13 日（金）8 名参加 ・各部進捗・30 年度権利擁護虐待防止計画の確認・e-ラーニング視聴の件
※6 月末を目標に全ての部署で e-ラーニング視聴
▼第 2 回定例会 6 月 8 日（金）16 名参加 ・各部進捗 ・e-ラーニング視聴状況確認 ・全ての部署でクレド振り返りチェックの実施確認
※7 月に全ての部署でクレド振り返りチェック配布→集計を行う
▼第 3 回定例会 8 月 10 日（木）15 名参加 ・クレド振り返りチェック集計確認 ・各部進捗確認
▼第 4 回 定例会 10 月 26 日（金）10 名参加 ・クレド振り返りアンケート結果から e-ラーニング視聴の効果測定 ・各部進捗確認
▼第 5 回定例会 12 月 14 日（金）11 名参加 ・各部進捗確認
▼第 6 回定例会 2 月 8 日（金）13 名参加 ・各部進捗確認 ・平成 31 年度権利擁護虐待防止計画策定の確認

(7) 杉の子農園プロジェクト

① 平成 30 年度の取り組み内容

- i) 10 月 19 日（水）に、第 7 回杉の子農園収穫祭を開催した。今回は夏の酷暑と台風の影響のため、農作物が不作で、規模を縮小して、農園の活動を手伝っていただいているご利用者と職員と周囲の農園の方々での開催とした。
- ii) ジョブサイトひむろの高槻市役所での「たかつき〇まるしえ」の出店にあわせて、収穫物を出品することで、法人関係者だけでなく地域の方々へ、広く知ってもらえる機会を設けた。
- iii) 大阪知的障害児者サポート協会の助成事業で杉の子農園収穫祭に対して、100,000 円の助成金をもらうことで、プロジェクトの収支の改善を行なった。
- iv) 定期的に農園担当者会議を行ない、各事業所と農園の取り組み、収穫祭の準

備、振り返りを行なった

② 杉の子農園プロジェクト 構成メンバー (11名)

萩の杜 竹内恒 (プロジェクトリーダー) 久保友圭子
 アドバイザー 沖本卓郎
 ふれいすBe 奥平健正 小路裕章
 地域生活支援部 藤野清
 医療連携推進室室長 小林哲理 (作業療法士)
 生産活動支援部 木戸貴之
 ジョブサイトひむろ 森田耕平 中原智美
 杉の子農園実務職員 楠目守

③ まとめ

- i) 今年度も、「地域に生きる」の実践モデルの一つとして、休憩所を地域の方々に活用していただきながら、ご利用者や職員、ご家族とも交流されるなど、コミュニティの場としての機能を果たすことが出来た。また事業所の協力を得ながら、地域の方々に杉の子農園を知ってもらえる機会を設けることができた。
- ii) 今年度は、大阪知的障害者サポート協会からの助成を受けることで、収穫祭の費用だけでなく、農園にかかる購入費用 (種や用具など) も含めた支出を、農作物の売り上げと助成金による収入で、執り行うことができた。
- iii) 農園収穫祭においては、来年度も平成 31 年 10 月 29 日 (火) の開催とする。今後も継続的に行っていききたい。今回人数を抑えることでバランスのとれた収穫祭を取り行なう事が出来た。一方で収穫物の不足のためご家族が参加できないことになった。開催日や時間帯、場所などご利用者の参加と交流のバランスを考えながら、今後どのような形で開催すればよいかを検討していききたい。

(8) 法人全体研修会

研修日	研修内容	講師
平成 30 年 4 月 21 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度理事長方針の発表 ・各事業所の事業方針の発表 ・資格取得表彰 ・業務貢献表彰 ・施設コンサルティング事業の報告 講演&シンポジウム 	松上理事長 各部長 総務部 社会福祉法人 来島会 支援係長 西村 潤 氏 社会福祉法人 はる 理事長 福島 龍三郎 氏
7 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> ・業務貢献表彰事例発表 	該当者
10 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・「自閉症児者の生活の質を保障する -Quality of Life for Individual with ASD」 	GHA 最高経営責任者 Dawn Allen 氏 チープイノベーションオフ

		イサー Janet Banks 氏 通訳： 山口県立大学 教授 水藤昌彦 氏
平成 31 年 2 月 16 日	・『看取り視察研修（長野県かりがね福祉会 様視察研修）報告』 ・『利用者の高齢・重度化に伴う必要とされ る支援について』 講演&シンポジウム	該当者 独立行政法人国立重度知的 障害者総合施設のぞみの園 事業企画部次長 古川 慎治 氏

(9) 内定者職員研修会

研修日	内容	講師
平成 30 年 7 月 28 日	・業務貢献表彰事例発表	該当者
10 月 6 日	・「自閉症児者の生活の質を保障する -Quality of Life for Individual with ASD」	GHA 最高経営責任者 Dawn Allen 氏 チーフイノベーションオフ イサー Janet Banks 氏 通訳： 山口県立大学 教授 水藤昌彦 氏
平成 31 年 1 月 9 ～21 日	ふれいす Be・ジョブサイトよど 体験実習	ふれいす Be 下施設長 ジョブサイトよど 田端施設長
平成 31 年 2 月 16 日	・『看取り視察研修（長野県かりがね福祉会 様視察研修）報告』 ・『利用者の高齢・重度化に伴う必要とされ る支援について』 講演&シンポジウム	該当者 独立行政法人国立重度知的 障害者総合施設のぞみの 園 事業企画部次長 古川 慎治 氏

(10) 新入職者研修

研修日	研修内容	講師
平成 30 年 6 月 26 日	労務管理・人事考課・予算	総務部
8 月 30 日	法人設立の経緯	松上理事長
10 月 24 日	障害理解について	発達障害スーパーバイザ ー 堀内
11 月 22 日	コミュニケーションについて	ふれいす Be 下施設長

		生産活動支援部部長 平野
12月17日	虐待防止について	生産活動支援部部長 平野 萩の杜施設長 勝部
平成31年 2月27日	ビジョンに基づく 来年度の目標	ジョブジョイントおおさ か所長 星明

2. 総務部

(1) 平成30年度 機関紙発行状況

発行月	主な内容	発行部数
4月	平成30年度方針、業務貢献表彰報告、アルバマーレGHA視察 見学報告②、法人設立20周年記念講演会報告	3,500
7月	業務貢献表彰報告、アルバマーレGHA視察見学報告③、人材育 成研修室の活動報告	3,500
10月	4法人ジョイントセミナー報告、ふれっとなさはら開設報告、 グループホームみやたの移転と名称変更、業務貢献表彰報告	3,500
1月	新年のご挨拶、業務貢献表彰、第5回北摂杉の子会研修セミナ ー報告	3,500

(2) 医療連携推進室

- ①医療連携に係る会議の実施（12回開催）
- ②法人全体の医療に関する政策を整備
- ④真野先生との連携についての検討
- ⑤利用者の重度化・高齢化、医療的ケアに関する検討
- ⑥訪問看護ステーションについての検討
- ⑦医療的ケア講演会の企画
- ⑧医療同意についての検討

(3) 人材育成研修室

・強度行動障害支援スーパーバイザー養成研修

前期（法人本部 4/27・5/25・6/22・7/24・8/31・9/28：6事業所12名参加）

後期（法人本部 10/26・11/20・12/21・1/25・2/22・3/29：3事業所4名参加）

・施設コンサルテーション事業

社会福祉法人来島会 南海学園（3日間/月 年間12回：入所：@高知県南国市）

今治福祉園（2日間/月 年間11回12回目は南海学園と合同：入所：
@愛媛県今治市）

社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団 みずほおおぞら（多機能：年間12回：@豊中市）

有限会社 すばるトータルプランニング ぐっぴー（生活介護：年間11回：@羽曳野市）

社会福祉法人名張育成会 名張育成園（年間5回：多機能：@三重県名張市）

社会福祉法人まほろば まほろば光司園（年間4回：生活介護：@兵庫県三木市）

社会福祉法人二色福祉会 夢二色（年間4回：生活介護：@貝塚市）
有限会社 ウェルビーエンタープライズ（年間4回：放課後デイ：@群馬県高崎市）
社会福祉法人 博由社 ハピネスさつま（年間4回：入所：@兵庫県加古川市）
社会福祉法人 清心会 さやかグループ（年間3回：多機能：@埼玉県秩父市）
社会福祉法人 草の根共生会（年間3回：生活介護：@東大阪市）
社会福祉法人 こんにちは友が丘（年間2回：入所：神戸市須磨区）
有限会社 すばるトータルプランニング守口事業部（1回：GH：@守口市）
ジョブサイトよど（法人内：生活介護・就B：2回/月 通年）

・学校巡回コンサルテーション事業

和泉市教育委員会 職員研修（5/11）
小学校学校巡回（和気小学校：3回 6/29・9/19・2/8）
（黒鳥小学校：4回 6/15・9/21・11/22・2/8）
中学校学校巡回（南池田中学校：2回 10/19・1/22/）
（信太中学校：4回 5/11・9/19・11/22・1/22）
実践報告会（3/1）
泉大津市教育委員会 職員研修（7/3 3/5）
学校巡回（穴師小学校：3回 6/8・10/16・2/5）
摂津市教育委員会 学校巡回（摂津第五中学校：9/27・2/7）
吹田市教育委員会 学校巡回（山手小学校：2回 7/31・11/20）

・講師派遣事業（連続講座）

鳥取県社会福祉司会 現場力向上研修（1/30・31：@鳥取県倉吉市）
平成30年度 大阪府発達障がい児支援のための幼稚園教諭・保育士合同研修（しおのぎ製薬：7/24・8/8・8/22：アドバンスコース 11/13）
東淀川区 4・5歳児子育て支援事業（7/7 @東淀川区役所）

・講師派遣事業（単回講義）

社会福祉法人 愛和会 法人職員向け研修
「発達障がい者の理解について」（7/13：@豊中市）
吹田市市役所人権平和室 市民向け研修
「大人の発達障がいについて」（9/10：@吹田市）
NHK 更生文化事業団 近畿支局 ハートカフェ谷四 視聴者向け講座
「発達障害のグレーゾーン」（10/27：@大阪市中央区）
NPO法人 なの花 保護者向け講演
「思春期の子ども達の育ちと子育て」（12/2：@吹田市）
和泉市社会福祉協議会 市民・支援者向け講演
「大人の発達障がいを理解しよう」（12/4：@和泉市）

介護支援事業所 あゆケアステーション 職員研修

「知的障害と関連する障がいの理解と支援」(12/5：@茨木市)

社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会 鑑賞コーディネーター養成研修

「発達障がいの正しい理解と配慮」(12/6：@大阪市天王寺区)

大阪市立生涯学習センター 市民向け講座

「発達障がいのグレーゾーンについて」(12/8：@大阪市北区)

交野市役所人事課 部課長級向けメンタルヘルス研修

「Neurological Minority への理解と支援ー神経学的なマイノリティーのメンタルヘルスを考えるー」(12/14：@交野市)

社会福祉法人息吹 もみじの家 精神障害者理解促進事業ハートパーク

「発達障がいってなんだろう？」(1/19：@箕面市)

吹田市役所障がい福祉室 支援者向け講義

「発達障がいの人への理解と支援」(3/15：@吹田市)

・新規採用者職員研修 (10/24 @現代劇場)

3. 萩の杜

(1) 施設入所支援・生活介護・(以下①及び⑦にはショートステイセンターふれす含む)

①萩の杜会議：毎月1回開催

i) 萩の杜内各部署間の連絡調整

②萩の杜運営会議：毎月1回開催

i) 管理職-現場職の連絡調整

ii) 事業計画、職員体制の検討

iii) 内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
4月16日(月)	自閉症の特性と 支援の基本姿勢	中山清司氏
6月21日(木)	自閉症支援基礎講座	池田裕哉
12月6日(木)	萩の杜 実践報告会	各ユニット担当者 (講評：中山清司氏)

③萩の杜連絡調整会議：四半期ごとに開催

i) 施設入所支援-生活介護間の連絡調整

④リーダー会議(施設入所支援)：毎月1回開催

i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討

ii) 業務等に関する事項の共有、検討

iii) 利用者支援に関する事項の共有、検討

⑤ふれっと支援会議/ふれっと なさはら支援会議(生活介護)：毎月1回開催

i) 施設入所支援各グループに関する事項の共有、検討

ii) 業務等に関する事項の共有、検討

iii) 利用者支援に関する事項の共有、検討

iv) レクリエーションの企画、立案、評価

事業所名	実施日	実施回数	行き先
ふれっと	水曜日	28回	博物館、公園、外食等
ふれっと なさはら	都度調整	8回	カフェ、外食等

⑥旅行担当者会議(施設入所支援)：随時開催

i) 旅行ニーズ、旅行先の調査及び開拓

ii) 旅行の企画、立案、評価

日帰り旅行

日程	行き先
5月17日(木)	鈴鹿サーキット
5月31日(木)	奈良公園
6月7日(木)	須磨水族館
7月19日(木)	朽木溪流魚センター
9月27日(木)	名古屋
10月11日(木)	雄琴温泉
11月8日(木)	ひよし温泉

⑦リスクマネジメント委員会：毎月1回開催

i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換

ii) 再発防止策等の検討

⑧安全対策委員会(萩の杜家族会と協同)：隔月開催

i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換

ii) 再発防止策等の検討

(2)保健看護

①保健衛生業務

i) 身体測定(年2回)、体重測定(月1回)、血圧測定(有所見者のみ月1回)

ii) 健康診断

a. 内科健診(年2回)

前期：6月14日(木)、7月12日(木)

後期：11月29日(木)

②保健看護業務

i) 疾病予防

a. 内科嘱託医(なかじま診療所 中嶋医師)との連携

b. オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導(希望者のみ・毎週水曜日)

c. かしわせ歯科クリニックによる歯科治療(希望者のみ・毎週水曜)

d. 看護処置

ii) 精神科相談(毎月1回金曜日：啓友クリニック 西山医師)

iii) 受診件数(上記精神科相談・オーラルヘルスケアサービスを含む)

受診科	件数	受診科	件数
内科	274	婦人科	1
外科	8	小児科	0
整形外科	34	精神科	300
脳神経外科	2	形成外科	0
眼科	12	麻酔科	4
耳鼻科	8	歯科	350
皮膚科	62	入院	5
泌尿器科	0	手術	4
消化器科	0	救急	1

合計：1,065件

※上記入院期間及び入院先：

- ・5月3日(木) - 5月7日(月) 高槻病院 脳神経外科
- ・5月28日(月) - 5月30日(水) 大阪大学医学部附属病院 婦人科
- ・11月22日(木) - 11月29日(水) 大阪医科大学附属病院 眼科
- ・11月5日(月) - 11月19日(月) 藍野病院 外科
- ・2月13日(水) - 3月6日(水) 大阪赤十字病院 整形外科

(3) 栄養管理

①給食会議：毎月1回開催

- i) 利用者に関する報告
- ii) 食事内容等に関する検討

②その他

- i) 偏食等の利用者個別配慮調整

(4) 避難訓練

- ① 6月1日(金)：生活場面からの避難訓練(ショートステイセンターぶれす合同)
- ② 11月30日(金)：生活場面からの避難訓練(ショートステイセンターぶれす合同)

4. 短期入所(ショートステイセンター ぶれす・ぶれいす Be 短期入所)

(1)ぶれす利用実績(延べ人数・カッコ内は児童利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			合計
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	
4月	67(2)	122(9)	48(9)	7(1)	177(19)
5月	70(1)	129(13)	42(3)	8(0)	179(16)
6月	68(2)	101(12)	33(0)	4(0)	138(12)
7月	62(2)	106(8)	32(6)	3(0)	141(14)
8月	56(0)	73(3)	38(9)	2(1)	113(13)
9月	42(1)	65(7)	26(2)	6(0)	97(9)

10月	60(1)	111(13)	28(1)	4(0)	143(14)
11月	59(1)	107(15)	25(2)	3(0)	135(17)
12月	60(1)	108(16)	28(5)	2(0)	138(21)
1月	53(1)	98(12)	18(1)	3(0)	119(13)
2月	54(1)	97(8)	27(3)	3(0)	127(11)
3月	56(1)	94(3)	38(9)	3(0)	135(12)
合計	707(14)	1,211(119)	383(50)	48(2)	1,642(171)

(2)ふれす送迎実績

月	回数	月	回数
4月	441回	10月	389回
5月	475回	11月	371回
6月	396回	12月	390回
7月	394回	1月	321回
8月	319回	2月	344回
9月	267回	3月	367回

合計：4,474回

(3)ふれいす Be 利用実績

(延べ人数・カッコ()内は児童利用者数、カッコ〈〉内は重身利用者数の内訳)

	短期入所	日中一時支援			
	宿泊	4時間未満	4-8時間	8時間以上	合計
4月	67(3)〈2〉	138	25	8	171(23)〈46〉
5月	66(2)〈3〉	154	15	5	174(22)〈45〉
6月	66(3)〈3〉	137	24	12	173(31)〈42〉
7月	73(2)〈2〉	150	32	10	192(25)〈57〉
8月	64(3)〈4〉	124	28	8	160(19)〈44〉
9月	70(6)〈2〉	141	25	6	172(26)〈46〉
10月	69(6)〈1〉	154	23	4	181(16)〈41〉
11月	76(2)〈7〉	150	18	7	175(25)〈50〉
12月	74(1)〈5〉	148	30	6	184(31)〈52〉
1月	71(2)〈6〉	140	18	4	162(21)〈41〉
2月	64(1)〈2〉	148	23	7	178(20)〈51〉
3月	78(5)〈5〉	145	34	5	184(22)〈53〉
合計	838(36)〈42〉	1,729	295	82	2,106(281)〈568〉

(4)ふれいす Be 送迎実績

月	回数	月	回数
4月	249	10月	285

5月	264	11月	268
6月	267	12月	280
7月	288	1月	260
8月	235	2月	224
9月	268	3月	258

合計：3,146回

(5)ぶれす-ぶれいす Be 合同会議：毎月1回開催

- ①業務等に関する事項の共有、検討
- ②合同内部研修会の企画運営

日程	研修内容	講師
6月12日(火)	北摂杉の子会 eラーニング	下 裕幸
10月9日(火)	強度行動障害 とコミュニケーション	及川 光貴
2月12日(火)	事例検討(3ケース)	

5. ジョブサイトひむろ

(1) 生活介護係

- ① ジョブサイトひむろ会議：毎月1回開催
 - i) 利用者関係等、各グループ報告
 - ii) 事故、ひやりはっと報告について
 - iii) 事業計画、予算の進捗確認
- ② ジョブサイトひむろ支援員会議：不定期
 - i) 事例検討
 - ii) 日帰り旅行グループング検討、事前説明会
 - ii) アクションプラン検討
- ② リスクマネジメント委員会：毎月1回開催(前期)、後期は不定期で実施
 - i) ひやりはっと報告及び事故報告内容共有、意見交換
 - ii) 再発防止策等の検討
 - iii) マニュアルの作成および説明会の実施
- ③ 工賃向上委員会：不定期
 - i) 新規受注作業の検討
 - ii) 作業評価シート(賞与支給)の進捗確認
 - iii) 工賃向上報告会の実施

物販

日程	イベント名
4月2日(月)	たかつき〇まるしえ
6月7日(木)	たかつき〇まるしえ
7月21日(土)	さにすぼ夏祭り

9月6日(木)	たかつき〇まるしえ
10月30日(火)	事業所連絡会ミニバザー
12月6日(木)	たかつき〇まるしえ
12月15日(土)	福祉展
2月25日(月)、26日(火)	天神祭り
3月12日(火)	たかつき〇まるしえ

④レクリエーション委員会：不定期

- i) レクリエーション企画の集約、調整
- ii) 日帰り旅行の企画、立案
- iii) その他地域で行われるイベントへの参加調整

作業グループ別レクリエーション

日程	行き先	人数	日程	行き先	人数
5月2日(水)	イオンモール京都	2	9月19日(水)	オービィー	7
5月9日(水)	カプリチョーザ	2	10月29日(月)	万博記念公園 バイキングレストラン	2
5月9日(水)	万博記念公園 エキスポシティ	1	11月27日(火)	嵐山	2
5月16日(水)	イオンモール茨木	1	11月28日(水)	カップヌードル ミュージアム	7
5月21日(月)	枚方パーク	7	1月11日(金)	三田屋	10
5月23日(水)	アクアライナー	3	1月18日(金)	梅田	2
5月31日(木)	イオンモール伊丹	2	1月24日(木)	京都鉄道博物館	4
7月9日(月)	オービィー	5	1月30日(水)	カップヌードル ミュージアム	4
7月12日(木)	エキスポシティ	4	2月1日(金)	摂津富田周辺	2
7月19日(木)	スパワールド	1	2月8日(金)	京都鉄道博物館	7
7月20日(金)	オービィー	3	2月27日(水)	ニフレル	2
9月5日(水)	ラウンドワン	7	2月27日(水)	くら寿司	2
9月14日(金)	万博公園	8	3月22日(金)	津の田ミート LODGE	3
9月18日(火)	ひらかたパーク	6	合計	27	106

日帰り旅行

日程	行き先
11月16日(金)	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

サッカー

日程	内容	場所	参加人数
7月5日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
9月20日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	6名

10月25日(木)	法人内練習	フットサルヨコタ	5名
11月3日(土)	サッカー大会	ノアステージ茨木	8名

祝日プログラム

日程	内容	場所	参加人数
4月30日(月)	こいのぼりフェスタ	芥川桜堤公園	7名
7月21日(土)	ジョブサイトひむろ祭り	ジョブサイトひむろ	全員
2月11日(月)	おやじバンド演奏会	カフェBe	49名

地域イベントへの参加

日時	内容	場所	参加人数
8月7日(火)	ふれあいワークショップ	ゆうあいセンター	1名
9月11日(火)	イオンイエローレシート キャンペーン	高槻イオン	2名
2月27日(水)	ボランティア体験プログラム	ゆうあいセンター	2名
3月5日(火)	高槻事業所連絡会交流会	高槻現代劇場 レセプションルーム	23名
3月15日(金)	ふれあいレクリエーション スポーツの集い	古曽部防災公園 体育館	15名

⑤その他

内部研修

日程	内容	参加人数
4月9日(月)	てんかん講座(真野先生)	14名
5月14日(月)	てんかん講座(真野先生)	9名
10月15日(月)	ダウン症について(真野先生)	13名
10月26日(金)	サラヤ手洗い講習会	11名
11月12日(月)	口腔内の環境と全身への影響について (かしわせ歯科クリニック)	19名
11月19日(月)	ダウン症について(真野先生)	14名
1月21日(月)	糖尿病について(真野先生)	10名
2月18日(月)	糖尿病について(真野先生)	13名

ボランティア

日程	ボランティア	人数
8月16日(木)	高槻市在住の女性	1名
8月28日(火)、29日(水)	高槻市在住の男性	1名
9月5日(水)~11月27日(火)	高槻市在住の男性	1名
9月27日(木)	高槻市在住の男性	1名
	高槻市在住の女性	1名
3月12日(火)	ボランティア体験プログラム	2名

3月21日(木)	茨木市在住の女性	1名
----------	----------	----

見学

日程	見学者	人数
5月22日(火)	高槻支援学校保護者	9名
5月28日(月)	CLAN 高槻	2名
6月25日(月)	横浜市発達障がい者支援センター	2名
8月27日(月)	高槻支援学校教員	1名
10月3日(水)	摂津支援学校保護者	2名
10月13日(土)	カリヨンれもん吉野	10名
11月5日(月)	利用希望者、保護者	3名
11月19日(月)	砂川厚生福祉センター	5名
11月21日(水)	かなやの里ほほえみ	2名
12月4日(火)	さくらの家	1名
12月18日(火)	兵庫県立大学大学院	1名
1月24日(木)	修光学園	6名
2月1日(金)	一羊会	3名
2月22日(金)	長崎県育成会	2名
3月5日(火)	丹南精明園	5名

(2) 医務栄養

①医務会議：毎月1回開催

- i) 健康、予防プログラムの進捗確認
- ii) リハ加算の進捗確認
- iii) 真野先生巡回相談：年間13回
 - a. 職員向け研修：年間6回
 - b. ご家族向け研修会：3月11日(月) 糖尿病について(真野先生)
 - c. 内科健診
 - d. インフルエンザ予防接種
 - e. リハビリテーション計画面談、更新
 - f. ご家族、職員の相談
- iv) 歯科に関するアンケート、講義の実施
- v) その他医療に関わる案件の検討

②利用者健康診断

- 前期：5月26日(土) 9:30～11:30 (医療法人桜峰会 香川クリニック)
(内容) 身体測定、問診、血圧測定、胸部X線直接撮影、尿検査、血液検査
感染症、アレルギー検査(希望者のみ)
- 後期：12月15日(土) 9:30～11:30 (医療法人桜峰会 香川クリニック)
(内容) 身体測定、問診、血圧測定、インフルエンザ予防接種(希望者のみ)

③作業療法

- i) 個別セラピー：15名 年間66回実施
- ii) 体力測定：23名 年間1回実施
- iii) リハビリテーション計画書作成、評価：13名
- iv) ポールウォーキング
- v) シェア畑活動

④栄養

- i) 給食会議：毎月1回実施
 - a. ご利用者に関する報告
 - b. 食事のリクエスト
 - c. 特食（祝日、土曜）メニューの検討
- ii) セレクト給食の実施（毎月1回）
- iii) その他
 - a. 季節を感じられるメニュー、ご当地グルメを取り入れた。
 - b. 塩分量の減少に努めた。
 - c. グループホームのご利用者に対し、栄養摂取状況の改善を図った。

6. グループホームみやた・とんだ

(1) 移転

- i) 新築工事

平成30年3月～8月末までの間、千里ハウジング様による工事を実施。
- ii) 移転引越し

9月18日に移転引越しを実施。
- iii) 引越しの支援

移転引越しをプラスにとらえ、各居室の壁紙のデザインをご利用者と考えることで意思を反映させるなど「豊かな暮らしの実現」につながった。

(2) 会議関係

①みやた会議

- i) みやたの各種状況の報告
- ii) 内部研修
- iii) 復命講習
- iv) 各委員会報告

②利用者ミーティング（1階、2階）※移転後は（1番館、2番館）

- i) 各ご利用者の情報共有
- ii) 個別支援計画の進捗確認、検討

③とんだ世話人会議：毎月1回開催

- i) ご利用者の情報共有
- ii) 世話人間の連絡調整
- iii) とんだ業務全般に関する検討、助言、調整

(3) 保健衛生業務

①体重測定（月1回）

②利用者健康診断

内科健診（年2回）基本的に日中活動先で受診

③職員健康診断（年1回 夜勤・宿直者は年2回）

(4) 保健看護業務

①食事疾病予防

②オーラルヘルスケアサービスによる口腔衛生指導

（希望者のみ・基本毎月1～2回）

③受診件数（オーラルヘルスケアサービスを含む）

受診科	件数	受診科	件数
内科	26	神経内科	
外科		精神科	60
婦人科	3	形成外科	
肛門科		嚥下外来	
眼科		歯科	(180)
耳鼻科	1	口腔外科	
皮膚科	10	救急	
泌尿器科	5	救急搬送入院	
消化器科		合計	285(180)

(5) 避難訓練

① H30年も4月～8月に避難訓練を実施。（移転後は11月）

② 昨年度参加して頂けなかった夜勤者にも参加頂き、通報訓練まで実施できた。

③ 回数をこなすことで避難時間はかなり短縮できた。

④ 移転後の避難もスムーズだった。

7. レジデンスなさはら

(1) 会議関係

①レジデンス会議

・月1回開催。法人全体の動きの報告や収支報告、レジデンスなさはらの事業計画の進捗状況。研修の情報、地域に情報などを確認した。

②各館ミーティング

・各館（1、2、3番館）ごとに週1回、月3回開催。具体的なケース事例に対し、現状のアセスメントを共有し、支援の方向性について確認と統一を図った。「対応の統一」が図れるメリットはある。また、去年課題だった「決まったことが進まない」ミーティング方法の変更により改善してきている。

③医務会議

・月1回の開催。季節に応じた課題（熱中症、感染症、アレルギー等）や服薬

管理の方法など様々な医務的な課題に応じて検討を行った。

④連携会議（策定会議、意思決定支援会議を含める）

- ・1人のご利用者につき、年に2回、レジデンスなさはらとジョブサイトひむろで実施。お互いの事業所でのご本人の様子や共有の支援の方向性を確認した。

⑤15分研修

- ・毎週、会議前に実施。研修等の報告や復命研修等を実施した。

⑥SW分析

- ・全てのスタッフからアンケート形式で、組織の強み弱みを出し合い、組織の現状分析を行ない、翌年の事業計画につなげている。常にPDCAサイクルを回す文化の構築を目指している。

⑦個別研修計画

- ・職員の人材育成について、事業所として習得いただきたい知識や技術と、職員の方ご自身が受講したい研修の摺合せを行ない、内部研修の検討や外部研修への参加派遣を行なった、スタッフの自主的な研鑽やモチベーションアップにつながっている。

(2) 医療健康関係

①30年度通院件数

- ・平成30年度のレジデンスなさはらからの通院件数は253件（訪問歯科抜き）であった。皮膚科は減少傾向にあるものの、耳鼻科や歯科の通院が増えるなど徐々に高齢化の進行を感じる1年であった。

(3) 家族会関連

①なさはら親の会

- ・なさはら親の会は年2回開催され、なさはらでのご利用者の様子や「ひやりはっと」報告、満足度調査結果報告、食材料費の返金の件等を説明している。

②個別面談

- ・年に2回実施。日常のご様子の説明と個別支援計画のモニタリングと次回個別支援計画の確認を行なっている。

③満足度・不満足度調査

- ・平成30年度は1月に「満足・不満足調査」を行った。この結果を事業計画に落とし込み毎年改善を図っている。

(4) 避難訓練

- ・年2回（9月、3月）に火災を想定した避難訓練（総合訓練）実施した。各館のご利用者の状況としては、比較的スムーズに2分以内（館によっては30秒程度）での避難を行うことが出来ていた。

(5) 地域向けの取り組み

- ・レジデンスなさはら入口付近に花壇を整備し、花を植えることや、夜間はイルミネーションを点灯するなど地域に向けた取り組みを実施した。

(6) 見学対応・講師等の派遣

- ・平成30年度は、見学対応件数（48件）、のべ見学者数（248名）であった。
- ・講師等の派遣では、大阪府からは、サービス管理責任者研修、強度行動障がい支援者養成研修、世話人研修等の依頼があり、ファシリテーター等も含め、多数の職員の派遣することが出来た。また、他法人や他団体からの講師依頼もあり、講師派遣を行なうことが出来た。

8. ふれいすBe通所部門

(1) 知的生活介護Ⅰ（AR4, 7）

今年度も13名のご利用者が、概ね安定して通所されたが、内1名のご利用者は、秋頃から気分の落ち込みや粗暴行為が目立つようになり、目離しの出来ない状態が続いた。この利用者については、昨年も同じように秋から春にかけて気分の落ち込みが見られた。今後ご家庭との連絡を密に取りながら、1年を通して経過観察し、原因などを探っていく予定。

日中活動としては、個々の特性やペースなどを考慮しながら、働く事と余暇的な活動をバランスよく実施し、充実した過ごしができるようなプログラムを提供した。また、それらを通して、より自立したADLの獲得や大人としてのマナー、適切な人との関わり方などが身につくような支援を実施していった。

作業面では、従来の菓子商品の軽作業を中心に、今年度も継続して就Bと連携する事で作業の拡充とスキルの向上を図った。AR5からは、昨年度よりも多く単発の作業を請け負い、1年を通して複数の軽作業に携われるようにしていった。リネンからは、引き続きAR3のバスタオルやタオルケットたたみの作業を請け負い、加えて病衣干しやアイロンかけ、おしぼり、ベビーパットの等の作業を曜日固定で提供することができた。

また、工賃規定の変更に伴い、1F生活介護のご利用者の工賃も上がっている。ご利用者の多くは、お金への理解や管理が難しいが、作業を頑張る事で工賃が上がるという理解は深まっており、毎月の工賃支給日を楽しみに、日々の作業への意欲や責任感など働く事への意識が高まっている。

余暇的な活動では、ご利用者からのニーズの高い定期的な工賃でのカフェタイムやピクニック、週1回のセレクト余暇、土曜開所日のイベントを昨年度と同様に提供し、社会性や自主性の向上にも繋がっている。

昨年度、課題として上げていた運動プログラムの実施については、作業療法士や管理栄養士とも連携し、「運動をすることが習慣となる事」を目標に、楽しみながら負担なく取り組める内容を考え実施している。はじめは、一部のご利用者だけの取り組みだったが、少しずつ興味を持つ方が増えてきている。今後もより積極的な参加につながるような運動プログラムの実施を考えていきたい。

(2) 知的生活介護Ⅱ（AR1, 2, 8）

7月末より、AR8にて、新規ご利用者を1名受け入れ、毎日概ね安定して通所していただくことができた。

AR 1 所属のご利用者 1 名が、2 年以上にわたって、ご家族の付き添いのもとでなければ通所してプログラムに参加することができない状態に陥ってしまっていたが、2 月頃より状況が好転し始め、少しずつご家族の付き添いなしで日中にふれいす Be で過ごせる様になっていき、2 月が終わる頃には、ご家族は朝と帰りの送り迎えだけで、ご本人が日中、ふれいす Be スタッフとだけで過ごせるようになった。まったく通所できていなかった時期にも、ご家族と連絡を継続していたことで、ご本人の状況が好転したタイミングですぐ支援を再開でき、ご家族の協力があつたからこそ、良い方向にすすむことができたと思われる。

また別の AR 8 ご利用者においても、4 月、5 月は、金曜日以外の日も数日通所できていたが、6 月以降はほぼ金曜日だけの通所になってしまったので、次年度に向けての方策を検討していく。

上記ご利用者とは別の AR 2 ご利用者で、今までは休みがちながらも通所できていた方が、2 月途中より欠席が連日になってしまわれ、通所できない状況に陥ってしまったので、ご家族の要望もあり、次年度よりは AR 8 へグループが変更となる予定。

AR 1, 2 のプログラム提供においては、ご家族よりのニーズの高い身体を動かすプログラムとして、散歩や空き缶つぶし、ランニングマシーン以外に、トランポリンの活動を積極的に多く取り入れたり、屋内外掃除のプログラムを提供したが、それ以外に施設周辺のゴミ拾い活動、室内運動としてカラーボールを用いた階段昇降運動、ピンポン球を用いた踏み台昇降運動、それらを組み合わせたサーキット運動、ステッパー等の運動器具を用いた運動等を、複数のご利用者に積極的に取り入れた。AR8 では、母の日やクリスマスの創作活動、年賀状や干支の判子づくり等、季節にあわせたプログラムを提供した。また、OT と連携しての個別の運動プログラム、他事業所と合同のポールウォークのプログラムにも参加した。また、研修や SV を通じての P E C S の勉強、評価キットの実施を行い、ご利用者支援に活かすことができるように努めた。

(3) 重身生活介護 (AR 3)

重身生活介護部門では、安心出来るフロア、日中活動の充実、支援の質の向上、新人職員の育成、正職員による医療的ケアの実施を目標にしスタートした。今年度は 1 名がご家庭の事情により退所され、19 名で開始した。平成 31 年 3 月には支援学校卒業生が 2 名加わり、21 人となる。そして 4 月からは支援学校卒業生が 1 名加わり 22 名に予定である。

育成面ではプリセプターシップに基づき行った。新人職員がプリセプティ、2 年目職員がプリセプターを初めて経験してもらい、試行錯誤しながらもお互いに学ぶことが出来た。

日中活動の充実では、春と秋に外出活動を行い、外へ出る事の難しい方でもお出掛けを楽しんで頂いた。全員が出席する事が難しかった夕方のミーティングをやめ、共有ノートを新たに作成し情報の共有に努めた。また、代わりに必要と思われる事項が出来た時には、パートスタッフの時間も調整し会議を改めて開催し、充実した

効果的にスタッフ間で情報を交換する事が出来た。

支援の質の向上では、職員の腰痛等身体の不具合を訴える職員が多かった為、朝礼の前にラジオ体操を習慣化し腰痛予防を図った。また、ラジオ体操を通じてスタッフ間でのコミュニケーションを増やす事が出来、重身生活介護ならではの良い雰囲気の中で業務をスタート出来る様になった。

今年度は安定して通所されていた利用者2名が緊急入院となり、情報把握を共有し通所を再開する準備の為看護師と連携し病院のカンファレンスに参加する等、病院と他事業所との連携を行った。また、加齢による状態の変化、身体機能の低下が見られる利用者には食事の形態やケアの調整を看護師、作業療法士と連携し考察しご家族と連絡を密にしご家族の意向を汲み取りながらケアの計画を立てていった。

日中一時・短期入所は通所ご利用者を中心に定期的に利用があった。緊急の希望にも適宜対応した。担当スタッフの不足状況が続く中、キャンセルも重なりご利用人数が少ない時もあったが、スタッフ全員で協力し対応した。

(4) 就労継続支援B型 (AR 5, 6, リネン)

「働くこと」を支援の柱とし、ニーズに合った働く場の提供や模索、社会生活スキルの向上、社会人としての育ちを個々に応じて支援を展開した。特性や課題に合わせ、作業に取り組む目的を明確にしより意欲的・前向きに取り組めるような支援に努めた。こうした作業を軸とした日々の取り組みが、社会生活面や行動面、感情面でのスキルアップ、さらに自己肯定感や仕事への誇りの獲得といった社会人としての基礎の形成につながっており、成人期の充実を意識しながら支援に努めた。

クリーニング作業では、保育園やキャンプ場などのリネン類の洗濯業務を請け負い、数多くのアイテムを担うことで、より多くのご利用者が仕事に携わることができるようにした。結果、生産性が向上するだけでなく、ご利用者個々に支払う工賃の支払額も向上し、ご利用者の仕事に対する満足度も向上した。その中で、引き続き、納品時にはご利用者に同行して頂き、社会参加の機会を持ってもらうだけでなくその中でいかに社会から必要とされているか、喜ばれているかを実感して頂き、作業への姿勢にも変化が見られている。引き続き、品質の高さや柔軟な対応については一定以上の評価を頂いており、新規受注に繋がっているためこのまま維持・向上していきたい。

下請け作業を中心とした軽作業も、新規受注先を開拓することができ仕事が途切れることがないようにしていった。引き続きその時々で条件に合致したものを積極的に受注していき工賃の向上だけでなく、各ご利用者のスキルアップに繋げていったため継続してできるようにしていきたい。カフェ Be での作業も継続して行っており、地域の人たちと交流もしながら仕事に励んで頂いている。また、施設外就労も継続して3箇所と業務委託契約を結ぶことができおり、それぞれご利用者個々の強みを活かしながら作業に励んで頂いている。

引き続き、ご利用者1人あたりの工賃が維持・向上できるためにも、クリーニング事業・軽作業の新規受注に繋がられるように、日々の仕事を研鑽していく。その上

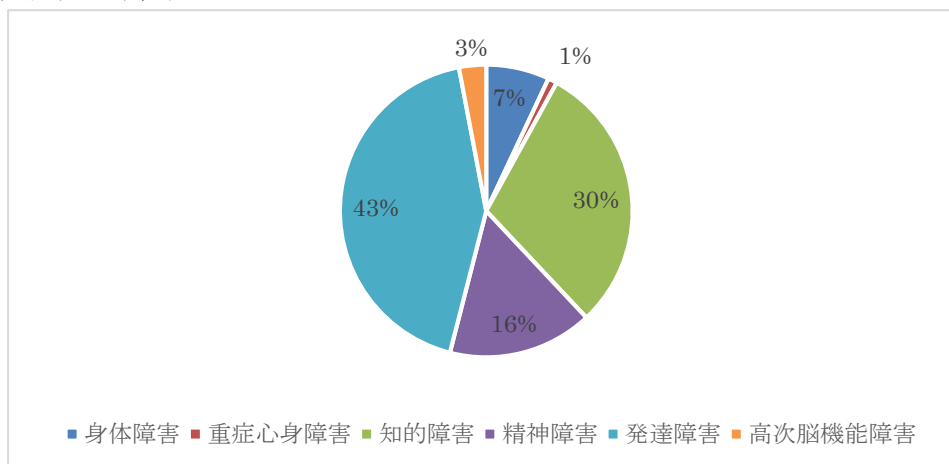
で新規受注だけでなく、施設外就労先の新規開拓も行っていきたい。

9. あんだんて

(1) 委託事業について

①高槻市知的障害者生活支援事業および島本町知的障害者生活支援事業

相談者 障害種別



	実人数	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他未診断
高槻市	189	18	13	102	23	82	2	5
島本町	4	0	0	3	0	1	0	0
計	193	18	13	105	23	83	2	5

<うち、相談支援方法> (高槻市・島本町合算)

方法	訪問	来所	同行	電話 ファックス	メール	個別支援 会議	関係 機関	他	総数
回数	366	381	78	1,413	112	62	774	0	2,805

- ・平成30年度の新規相談数は49件（前年51件）。このうち、サービス等利用計画作成の依頼相談が3件（前年19件）新規契約は受け付けていないため他事業所へご案内。2回～定期的継続支援へとつながったのは5件（前年13件）。
- ・知的障害、発達障害のほか難病や身体障害、精神障害、高次脳機能障害を含み、診断のないケース（発達障害の疑い）もある。4割が発達障害を占めており、その割合は前年比の倍近い。
- ・発達障害のある方の支援のニーズの多くは、障害理解が中心で、月1回程度の定期面談を実施しているケースが多い。

②障害支援区分認定調査委託

- ・障害程度区分認定調査実施数 89件（前年48件）

③サービス等利用計画作成

- ・サービス等利用計画（以下計画相談）は年度末時点での契約総数196件。（内年度内新規契約0件、退院や出所などによる契約再開が3件。契約終了は5件で、

終了理由は介護保険への移行、就労、入所等)

・受刑からの出所支援を行うが、精神科入院を経ているため地域移行は利用せず。

④その他

i) 関係機関との連携強化・発信

- ・ wish・あんだんての相談員が集まる相談支援従事者現場会議を継続。円滑な支援のために、情報共有・連携を深めた。
- ・ 高槻市相談支援事業所連絡会（かえるの会） 事務局
- ・ 自立支援協議会ケアマネ連絡会への出席。
- ・ 高槻支援学校などで実施されている福祉相談会への出席。
- ・ 高槻保健所が実施する家族心理教室の運営支援に参加。
- ・ 就労・生活支援センターとの共有ケースを協議する会議を実施

ii) 当事者の余暇支援活動

- ・ 「エンジョイサークル」

高槻市障害者就業・生活支援センターと連携して行っている毎月1回の利用者の食事会

iii) 家族支援

- ・ グループホーム見学会

第1回：平成30年8月22日 あいわホーム(高槻市芝生町)、見学後ランチを取りながら意見交換

第2回：平成30年9月11日 レディースホーム ゆう(高槻市宮之川原)見学後ランチを取りながら意見交換

- ・ ふれいす Be 家族会+あんだんて共催勉強会「お金のはなしパート2」

平成30年11月1日/『親亡き後のライフプラン ～親が元気なうちにやっておける手続きと金銭管理～』

講師：ファイナンシャルプランナー、終活アドバイザー/鹿野佐代子氏

- ・ 「成年後見制度」

第1回：平成31年1月26日/セミナー『司法書士から聞いてみよう成年後見制度』講師：司法書士 日衛嶋 一陽 氏

第2回：平成31年2月26日/『Q&A サロン』

(1度目のセミナーの参加者でさらに成年後見制度について聞いてみたい方を対象に、少人数で日衛嶋司法書士を囲み質問会を実施

10. 生産活動支援部

LaLa-chocolat TAKATSUKI

① LaLa-chocolat 経営会議：毎月1回開催

- ・ 参加者：主任（高木・中野）、製造リーダー（椿）、販売リーダー（松井・福神）、管理者（木戸）、コンサルタント（関原氏）
- ・ 会議の内容：

- LaLa-chocolat 店舗運営についての情報や課題を共有し、課題解決を図ると共に、今後の方向性を検討する。
 - LaLa-chocolat TAKATSUKI 全体の情報や課題を共有し、課題解決を図り、今後の方向性を検討する。
- ② LaLa 会議：毎月 1 回開催
- ・ 参加者：パティシエ、販売スタッフ、支援スタッフ、管理者
 - ・ 会議の内容：
 - 厨房で働いているご利用者の目標の進捗状況の確認と情報共有を行う。
 - 各イベントの事前準備についての報告とコンセプトなどの検討。
 - イベント後に評価点と問題点を挙げ、次回のイベントに向けての課題の整理と対策などを考える。
 - 物販の日程確認と売り上げ目標の確認を行う。
- ③ ステップ会議：毎月 1 回開催
- ・ 参加者：ステップ、施設外就労先（①グリーン特別養護老人ホーム、②レジデンスなさはら）に関わる支援員、管理者、サービス管理責任者。
 - ・ 会議の内容：
 - ステップ、及び、施設外就労先で作業されているご利用者様の支援目標に対する達成度や作業の状況等について職員間で情報交換を図り、目標達成に向けての支援方法の検討や見直しを行った（月次評価）。
 - 施設外就労ご利用者の方に対して、作業能力給支給の為の評価を 6 カ月に 1 回実施した（新規ご利用者は、3 ヶ月後から作業能力給の支給）。
 - ご利用者様の行動上の問題に対する対応を検討するケース会議やひやりはっと事案の共有を行った。
- ④ LaLa 合同会議：毎月 1 回開催
- ・ 参加者：全スタッフ
 - ・ 会議の内容：
 - 厨房、施設外就労、出張所で働いているご利用者の目標の進捗状況の確認と情報共有を行う。
 - 次月の勤務の確認
- ⑤ 販売員ミーティング：不定期開催
- ・ 年数回
 - ラッピング方法、お客様への対応方法、接遇など
 - 参加者：高木・松井・篠原・鬼頭
- ⑥ イベント会議：不定期開催
- ・ 母の日、父の日、お中元、ハロウィン、クリスマス、お歳暮、バレンタイン、ホワイトデーなど、ほとんどのイベント毎に会議を開催した。
- ⑦ ご利用者個々の面談：毎月 2 回実施
- ・ ご利用者全員に月 2 回、担当職員が面談を実施。

- ・ ご利用者ごとに、障がい特性に合わせた個別の面談シートを作成し、面談を実施。面談シートを用いて、個別支援計画の目標の振り返りを行い、目標達成に向けて意欲的に取り組むことができるよう必要な支援を行った。
- ・ 仕事に関することで、ご利用者が困っていることや悩んでいることがあれば話を聞き、解決するための支援方法を一緒に考えたり、解決策の提案を行った。

⑧ 余暇支援

日程	行き先
9月12日(水)	ボーリング、昼食
9月22日(土)	スポッチャ、昼食
10月17日(水)	カップヌードルミュージアム
3月27日(水)	おつかれさま会

11. ジョブサイトよど

(1) 生活介護事業

①各フロア活動プログラム

i) 5階

	月	火	水	木	金
AM	ドライブ	散歩	散歩	散歩	散歩
PM		※ エアロビクス		絵画	

※エアロビクスは月に2回参加。法人全体で実施されたサッカープログラムへも、希望者のみ参加。

ii) 2、4階

今年度2階4階では下記の内容にてアンケートによるニーズに基づいて各種取り組みを実施した。

エアロビクス・サッカーは、事業所全体で参加者を募り、合同で実施。

また、個々のニーズに応じておやつ、ジュースの買物という活動も実施した。

○平日の取り組み

	月	火	水	木	金
第1週目	買物	・エアロビクス (毎月1~2回) ・創作活動			レクリエーションクラブ
第2週目	買物		ウォーキング	カラオケ	
第3週目	買物				レクリエーションクラブ
第4週目	買物		ウォーキング	カラオケ	
第5週目					

○土曜開所日の取り組み

	通常作業 お弁当	外食 (電車や車での外出含む場合もあります)	調理

4月			
5月	26日	12日	
6月		23日	
7月			7日
8月	4日	18日	
9月	22日	8日(よど祭り)	
10月			13日
11月			
12月	1日		22日
1月		12日	
2月	2日		
3月		9日	23日

iii) 3階

今年度は作業中心の過ごし方だけでなく余暇プログラムの充実を図ることを目的に以下の通り平日の日中に「選択プログラム」としてフロア毎に様々なプログラムを組み実施した。利用者の方々には、以下のプログラムの中から第三希望まで伺った。また、金曜日に4種類の飲み物から1つ好きな飲み物を選んでいただくドリンクタイムの活動を実施したが、金曜日に来所されない利用者の参加を検討し、木曜日にもドリンクタイムの日を設けた。

	月	火	水	木	金
第1週	プレジャーブック	エアロビクス (月1~2回) ジム(月1回)		絵画 ドリンクタイム	ドリンクタイム
第2週			さをり織り	絵画 ドリンクタイム	ドリンクタイム
第3週	プレジャーブック			ドリンクタイム	ドリンクタイム
第4週			さをり織り	ドライブ ドリンクタイム	ドリンクタイム

また、土曜開所日についてはより外に出での活動を組み立て、地域にあるお店を活用した。

	外食	おでかけ (カラオケ・ドライブも含まれます)	調理	セレクトランチ
4月				
5月	12日			26日
6月		23日		

7月			7日	
8月		4日		18日
9月	22日			8日
10月		13日		
11月				
12月			22日	1日
1月	12日			
2月		2日		
3月	9日		23日	

iv) エアロビクス

講師は松代和子氏に依頼し、音楽に合わせて楽しく体を動かして体力維持・健康増進・ストレス解消を目的として実施。スタジオは年間で予約。2グループに分け月2回第1、第3火曜日午後の約2時間実施した。楽しんでおられるご利用者の姿が多くみられた。

9月より、スタジオの場所が変更になった。(十三駅高架下から、フレンドリー商店街内に移動)

会場：dance studio cool

v) サッカー

事業所合同での練習に参加し、ジョブサイトよど5階から4名、ジェイ・ブランチよどから2名の計6名の利用者が参加した。ドリブルやシュートの個別練習や練習試合では、生き活きとした利用者の姿や表情が見られた。

大会試合にはガンバ大阪サッカースクールやNPO法人 障がい者スポーツ Friendly Actionにも協力いただいた。ジョブサイトよど5階から3名、ジェイ・ブランチよどから2名の計5名の利用者が参加し、他事業所のご利用者・職員もいるチームで、サッカーを通しての交流ができた。

②コロッケ&つくね作業

今年度、よどのコロッケ事業を運営する目的をよど運営会議で話し合い、優先順位1位は「ご利用者に働く機会を提供する事」となった為、利益目標は取り下げた。外販については「ご利用者が参加できる外販（※ご利用者の仕事の機会の提供が第1優先の事業である為）」もしくは、休みの日等ご利用者が参加できない外販の場合、地域を耕す目的として「地域のイベントである外販」のみに参加するというラインを設けた。

(職員が公休日の外販に参加し、平日に振替休日を取得することで、平日の現場の負担が増す為。)その為、2017年度に比べ、コロッケ事業の売り上げは半分以下になった。

(2017年度純利益約60万円、2018年度純利益25万円)今まで、コロッケの売り上げは支援員のみでの外販が大半の売り上げを占めていたことが分かった。利益目標が無いと、厨房・店舗職員の意欲や士気が下がるといった指摘もあった為、優先順位1位は「ご利用者への働く機会の提供」であることは大前提とした上で、次年度は利益の数値目標も設定することとした。(次年度利益目標を50万円とし、ご利用者にも携わ

って頂ける店舗や注文販売、内販での売り上げを増加させるイベントや新作を厨房職員を中心に検討し、目標に向けて職員が団結し、職員も楽しみながら働いて頂けることを目指す)

つくねは、(依頼主の居酒屋たんぼぼが新たに餃子の取り扱いを始められた影響もあり)つくねの製造数を減らすこととなったが、安定した工賃収入にはなっている。納品時刻の制約がある為、つくね製造に携われるご利用者が限られている事が課題である。

(来所時刻が早いご利用者でないと製造に携われない)

③下請け作業

昨年度に引き続いて、数社からの受注作業を確保しつつ、受注の仕事は、企業の繁忙期等に左右され安定性に欠けることもしばしばある。

今後は、工賃向上に向けた仕事と収入の確保の為に企業との単価交渉も視野に入れてより一層の努力が必要である。今年度は、不定期で入荷する企業の新しい種類の作業が入荷した際、単価の交渉を行った。今までの企業との関係性の構築により単価：5.0円という高めの単価設定を行うことができた。

④3階

今年度は、4月に新規ご利用者を1名受け入れ、合計13名となった。

職員体制に大きな変更があったため、ご利用者にも前もって予告を行い安心して通所していただける環境づくりを心がけた。また今年度も絵カードを使ってのコミュニケーション支援にも力を入れて取り組んだ。毎週『ドリンクタイム』という活動を取り入れ、ご利用者1人1人に4つの選択肢から1つ好きな飲み物を選んでいただく機会を設ける等、ご本人の意思決定の場面を意識した。内1名は、PECSブックを作成し、フェーズIから順に絵カードのでのコミュニケーションの練習を重ね現在はフェーズVまで進み、絵カードで発信できる部分も増えてきている。

またフロアでの受注作業において、押し花切りの作業や伊右衛門のお茶入れ作業等、約2名のご利用者が新たに作業に関わる事ができるようになった。

⑤2, 4階

今年度は、ご利用者の人数変更なく両フロア合わせて11名となった。今年度も昨年度に引き続き、毎月各フロア堀内SVに入っただき、予期不安軽減のための見通しについての支援やコミュニケーションの特に表出についての支援に注力した取り組みを行ってきた。ご利用者の特性に合わせた視覚的な提示やスケジュールの構成、コミュニケーションカードの活用等を行い、ご利用者が安心して過ごせる環境づくりを目指している。まだまだ、至らない点が多々あるので来年度も継続して取り組みを行いたい。

日中の活動は選択できる余暇プログラムの実施や、意思の聞き取りを行いやりたい仕事に取り組んで頂いた。

⑥5階

4月に1名、新規のご利用者が入られた。1年を通して、職員はスケジュールや活動の組み立てを行い、ご利用者はよどで行われている活動を経験していただいた。初め

こそなれないご様子であったが、現在はとても落ち着いて活動されていることが多い。

i) ジェイ・ブランチよどグループの報告

ジェイ・ブランチよどでは、新たに1名の受け入れを行った。また、退所された方は1名おられ、平成31年3月末現在で23名の方々が利用されている。

日中活動の組み立ては、主に受注作業と施設外就労で構成しており、ご利用者様のニーズや強みを生かしてそれぞれの活動に参加していただいた。

受注作業については、平均工賃1万円を達成するために、作業内容や単価、納品方法が適切であるかを見直した。単価が低く納品が難しい作業を終了し、地域の企業や安定して作業をいただける企業との受注を開始した。現在は(株)リアン、(株)プロトワーク、奥井(株)、(株)ターナー色彩から安定して作業をいただいている。その他の企業からも作業を受注することで今年度は平均工賃1万円を達成した。(株)プロトワークの会社見学や納品作業に携わることで作業へのモチベーションが高まったり、作業の幅が広がった。発達障害の方の強みである安定した環境で同じ作業を続ける力や経験で学ぶ力等を発揮していただくことで、処理数とともに徐々にではあるが収益の増加に繋がってきている。

施設外就労においては、ビルメンテナンス、コロッケ店舗清掃、津田紙工、かまどや食堂、シュレッター作業、コロッケ外販、整骨院の清掃作業や出張デパートを継続的に参加している。引き続き31年度も平均工賃が1万円達成を目指したい。

余暇プログラムについては、施設外就労で不在の方が多し事や受注作業が充実していることから平日での実施が難しい為、土曜開所日に設定をしている。

内容としては、外食・図書館・カラオケ・ドライブ・和紙の創作活動・ゲーム大会等であり、1回の土曜開所日につき複数の活動を提案し、ご利用者に選択の上、参加していただいている。ご利用者様から活動内容の希望アンケート調査を実施し、いつも余暇活動に参加しない人も参加できるような内容を企画することができた。来期も様々なご利用者が参加できるような企画をしたいと考えている。

ジェイ・ブランチよどでは、施設外就労・事業所内での作業・余暇活動等の様々な場面を提供し、それらを通して、ご利用者それぞれが抱えている課題やニーズに合わせた支援を実施できるよう努めてきた。個別支援を行うことでご利用者が安心して過ごせる環境を整えることに繋がってきたが、ご利用者それぞれの将来の目標が違って来るため目標を明確にし、その目標のために必要なスキルを獲得していただけるように職員間で意思を統一して支援していきたい。

ii) 施設外就労

(津田紙工)

津田紙工はご利用者の日々の頑張りを評価していただき出来高制が平成30年の5月から時給制(350円)になった。また12月から日数も週2回から週3回に増えた。3回に増えるにあたり新しく3名のご利用者が津田紙工に参加することになった。津田紙工のスペースを構造化し、視覚提示を行うことで新規ご利用者はもちろん従来からのご利用者の作業スキルもアップし、ご利用者の自信にも繋がった。

津田紙工の従業員との報告ノートに「このような特性がありこのような支援をしています。」と記入することで障害理解にも繋がっている。津田紙工の従業員からも「しっかり書いてくれてよくわかりありがたい。」と言っていた。今後はご利用者さんのミスが出てしまう原因を探りそのうえでそれぞれに合わせた対策を考えていく必要がある。

(POSTかまどや)

大阪北郵便局内POSTかまどや食堂の就労は継続して週4回出勤している。就労ご利用者のご利用者の希望もあり1名増え、7名となった。

ご利用者のさらなるスキルアップを目指し、ご利用者それぞれに合わせて支援を行っている。来期もご利用者の特性を理解しそれぞれに合わせた支援が課題である。社会参加と障害理解のために今後もしっかりと継続していく。

(フルカウント)

29年度より介護施設や障害者の入所施設に訪問販売している(株)フルカウントより仕事を頂き、大阪市大正区にある北斗クリニックの訪問販売を週1回/ご利用者二名と職員一名で行っている。1日2時間半程度で5千円を給料として週1回実施している。昨年11月よりジョブサイトよどのコロケ業務で使用していたエプロンと帽子をユニフォーム化し、同時に「商品前でのお客様対応」「レジ横の袋入れ業務」の二つの作業に役割分担したところ、売り上げが1.5倍以上に伸びた。利用者のモチベーションも上がっている。

iii) ビルメンテナンス

(河端ビル・堀内ビル)

河端ビル(毎週月曜日)と堀内ビル(月2回:第2、第4月曜日)のメンテナンス作業(掃除)を継続して実施した。急な休みや不調で参加できない場合、代わりに作業していただける利用者があるため、欠員が出ることなく安定して実施できた。ただ、河端ビルに関してはビルのオーナーより「作業精度を上げてほしい」という要望があり、作業内容や職業指導の方法について大幅な見直しが必要になってきている。

(浜崎鍼灸整骨院)

浜崎鍼灸整骨院のメンテナンス作業(毎週火曜日)を継続して実施した。作業内容は変わらず実施できていたものの、こちらも河端ビルと同じく作業の精度については見直しが必要だと思われる。

iv) 河端クリニックシュレッダー

河端クリニックより保管期限5年を経過したカルテ、検査結果などの書類の細断処理作業を継続して実施した。産科の個人情報処理作業であるため、女性利用者三名のうち二名ずつのローテーションで作業していただいている。今期は細断処理に必要なカルテ等が少なかったため、作業が中止になることが多かった。単純作業であることからこれまで職員がしばらく現場を離れることが多かったのだが、この作業で扱うシュレッダーはかなり大きな機械であり、扱い方によってはけが等の危険が

伴うため、職員が現場を離れない体制で来期は実施することとする。

(3) よどのコロッケ事業

① コロッケ事業の詳細報告

i) 関わる利用者数（総勢 27 名が、コロッケの何らかの仕事に関わった）

a. 生産部門（ジョブサイトよど 4 階コロッケフロア）

10 名（毎日 3、4 人がローテーションで生産している。）

b. 販売部門（店舗、外販）

店舗は午前 1 名、午後 5 名（月・火・水・木・金）

外販は 12 名の中から交代で 1～2 名ずつ参加している。

予約販売配達には 12 名の中から 2～3 名ずつ参加している。

c. 店舗へのコロッケ配達、冷凍バッグ引取り

名（全てのフロアの比較的障害の重い方がメイン）

d. コロッケ配達（予約販売配達 4 地区）

・淀川地区 ・豊中地区 ・平野区地区 ・高槻地区

12 名の中から交代で当番（重度の方がメイン）

e. 店舗清掃（よどのコロッケ店舗にて）

3 名の方がローテーションで実施。

ii) 販売形態

a. 店舗

b. 卸販売

c. 福祉施設予約販売

d. 外部販売

e. 内部販売

iii) 販売先

a. 法人内事業所（萩の杜、ジョブサイトひむろ、ふれいす Be）、ジョブサイトよどの給食

b. 福祉教育関係（ハーブクラブ、デリカテッセンイーハトーヴ、無門福祉会、そらちの風、豊中のぞみ会、第 2 みらい、NAGOMI、工房モコ、ワークセンター豊中、豊中市役所、糸をかし、加島希望の家、愛光保育園、エルムおおさか、その他）

c. 外販先

（アオクスル祭り、きらきら祭り、十三中学校、十三市、研修センター、マルシェ高槻ジャズストリート（2 日間）、豊中支援学校、十三小学校夏祭り、さをり祭り、ヒルトン大阪、みてあーと、カフェ Be コンサート、食の文化祭、淀川河川敷フェスティバル西栄寺、御堂筋バザー、大阪医療大学、西区そよかぜ祭り、淀川で踊ろう区民センター、長居障がい者スポーツセンター、全国生産活動、大阪市役所、大阪府庁、博愛社、藍野花園病院、大阪市立中央体育館車椅子バスケットボール大会、第 2 みらい文化祭、ミディマルシェ、

カフェbeコンサート、その他)

d. イベント

日程	イベント名
4月	アオクスル祭り、マルシェ、十三市、研修センター、十三中学校、大阪府庁
5月	高槻ジャズストリート(2日間)マルシェ、大阪府庁、研修センター、御堂筋バザー、ヒルトン大阪、十三中学校、藍野花園病院、きらきら祭り
6月	マルシェ、十三市、大阪府庁、研修センター、十三中学校、博愛社、
7月	マルシェ、豊中支援学校、十三市、大阪府庁、研修センター、河川敷フェスティバル(プレ)、十三小学校盆踊り
8月	マルシェ、長居障がい者スポーツセンター、大阪府庁、さをり祭り、
9月	十三市、研修センター、大阪府庁、十三中学校、大阪市役所、御堂筋バザー、カフェBeコンサート、お月見マルシェ、
10月	長居障がい者スポーツセンター、十三中学校、研修センター、大阪府庁、マルシェ、食の文化祭
11月	みてあーと、全国生産活動(2日間)、藍野花園病院、大阪医療大学、十三中学校、大阪府庁、西区そよかぜ祭り、淀川で踊ろう区民センター、マルシェ、
12月	研修センター、長居クリスマスのつどい、大阪府庁、十三市、十三中学校
1月	研修センター、大阪府庁、十三市、十三中学校、
2月	大阪府庁、十三中学校、大阪市立中央体育館車椅子バスケットボール大会、第2みらい、研修センター
3月	カフェbeコンサート、大阪府庁、十三中学校、十三市

iv) 利用者への工賃額 541,600円

v) 年間売上げ 2,140,615円

利用者保健行事

i) 健康診断

前期 平成30年7月18日(水) 13:30~

後期 平成31年2月20日(水) 13:30~

(内容) 内科診察、血圧測定、身体測定、血液検査

※血液検査は前期のみの実施

「かわばたレディースクリニック」へ出向き実施した。

ii) レントゲン撮影

平成 30 年 9 月 19 日 (水) 13 : 00 ~

(内容) 医療法人桜峰会香川クリニックに依頼し、ジョブサイトよど玄関前で撮影。

iii) インフルエンザ予防接種

平成 30 年 11 月 21 日 (水) 河端レディースクリニックより川端医師がジョブサイトよどへ出向され、事務室で実施した。

iv) 歯科検診、歯みがき指導

前期 平成 30 年 10 月 11 日 (木) 13 : 30 ~

後期 平成 31 年 3 月 7 日 (木) 13 : 30 ~

(内容) いずみ歯科医院から来所いただき、アーリーアーク 303 号室で実施。

① 避難訓練実施日

- ・ 8 月 22 日 (水) 火災想定 ・ 10 月 24 日 (水) 地震想定
- ・ 12 月 11 日 (火) 火災想定 ・ 1 月 10 日 (木) 店舗火災想定
- ・ 2 月 21 日 (木) よど・店舗地震想定

避難場所：ジョブサイトよど・店舗 ➡ 淀川区役所

職員研修

○内部研修

4/11(水)	全体会 (事業計画について)	田端	全体	事業計画、クレド、予算などについて説明
5/9(水)	【講義】 ・ 自閉症の特性について ・ アセスメントの視点 (どうい う点に着目して様子観察す ればよいか)	中山氏	全体	【講義】 ・ 自閉症の特性について ・ アセスメントの視点 (どうい う点に着目して様子観察す ればよいか)
6/13(水)	e ラーニング内容デ ィスカッション	e ラーニ ング	よど、ブ ランチ それぞ れ	e ラーニング 1 ~ 6 章視聴。フ ィードバック記入。
7/11(水)	【講義】 自閉症の方とのコミ ュニケーション	中山氏	全体	【講義】 自閉症の方とのコミュニケー ション (ランチご利用者の事 例 3 ケース相談)
8/8(水)	衛生講習	岡野看護 師	全体	・ 院内感染予防、ノロ対応の実 践等

9/12(水)	【講義】 ・余暇活動の支援事例	中山氏	全体	【講義】 ・余暇活動の支援事例
10/10(水)	ハラスメント研修	田端施設長	全体	・ハラスメントについての、法人の規定説明。
11/14(水)	自閉症カンファレンス振り返り研修	水口・桶谷・鎌田	全体	自閉症カンファレンス振り返り研修
12/12(水)	ストレスマネジメント研修	河原（司会）	全体	簡単なゲーム等実施して懇親を図る
1/9(水)	事例発表①（ランチ・3F）	中山氏	全体	事例発表（ランチ：段、3F：河原）
2/13（水）	事例発表②（2/4F・5F）	中山氏	全体	事例発表（2/4F：米戸、5F：桶谷）
3/13(水)	【講義】 強度行動障害の支援事例	中山氏	全体	【講義】 強度行動障害の支援事例

○内部SV研修

中山氏SV

日付	研修内容	対象者	実施内容
5/9(水)	【講義】 ・自閉症の特性について ・アセスメントの視点（どういう点に着目して様子観察すればよいか）	全体	【講義】 ・自閉症の特性について ・アセスメントの視点（どういう点に着目して様子観察すればよいか）
6/13(水)	ランチSV	ランチ	5F・4F・2Fフロアご利用者のコミュニケーション面での課題についてSV
7/11(水)	【講義】 ・意思決定支援 ・自閉症の方とのコミュニケーション	全体	【講義】 ・意思決定支援 ・自閉症の方とのコミュニケーション
8/8(水)	5F SV	5F	T田さん、Y井さん、U田さんのケース相談
9/12(水)	【講義】 ・余暇活動の支援事例	全体	【講義】 ・余暇活動の支援事例
10/10(水)	2/4F SV	2/4F	S子さんのケース相談、コロッケ厨房についての相談
12/22(土)	親父研修会	親父	

12/12(水)	3 F S V	3 F	A立さん持ち物の整理についての相談
1/9(水)	事例発表①(ブランチ・3 F)	全体	事例発表① (ブランチ・3 F)
2/13 (水)	事例発表② (2/4F・5 F)	全体	事例発表② (2/4F・5 F)
3/13(水)	【講義】 ・強度行動障害の支援事例	全体	

堀内氏 SV

日付	午前	SV 内容	午後	SV 内容
4/2(月)	2 F	現状のフロアの状況やご利用者についての助言等	3 F	N河さん:清掃に参加できなくなった要因、上手くいっていた時の状況のふり返り
4/16(月)	ブランチ	10:00~新盤K式発達検査: 新規利用希望者S木さん	ブランチ	13:00~新盤K式発達検査:4F K林さん
5/7(月)	4 F	ご利用者が玄関に滞在することへの支援方法について相談	5 F 3 F	13:00-16:00 フロア内の支援のへの助言等 16:00-17:30N河さんケース相談
5/21(月)	ブランチ	M前さん・K崎さんの構造化について	ブランチ	K林さんの振り返り
6/5(火)	2 F	A野さんのワークシステム・スケジュールについて相談	3 F	N河さんの状況共有→支援の組み立てについて相談
7/2(月)	ブランチ	9:30~新盤K式発達検査:5 FM前さん	ブランチ	13:00~新盤K式発達検査:5FM 前さん
7/23(月)	2 F	人の動きが気になる・休みが続いていたご利用者の相談	3 F	N河さんの状況共有→支援の組み立てについて相談
8/6(月)	4 F	フロアご利用者の現状報告・モニタリング参加(K村さん)	5 F	フロアご利用者の現状報告・各ご利用者の課題を相談。
8/20(月)	ブランチ	T田さん本人と面談	ブランチ	M前さんご両親へ検査報告/M山さん母へ検査報告
9/3(月)	2 F	2.4F ご利用者の行動への助言・4FS子さんへの助言	3 F	N河さんの状況共有→支援の組み立てについて相談
9/21(金)	5 F	A山さんについて	4 F	S子さんの玄関で寝ることについての相談
10/1(月)	ブランチ	T田さん本人と面談	ブランチ	M見さん検査/M前さんコミュニケーションについて相談
10/22(月)	2 F	フロアのご利用者への助言	3 F	N河さんの行動について
11/5(月)	4 F	S子さんの玄関で寝ることについての相談・フロアのご利用者への助言	5 F	西Iさんの掃除活動、A野さんの他害行為、などについて相談

11/19(月)	ブ ラ ンチ	T田さん母、本人と面談	ブ ラ ンチ	M木さん検査/M見さん検査結果 スタッフへフィードバック
12/3(月)	2 F	A 野さんの帰宅時の買い物に ついて	4 F	S 子さんの作業を1人で行う方法 の導入について
12/7(金)	5 F	A 山さんとの面会。5階フロア 利用者支援への助言	3 F	N河さん検査
1/7(月)	ブ ラ ンチ	H井さん本人相談/M見さん 母へ検査報告	ブ ラ ンチ	Y田さんご本人・母面談/本日の 面談についてS Tへフィードバ ック
1/21(月)	2 F	O 越さん厨房での動線につい ての相談	3 F	N河さんの他のご利用者への言動 について
2/4(月)	4 F	S 子さんの個室空間の整理と 相手の気持ちを考えるための 視覚提示	5 F	A 野さんの他害行為、Y 井さんの 外出先の決定などについて
2/18(月)	ブ ラ ンチ	ブランチご利用者の相談	ブ ラ ンチ	ブランチご利用者の相談
3/4(月)	2 F	N 濱さんのご本人の意思の聞 き取り方法についての相談	3 F	・A立さん荷物整理の支援につい て
3/18(月)	4 F	S 子さん不調時の対応方法に ついて	5 F	A 野さんの他害行為、Y 井さんの 着替え、U 田さんの健診について

○外部研修

4/18 (水)	平成 30 年度新人職員のためのサービ スマナーセミナー	増田 知乃氏	鎌田
5/12(土)	e サービス中級講座：問題行動の理解 と冰山モデル	譲田芳和氏	米戸・藤 原・佐伯・ 相川・伊藤
5/26 (土)	e サービス中級講座：事例検討 1 支 援のプロセス	竹内恒氏	米戸・佐 伯・伊藤・ 相川
5/30 (土)	①大阪市からの行政報告 ②これからの障がい福祉サービスの 動向について	① 大 阪 市 よ り ②又村あおい氏	田端
6/9 (土)	「発達障がいのある人の成人期の支 援について」	中山 清(大阪市発達障がい 者支援センター研修会)	段・水口
6/9 (土)	e サービス中級講座：事例検討 2 実 際の支援	宮沢和也氏	伊藤・相 川・米戸
6/23 (土)	e サービス中級講座：事例検討 3 生 活を支える	譲田芳和氏	伊藤・相 川・藤原・

			米戸
6/28 (木)	大阪市障がい児・者連絡協議会 知的障害者施設部会 大阪市における障がい者・児相談支援事業の現状と課題について	大阪市担当者	田端
7/24 (火) 25 (水)	第41回てんかん基礎講座	公益財団法人日本てんかん協会	桶谷
8/18 (土) 19 (日)	PECS レベルワークショップ IN 大阪会場	永長朋之氏	段・米戸
8/25 (土) 26 (日)	自閉症カンファレンス NIPPON 2018	自閉症カンファレンス NIPPON 実行委員会 日本自閉症協会 朝日新聞厚生文化事業団	水口、桶谷、鎌田
9/18 (火)	強度行動障がい支援者養成研修基礎研修 (演習)	大阪府障がい者自立相談支援センター	米戸
9/19 (水)	強度行動障がい支援者養成研修基礎研修 (基礎)	ドーンセンター	河原
9/22 (土)	e サービス基礎講座: 評価から支援へ	真船亮 氏	鎌田、向田
10/3 (水)	強度行動障がい支援者養成研修基礎研修 (演習)	たかつガーデン	河原
10/9 (火)	強度行動障がい支援者養成研修基礎研修 (基礎)	大阪府障がい者自立相談支援センター	米戸
10/20 (土)	e サービス基礎講座: 構造化のアイデア	久保友圭子 氏	向田
10/24 (水)	第二回日中活動、生産活動・就労支援部会 (幹事会)	一般社団法人大阪知的障害者福祉協会	段・米戸
11/4 (日)	e サービス基礎講座: コミュニケーション	久賀谷洋 氏	向田
11/6 (火)	第三回学習会 精神障害の理解と支援について考える	森 実恵氏	段・若松
11/8 (火)	大阪知的障害者福祉協会施設長会 ①虐待事案の報告 ②不適切な支援を防ぐ～組織管理の視点から～	①大阪府福祉部障がい福祉室生活基盤推進課指定・指導グループ ②松上利男氏	田端
11/21 (水)	大阪知的障害者福祉協会生産活動・就労支援部会 (施設長会) 農福連携を先駆的にされている「さんさん山城」に見学に行く	さんさん山城	田端

12/7(金)	障がい者グループホームについて	大阪府立大学 三田優子氏	倉窪
12/7.8(土日)	就労支援フォーラム	日本財団	原田・段
12/25(火)	事業所間交流(人材育成研修室)		桶谷
1/8(火)	部署間交流研(ジョブサイトひむろ)		米戸
1/28(月)	事業所間交流(人材育成研修室)		桶谷
2/15(金)	関西学院大学人間福祉学科 社会福祉士実習検討会・懇談会	関西学院大学社会福祉士実習室	倉窪
2/22(金)	大阪授産事業振興センター研修会 『食品表示法 どこまでできていますか?Ⅱ』	主査 佐能正剛氏 主査 渡邊束穂氏	倉窪

12. ジョブジョイントおおさか・ジョブジョイントおおさか たかつきランチ

(1) 自立訓練(生活訓練)事業の実施状況の報告

実施したプログラム内容は、下記の通りである。

オフィスワーク、トライワーク、マイタイム、体力アップ、自分を知る勉強会、就活実践講座、リラクゼーション講座、マナー講座、ライフスキル倶楽部、土曜クラブ、特別プログラム(大人の社会見学、先輩のはなし、おもしろ専門講座)

(2) 就労移行支援事業の実施状況の報告

実施したプログラム内容は、下記の通りである。

オフィスワーク、トライワーク、マイタイム、体力アップ、自分を知る勉強会、就活実践講座、リラクゼーション講座、ライフスキル倶楽部、土曜クラブ、特別プログラム(企業実習(個別)、企業見学、企業研究講座、プレゼンタイム、面接会対策セミナー、先輩のはなし、おもしろ専門講座)

(3) 就労支援に関わる活動報告

①会社見学・大人の社会見学の実施

働くことを具体的にイメージできるよう、就労移行支援の方には「会社見学」を、自立訓練の方には「大人の社会見学」を実施し、たくさんの方の見学の機会を提供した。実施した内容は以下のとおりである。

平成30年度 会社見学			
1	(株) ニッセイ・ニュークリエーション	7/23	10名
2	(株) ニッセイ・ニュークリエーション	8/1	8名
3	(株) エイチ・ツー・オースマイル	10/16	10名
4	(株) エイチ・ツー・オースマイル	10/23	8名
5	(株) JR西日本あいウィル	12/7	13名
6	(株) ダイキンサンライズ摂津	2/4	13名

平成30年度 大人の社会見学

1	読売新聞大阪本社	9/13	11名
2	ヤマト運輸(株)関西ゲートウェイ	12/18	17名

②職場実習の実施

就労へのイメージづくりと実習先企業からのフィードバックによる利用者の成功の体験、課題の整理と明確化、実体験による新たな気づきを経た自己理解の促進等を実習のねらいとして実施した。また、就労移行支援事業の全利用者の方には1回以上の実習を提供し、就労への推進に向けて実習の取り組みを強化してきた。実習の実施状況は下記の通りである。

平成30年度 職場実習 (ジョブジョイントおおさか)	
実習件数 (述べ)	43件
実習利用者数 (実数)	20名
実習受入企業数	27社
主な実習内容	軽作業、商品の梱包、発送作業、事務補助、アンケート入力、データ入力、清掃、部品清掃、プログラムのテスター

平成30年度 職場実習 (ジョブジョイントおおさかたかつきランチ)	
実習件数 (述べ)	75件
実習利用者数 (実数)	30名
実習受入企業数	45社
主な実習内容	軽作業、クリーニング補助、データ入力、製造補助、郵便物仕分け、ピッキング、梱包、印刷補助、バックヤード、品出し、食品加工、事務補助、文字起こし、発送作業、介護補助、袋詰め、洗い場、

④就職者の状況

就職者の一覧は下記の通りである。

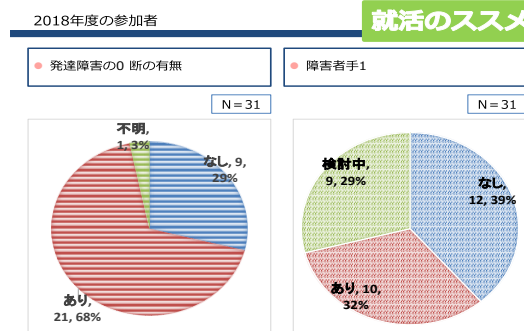
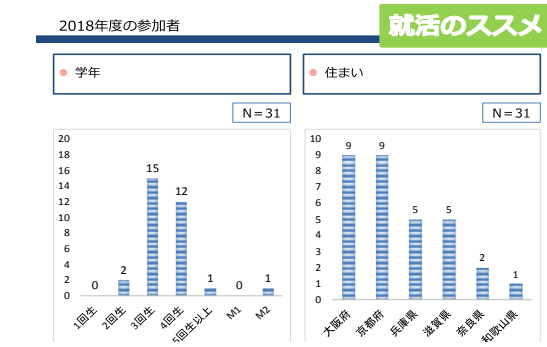
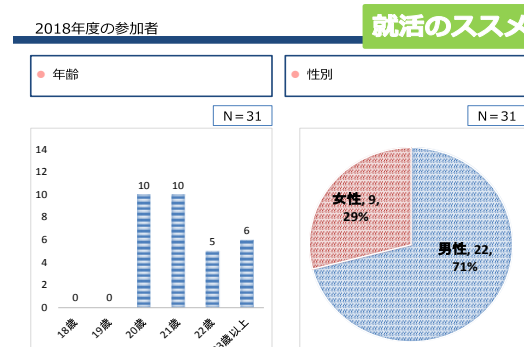
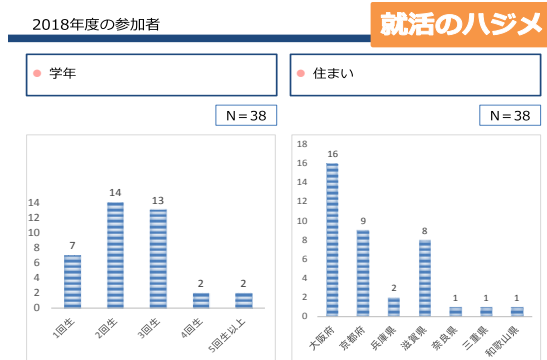
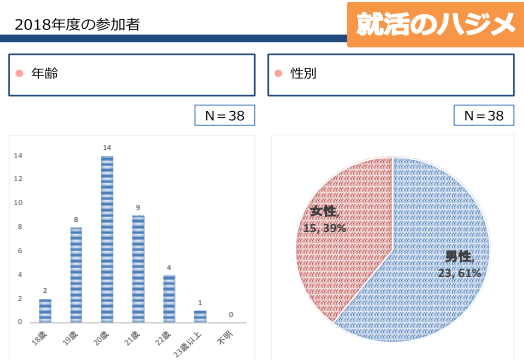
平成30年度 就職者 (ジョブジョイントおおさか 十三・高槻)		
1	(株) 希学園	4月～
2	(株) ベルシステム24	5月～
3	(株) 吉野工業所	5月～
4	(株) アーバンリサーチ	6月～
5	ハローワーク西宮	6月～
6	積水ハウス(株)	6月～
7	(株) 北部市場運送	8月～
8	(株) かんでんCSフォーラム	8月～
9	(株) 日本サンガリアベバレッジカンパニー	9月～

10	ウェルシアオアシス (株)	9月～
11	泉尾特別養護老人ホーム第二大正園	10月～
12	(株) スミセイハーモニー	10月～
13	(株) タイムマシン	10月～
14	(株) 日本ビジネスデータプロセッシングセンター	10月～
15	合同会社オフィスぼん	10月～
16	(株) ダイフク	10月～
17	(株) ダイキンサンライズ摂津	11月～
18	(株) リバーズ	11月～
19	(株) 吉野工業所	12月～
20	(株) ヨシムラオートサービス	2月～
21	阪神ロジテム (株) 高槻センター	2月～
22	(株) ベルシステム24	3月～

(4) 発達障がい学生のための就職支援プログラムの実施報告

①参加学生について

以下のとおり、就活のハジメ 32名、就活のスズメ 27名の学生に参加があった。



これまでのあゆみ

夏・春の長期休暇中にインターンシッププログラムとして実施
2014年度より学生の登録制・年間を通してのプログラムとして実施

	2012年	2012年度	2013年	2013年度	2013秋	2014年	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	合計
実施		13社(学生) × インサイト				13社(学生) × インサイト	13社(学生) × インサイト	13社(学生) × インサイト	13社(学生) × インサイト	13社(学生) × インサイト	13社(学生) × インサイト	13社(学生) × インサイト
学生	-	-	-	-	-	1期:30名 2期:12名	22名 24名	22名 24名	27名 32名	27名 32名	38名 31名	380名
企業	3名	17名 17社	37名 37社	20名	7名	10名	16名 14名	23名 14名	25名 22社	22名 20社	21名 20社	179社

②プログラムの概要

下記の通り、1年間の中で「就活のハジメ」「就活のスズメ」それぞれにプログラム提供を行った。

また、毎年実施してきた長期休みを活用したインターンシップを夏休みに実施。22名の学生が参加し、20社の企業にご協力いただいた。

詳細は以下のとおりである。

働くチカラ342/EC5

発達障害コミュニケーションが苦手な大学生のための
働くチカラPROJECT

全学年対象 E9・4回生9 院生対象

就活のハジメ **就活のスズメ**

働くチカラPROJECTとは・・・
発達障害のある大学生やコミュニケーションが苦手な大学生のための就職支援プログラムです。就職活動に不安を感じている方へ「働くイメージづくり」と「K」方におすすめる

働くチカラ342/EC5のポイント

ビジネスマナー・人間関係のルールを学ぶことができます!

社会人になる前に7 社会人として必要なビジネスマナーを具体的に学ぶことでP ます8

周りの人とのコミュニケーションの取り方を実践!

コミュニケーションが苦手な方も基本を学んだ上でグループワークやロールプレイを行う7 練習8 実践OでP ます8

自分に合った仕事を見つけための「自己理解」と「企業研究」

インターンシップや講座を通じて自分の得意なことや苦手なことの整理を行います8

仲間ができて!

同じような苦手Tを持つ人たZとグループワークや協同して活動することで7 気の合K仲間もてP ます!

就活のハジメ **2 学年 対象** **2018年0**

就活のハジメは、これからの就職活動に向けての「準備講座」となっています。社会人としての基本的なコミュニケーションと、ビジネスマナーを学びます。最終日には、これからの就職活動に向けての目標を設定を行います。一緒に就職活動の準備をハジメていきましょう!

1回: コミュニケーション講座 2回: ビジスマナー講座 3回: 就職活動の1 歩設定

就活のハジメは、就職せずに、リターンして働きたい方にもおすすめです。安心して応募をお待ちしています!

概要	
4 程	1期・2期いずれかをお選びください。内容は同じです。 1期: 11/3,11/10,11/17 2期: 2019 2/16,2/23,3/21
時間	いずれも 14:00~ 17:00
対象	5 学 0 全回: K1・短5・専門学校
定員	1 期につき 15名
参加費	1 期につき 10,800円(税込) 1日目の午前に会場にてK 払ください
7 9	ジョブポイントおおさか たかつ港プラチ

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

就活のスズメ **3・4 回生・2 生 (短大・専門: K8 の卒業生を含む) 対象** **2018年0**

就活のスズメは、就職活動のための「基礎講座」となっています。オプションメニューとして、企業Bのインターンシップがあり、「働く」Oとの実体験を積むOとができます。2 企業とインターンシップ8の実践を通し、自分に合った仕事や働き方のイメージづくりをスズメていきます1 よう!

メインプログラム		オプション インターンシップ	
第1回	1月1日(土) オリエンテーション、先輩の話	7月	職業体験(エト) インターンシップの紹介
第2回	7月 7日(土) ビジスマナー講座	8月	8/4 インターンシップガイダンス
第3回	8月 4日(土) 企業研究	8月 中旬	インターンシップ(日) 日程
第4回	7月 8日(土) 面接対策講座(自己PR作成)	5 10月	個別の面接と進路相談
第5回	10月20日(土) コミュニケーション講座	11月	インターンシップ報告会
第6回	12月 1日(土) キャリアプランニング集形式		
対象	3・4 年 生(短大・専門)学校等の卒業生	対象条件	インターンシップに関する全てのプログラムに参加できる方
P 費	3 名	P 員	Z 名
参加費	32,400円(税込) 7 9 回に現金でお支払いください	参加費	21,000円(税込) 7
会場	第1回: 高槻現代劇場(高槻市立公民館) 第2回: 京橋・高槻・木曽 各会場に合わせて実施 9 各会場の会場お申し込みにてお申し込みください	備考	インターンシップは、ご本人の希望・お住まいの地域等を考慮の上で行われます
備考	登録料が必要です。 郵送での参加はできませんので予めご了承ください		

Copyright en+courage Co., LTD. All Rights Reserved

(5) その他の活動に関わる報告

①見学会の開催

十三・高槻で毎月1回の頻度で事業所の見学会を開催した。

②就職者(OB)向けのソーシャルクラブの実施

OB同士の交流や意見交換が行えるよう、OB向けのソーシャルクラブ(ジョイふるJJ)を実施した。

今期は、新しい企画として夕方から夜まで事業所を解放して溜まり場的に集ってもらえるよう「じょぶよる」と題して実施。軽食とお酒・ジュース等を用意し、ゲームをしたり、雑談をしたりと自由に過ごしてもらえる機会を提供した。

平成30年度 ジョイふる JJ	
日付	内容
4/28 (土)	上半期の計画立て
5/25 (土)	じょぶよる
5/26 (土)	女子会
6/16 (土)	カラオケ

7/7 (土)	趣味の発表
8/4 (土)	淀川花火大会
9/22 (土)	バーベキュー
9/29 (土)	趣味の発表
10/20 (土)	USJ/海遊館
11/10 (土)	DVD鑑賞
12/1 (土)	女子会
12/22 (土)	忘年会
1/19 (土)	ボーリング/勉強会
2/2 (土)	インドア活動
3/2-3 (土)	白浜温泉旅行 (1泊2日)
3/16 (土)	女子会/カラオケ

③家族ミーティングの実施

ご利用者のご家族を対象に、家族間の交流と勉強会を兼ねて家族ミーティングを定期的で開催した。毎回、20～25名程度のご家族にご参加いただき、お父さんのご参加も一定数あった。実施内容は下記の通りである。

平成30年度 家族ミーティング		
	日付	テーマ
1	5/26 (土)	JJおおさかについて
2	8/18 (土)	障がい特性について
3	12/22 (土)	就労支援の仕組みについて
4	2/2 (土)	お子さんの生活面、将来について

④内部研修の実施

全スタッフを対象に以下の内部研修を実施した。

日付	研修内容	講師
5/16 (水)	JJ独自の行動指針の完成	主任
8/8 (水)	グループプログラムの検討	主任
9/12 (水)	高機能自閉症の相談支援	岩井 (立命館)
12/5 (水)	権利擁護・虐待防止	平野
1/23 (水)	精神障害の就労支援	太田 (宇治おうばく病院)
3/27 (水)	ケース検討	中山 SV

正規職員を対象に星明ゼミ (勉強会) を開催した。

日付	研修内容	講師
5/30 (水)	ソーシャルストーリー	真下
6/11 (水)	就労風景	星明
7/9 (水)	就職者の事例検討	星明
8/2 (水)	ケーススタディ	星明

8/29 (水)	タイプ別就労支援の進め方	星明
10/17 (水)	ケーススタディ	山田
12/13 (水)	個別支援計画	星明

⑤北摂杉の子会アート展

チラシのとおり、たかつきランチで開催した。今年は昨年以上に多くの方にご参加いただくことができた。

⑥JJおおさか主催の実践報告会の開催

チラシのとおり、高槻商工会議所で開催した。定員以上の多くの方にご参加いただくことができた。

⑦就職先企業向けの意見交換会

就職先の企業のみを対象に意見交換会・セミナーを開催した。

日付	研修内容	参加者
5/23	意見交換会 (グループワーク)	6名
12/6	障がい者雇用セミナー	20名

⑧高槻島本地域の企業向け意見交換会

たかつきしまもと障がい者就労支援ネットワークと高槻市障がい者就業・生活支援センターと協働で企画、開催した。

日付	研修内容	参加者
7/4	サンスター見学+意見交換会	15名
11/9	ご講演 2本 (株式会社エムツープレスト増本社長) (富田長病院 上井事務局長) 意見交換	15名
2/26	ご講演 1本 (有限会社奥進システム奥脇社長)	10名

	意見交換	
--	------	--

⑨コンサルの活動報告

大阪学院大学、大阪保健医療大学、株式会社ドコモ・プラスハーティとそれぞれ契約を交わし、月1回もしくは数ヶ月に1回程度の定期訪問を行い、専門的支援を実施した。

⑩講師派遣の活動報告

以下のとおり、外部機関から講師派遣の依頼を受け、平成30年度は昨年度以上の依頼があった。

	日付	研修内容	場所
1	4/4	十三アオクスル祭り	十三
2	5/18	ディスカバリー研修会	大阪
3	6/5	関西学院大学安田ゼミ	関学
4	7/25	就労支援基礎講座（就労ネット）	高槻
5	7/27	城東区自立支援協議会	城東区
6	8/22	ジョブコーチ養成研修（職業センター）	堺筋本町
7	9/13	筑波大学研究協力	東京
8	9/15	ご家族向けセミナー（大阪学院大学）	大阪
9	9/21	大学向け研修会（大阪労働局）	大阪
10	9/27	枚方市就労支援研修	枚方
11	9/29	就労・相談支援ワークショップ（eサービス）	谷町
12	10/18	定着支援の勉強会（就労ネット）	高槻
13	11/17	研修会（雇用支援ネットワーク）	大阪
14	11/18	勉強会（コネクト）	宍粟
15	11/26	ジョブコーチ養成研修（JC-NET）	大阪
16	12/9	学内と関係機関向け研修会（立命館）	大阪
17	12/12	ジョブコーチ養成研修（職業センター）	堺筋本町
18	12/13	SORA 職員勉強会	枚方
19	12/18	企業向け研修会	大阪
20	1/27	OT 向け研修会	茨木
21	2/15	企業向け研修会	姫路
22	2/23	職リハ学会国際委員会研修会	東京
23	3/1	職リハ学会近畿ブロック研究会	大阪
24	3/17	CEF2019（就労支援チップス）	東京

13. アクトおおさか

(1) 発達障がい児（者）及びその家族等に対する相談支援と情報提供（家族等に対する家庭等での発達支援に関する相談支援と情報提供含む）

i) 実施内容

発達障がい児（者）またはそのご家族等からの相談に対する助言および情報提供。主訴に応じて、インテーク面接、相談等を実施し、指導助言ならびに情報提供を行った。必要な場合は、医療機関、他の診断評価機関との連携により医学的・心理的な診断・評価を行うよう紹介した。

ii) 実施回数

個別支援：実支援人員 964人 延支援件数 1,839件

個別支援のための調整会議：延実施回数 8回 延参加機関数 15機関

(2) 発達障がい者及びその家族等に対する、就労に関して必要な相談等による支援

i) 実施内容

発達障がい者またはそのご家族等からの、就労に関する相談に対しての助言および情報提供。

主訴に応じて個別の就労支援、ご家族・事業所へのサポート等の一連の支援を、地域障がい者職業センター、障がい者就業・生活支援センター、公共職業安定所等との連携により実施した。

ii) 実施回数

個別支援：実支援人員 176人 延支援件数 823件

個別支援のための調整会議：延実施回数 26回 延参加機関数 43機関

(3) 機関コンサルテーション

i) 実施内容

相談支援事業所、地域活動支援センター、自立訓練・就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、生活介護事業所等に対し、発達障がいの特性に合わせた支援方法等についての助言や情報提供を行った。

ii) 実施回数

相談支援に関する機関コンサルテーション： 294件

就労支援に関する機関コンサルテーション： 23件

(4) 発達障がい者地域支援マネージャー事業

※訪問回数には、事業内容の調整のための訪問も含む。

i) 実施内容

発達障がい児者がライフステージを通じて、身近な地域において安心して暮らすことができるように、発達障がい者地域支援マネージャーが地域自立支援協議会等を通じて、地域支援体制の機能強化を支援する。

ii) 実施回数

訪問した市町村：東大阪、豊中市、高槻市、八尾市、岸和田市、和泉市、羽曳野市、阪南市・岬町、太子町、能勢町

訪問回数：延73回

参加機関：延べ608機関

参加者：延べ1122名

(5) 発達障がい者支援センター連絡協議会

i) 実施内容

年2回発達障がい者支援センター連絡業議会を開催する。

ii) 実施回数

延実施回数 2回 延参加機関数 29機関

参加機関

- ・大阪LD親の会「おたふく会」
- ・一般社団法人大阪自閉スペクトラム症協会
- ・大阪府発達障がい児療育拠点6か所
(青空(そら)/will/Link/PAL/Sun/Wave)
- ・NPO法人DDAC 発達障害をもつ大人の会
- ・大阪障害者職業センター
- ・大阪府就業促進課(OSAKAしごとフィールド)
- ・大阪府若者サポートステーション
- ・大阪府こころの健康総合センター
- ・大阪府障がい者自立相談支援センター
- ・大阪府池田子ども家庭センター
- ・大阪府教育庁教育総務企画課企画調整グループ
- ・大阪府福祉部障がい福祉室地域生活支援課発達障がい児者支援グループ

(6) 関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修

i) 実施内容

a) 支援者対象公開講座

日時・場所：平成30年7月5日 14:00～16:30 ・ドーンセンター

内容：「発達障がいの理解と家族支援について」(講義)

講師：大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター 准教授 望月 直人氏

「ペアレント・メンターの話」

報告者：大阪府ペアレント・メンター

参加者：37名

b) 府民及び支援者対象講座

日時・場所：平成30年12月3日 14:00～16:45 ・大阪市立阿倍野区民センター小ホール

内容：第一部 発達障がい児の早期療育および家族支援の重要性と今後への期待—大阪府発達障がい児療育拠点事業の予後調査の結果を踏まえて—

講師：武庫川女子大学 教授 新澤 伸子氏

第二部 実践報告

報告者：発達障害支援センターPAL 上田 裕子氏

こども発達支援センターSun 田中 すみえ氏

自閉症児支援センターWave 須川 明子氏

参加者：214名

(7) 地域支援を考える会

i) 実施内容

a) ルーキーのための三回連続講座

第一回

日時・場所：8月2日 14:00～16:30・大阪産業創造館

内容：発達障がい基礎理解と家族支援についての講義

講師：鳴門教育大学大学院 准教授 小倉 正義 氏

参加者：24機関27名

第二回

日時・場所：10月4日 14:00～16:30・大阪産業創造館

内容：発達障がいのあるお子さんを持つペアレント・メンターさんの子育て経験談

講師：おたふく会 竹澤 澄子 氏

参加者：19機関21名

第三回

日時・場所：12月6日 14:00～16:30・大阪産業創造館

内容：発達障がいの支援の基本についての講義、グループでの事例検討

講師：アクトおおさか 副センター長 山根 和史

参加者：19機関21名

b) 発達障がい児者サポートプロジェクト（泉州・南河内版）“地域コミュニティーの中心支援者”のためのオーダーメイド式研修会～第一回

日時・場所：7月20日 0:00～12:00・岸和田市立福祉総合センター

内容：意見交換会：発達障がいのある方と関わる上での支援の課題、所属先の課題、地域の課題について意見を出し合い、何が必要かを話し合う。

参加者：4機関（5名）

第二回

日時・場所：10月30日 14:00～16:00・岸和田市立福祉総合センター

内容：意見交換会：第1回で挙げた「つなぐ際他機関とのズレ」について焦点を絞り話し合う

参加者：4機関（6名）

第三回

日時・場所：日時・会H31年1月21日 14:00～16:00・岸和田市立福祉総合センター場

内容：意見交換会と多領域でのアセスメントシート・引継ぎシートの共有：第2回で挙げた課題に即して多領域で使用されているアセスメントシートや引継ぎシートを共有し、今後の参考とする。

参加者：3機関（5名）

(8) ペアレントサポート事業（ペアレント・メンター事業）に係る業務

i) 委託事業名 ペアレントサポート事業（ペアレント・メンター事業）

ii) 委託期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

iii) 実施内容

a) ペアレント・メンターフォローアップ研修

日時・場所：10月31日(水)10:00～16:45 ドーンセンター大会議室1

内容：行政の最新情報（福祉・教育・就労）、講義：自分の体験の語り

実技：体験の語り（3、4人グループ）、講義：グループ相談

実習：グループ相談（7人グループ）、まとめと修了証書の授与

参加者：14名

b) ペアレント・メンタースキルアップ研修

日時・場所：2月23日（土）13:00～16:00・ドーンセンター大会議室2

内容：メンター活動を安心して行う方法についてグループワーク

参加者：14名

c) ペアレント・メンターの派遣

派遣回数：24回

派遣メンター数：延べ15名

ペアレント・メンター活動への参加者：1417

1.4. 児童発達支援部

【こども相談支援センターwish】

(1) 計画相談の報告

① 計画相談の実数

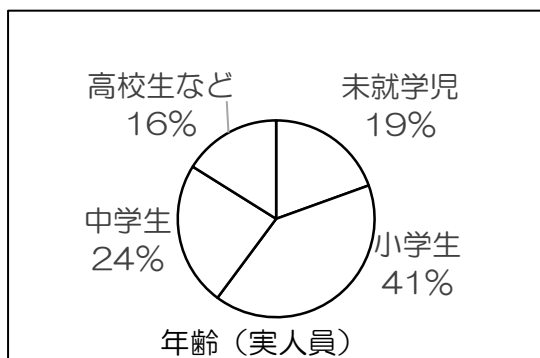
延べ 91 件（内新規ケース 3 ケース、相談事業所の変更受け入れ 1 ケース）

② 意思決定支援への取組み

・継続して、ご本人がサービス担当者会議に参加する会議を実施。会議を通して、今後の方向性や今の目標についても確認を行うことができた。

・利用されている事業所への訪問を通して、ご本人との面談し、希望する生活について聞き取りを行った。事業所でのモニタリング等からも、ご本人が発信した内容を確認し、ご本人のニーズの知るよう努めた。

(2) 障がい児相談の報告



①平成30年度の相談実数

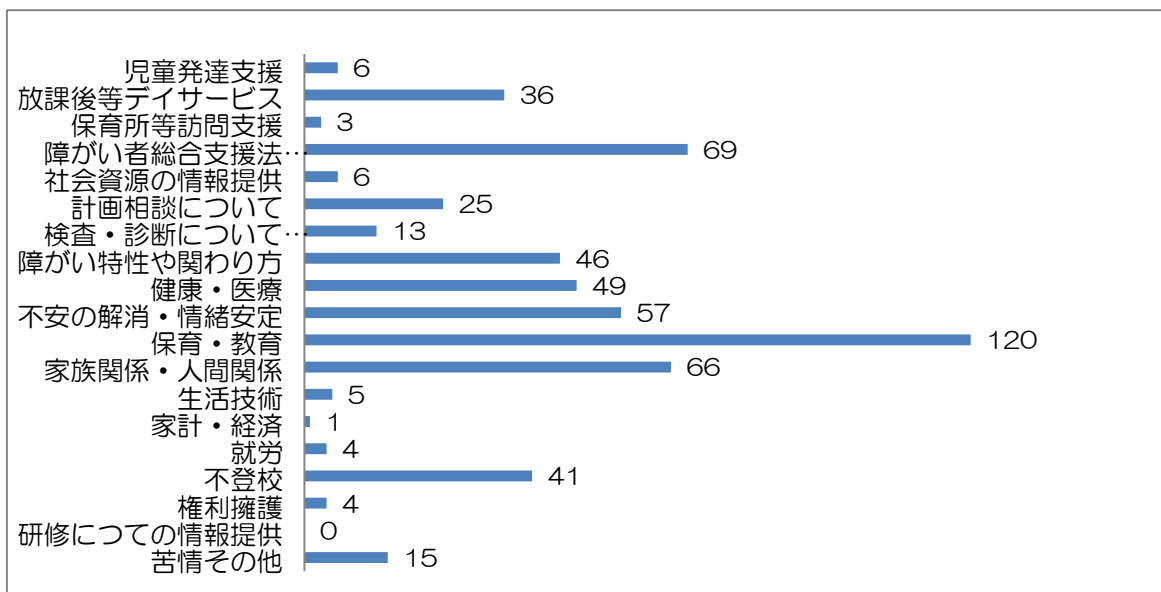
実人員 118 名、336 名（延べ人数）

【相談対象者】

障がい種別については、発達障がいの診断を受けている方が、7割占めている。知的障害を伴わないASDの方の相談が増えている。未診断の方の相談においては、全体の2割。ASDの疑い

を感じる傾向の相談がほとんどである。

【支援内容】



- ・相談の内容は、学校での相談が多く、昨年度より増加。学校での過ごしや、友だちとのトラブルや学校への理解の得方、またスクールソーシャルワーカーより相談を受けるケースも増えた。その中で、不登校になってしまったという相談が年々増えている傾向にある。教育の場における発達障がいの理解と合理的配慮、発達障がいの疑いのある生徒に対して保護者の理解をどう得るか課題としてあがっており、発達障がいについての周知や広報の必要性を感じる

- ・保護者からの相談が一番多いが、年々、関係機関からの相談も増え、wish の地域としての役割が認知されてきたと考える。

②今後の課題

- ・wish の特色として、やはり発達障がいのお子さんの相談が主であり、その中でも学校における相談ニーズが高いことから、発達障がいの理解、支援方法について周知を広げていきたいと考える。

- ・不登校の相談が年々増えていっているため、将来引きこもりにならないよう家族支援を中心に行い、地域資源を開拓していきたいと考えている。

- ・今年度は、災害（地震、台風）による被害があったため、災害における対策等地域課題として検討していきたいと考える。

(3) 連携強化

① 高槻市の自立支援協議会への参画及び市との連携

i) こどもワーキング

- ・年間 5 回参加

- ・今年度は、茨木支援の教員のみ福祉制度についての勉強会を実施。高槻・摂津支援においては、地震の影響で実施できなかった。引き続き、平成 31 年度も実施予定である。

- ・家庭、教育、福祉サービス等の連携を図るための連携シートを支援学校在籍児4名でモデル実施を行った。連携シートの活用においては、モデル実施後振り返りを行い、平成31年度からどう導入していくか検討を図る。

- ・医療的ケア児に対する現状について情報共有を行った。継続して、医ケア児の地域課題について検討をしていく。

ii) ケアマネジメント連絡会

- ・児童の地域課題の「通学支援」については、こどもワーキングで平成31年度検討を図ることとなった。

- ・相談の地域課題「計画相談の受け入れの難しさ」「成人期への移行の課題」等あがっていた。平成31年度は、ケアマネジメント連絡会の中で、4つのグループに分かれて「地域課題」「相談業務」「社会資源」「研修」に分かれて検討することになった。

- ・情報共有チームに所属し、相談支援事業所として必要な研修について企画検討し、年1回、相談支援事業所のスタッフに向けての研修を実施した。府の障害者相談支援アドバイザー市町村派遣事業を使い、相談支援の役割の再認識、連携の仕方についてグループワークを行った。

iii) 高槻市障がい児相談支援事業所連絡会

- ・月1回、子ども未来課児童発達支援事務所と障がい児相談支援事業所を含めた連絡会を実施。市の動向や放デイの情報等共有を図った。

② 相談支援事業所との連携

- ・月1回、障がい児相談支援事業所と勉強会を実施。ケース検討や放デイ等の地域の情報交換、地域課題に向けての検討等を行った。相談支援は孤立してしまいがちな点があるため、法人を超えて同じ悩みの共有が図れおり、メンタル面においても支えとなっている。継続して、実施予定。

③ 法人内事業所との連携

- ・あんだんと隔月に1回のペースで、会議を実施。ケース検討やサービス提供事業所の情報共有等を行っている。児童のみならず、成人の課題を知ることにも繋がり、相談に反映することができる。

- ・新澤伸子氏による年4回ケース検討のSVを実施。ケースを進めるにあたり、第3者の意見を聞けること、的確なアドバイスを頂けることで、メンタル面におけるサポートにも繋がり、相談支援を進めていくにあたり心強かった。

④ その他

- ・人権教育講座の「発達障がいってな～に ～ひとりひとりのこどもの個性を大切に」というテーマで講師派遣として行った。

【サポートセンターPASSO】

(1) 申込み及び利用者の状況について

① 新規申込み及び新規利用決定者の数（定員20名程度）

市町村名	30年度新規申し込み者				30年度新規利用決定者				決定者数
	学齡児		中高生		学齡児		中高生		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
大阪市	7	3	3	1	3	2	3	0	8
高槻市	2	1	3	1	0	0	3	1	4
吹田市	0	0	1	1	0	0	0	0	0
茨木市	3	1	0	2	2	0	0	1	3
豊中市	0	0	0	0	0	0	0	0	0
箕面市	2	1	1	0	1	0	1	0	2
摂津市	1	0	1	0	1	0	0	0	1
寝屋川市	1	0	0	0	1	0	0	0	1
枚方市	0	1	0	0	0	1	0	0	1
東大阪市	1	0	0	0	0	0	0	0	0
泉大津市	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合計	17	7	10	計 39	8	3	7	2	計 20

① 30年度利用者(新規利用者+継続利用者の数)

市町村名	新規利用決定者				継続利用者				利用者総数
	学齡児		中高生		学齡児		中高生		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
大阪市	3	2	3	0	3	0	7	4	22
島本町	0	0	0	0	0	0	2	0	2
高槻市	0	0	3	1	2	0	10	0	16
吹田市	0	0	0	0	1	0	2	0	3
茨木市	2	0	0	1	1	0	1	1	6
摂津市	1	0	0	0	0	0	0	0	1
豊能町	0	0	0	0	0	0	0	1	1
豊中市	0	0	0	0	0	0	1	0	1
箕面市	1	0	1	0	0	0	1	2	5
枚方市	0	1	0	0	0	0	1	0	2
寝屋川市	1	0	0	0	0	0	0	0	1
藤井寺市	0	0	0	0	0	0	1	0	1
泉大津市	0	0	0	0	0	0	1	0	1

松原市	0	0	0	0	0	0	1	0	1
高石市	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	8	3	7	2	7	0	28	9	計 64

② 利用者の所属機関（64名）

小学校	中学校	支援学校 小中等部	支援学校 高等部	高等支援 学校	公立・ 私立高校	単位制・通 信制高校	一 般 就 労
17	27	2	6	3	5	3	1

③利用終了者で本人相談を利用している方

市町村	男	女	合計
高槻市	1	3	4
大阪市	1	0	1
泉大津市	1	0	<u>1</u>
			合計 6名

④利用終了者で本人相談を利用している方の所属先

就労移行支援事業所	就労継続 B 型	専門学校	大学	在宅
3	1	1	1	0

(2) 療育の利用率

【契約内容】

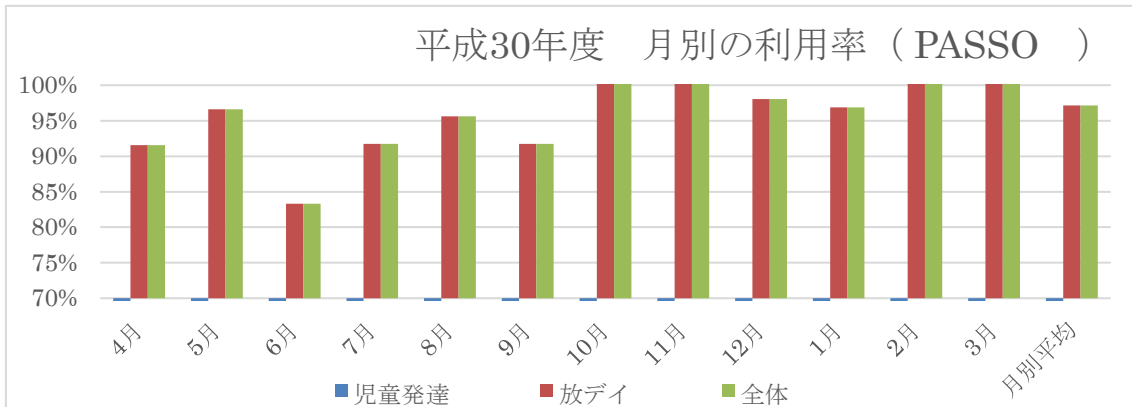
	児童発達	放デイ	全体
契約定員（名）	0	63	63
年間延べ回数	0	1134	1134
年間必要回数	上限（一人：18回以上）		
1日定員	上限（1日10～12名）		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達（名）	放デイ（名）	全体（名）	利用率（％）
4月	0	76	76	92%
5月	0	57	57	97%
6月	0	80	80	83%
7月	0	100	100	92%
8月	0	87	87	96%
9月	0	100	100	92%
10月	0	102	102	113%
11月	0	93	93	101%
12月	0	101	101	98%
1月	0	93	93	97%
2月	0	81	81	101%
3月	0	79	79	110%

年間合計	0	1050	1050	97%
月平均	0	150	150	97%

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) PASSO くらぶ 参加者

	男	女	合計
科学電車 くらぶ	5	0	5
料理製作 くらぶ	2	3	5
合計	7	3	10

(4) 就労準備プログラム 参加者

	男	女	合計
JJ 実習体験	7	1	8
企業実習体験	2	1	3
合計	9	2	<u>11</u>

(5) 保護者研修について

①入門講座 年間プログラム (20名)

■日 時：全5回、2018年5月から1月まで実施

■会 場：大阪市淀川区民センター

	開催月	テーマ	参加者
第1回	5月	自閉症の特性の理解と支援	12
第2回	6月	家庭で大切にしたい支援 PASSO療育より	16
第3回	9月	思春期をどう乗り越える？ 医療、友人関係、性、進路を考える	14
第4回	11月	自己理解と告知について考えよう	15
第5回	1月	自立支援と就労（キャリア教育！就労準備前訓練） ～将来を見据えて今、大切な事～福祉制度を知ろう	14

■ 保護者研修「入門講座」参加率表

	参加予定	参加者	出席率 (%)
5月	17	12	71%

6月	17	16	94%
9月	17	14	82%
11月	17	15	88%
1月	17	14	82%
年間利用率	85	71	83%

②フォローアップ講座 年間プログラム (20名)

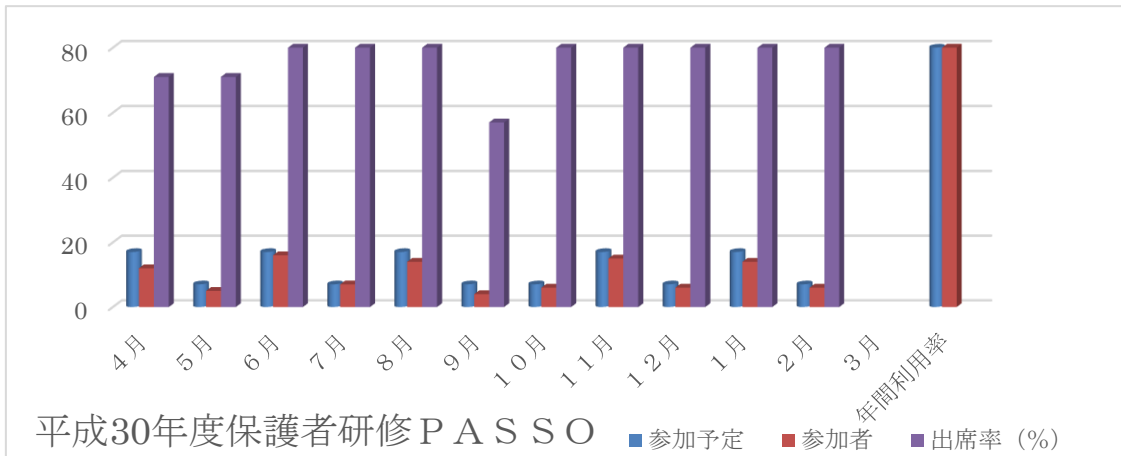
■日 時：全6回、2018年6月から2月まで実施

■会 場：大阪市淀川区民センター

	開催月	テーマ	参加者
第1回	6月	人とのかかわりやコミュニケーションにおける課題 ①～人との関わりを中心に～	5
第2回	7月	人とのかかわりやコミュニケーションにおける課題 ②～コミュニケーションを中心に～	7
第3回	10月	進路選択や自己理解支援について① ～自己理解支援を中心に～	4
第4回	11月	公開講座～PASSO 実践報告会～ 事例により思春期における支援を学ぶ	6
第5回	12月	進路選択や自己理解支援について② ～進路選択を中心に～	6
第6回	2月	茶話会～学校との連携や家庭での支援～ OB会のみなさんと一緒に	6

■ 保護者研修「フォローアップ講座」参加率表

	参加予定	参加者	出席率 (%)
6月	7	5	71%
7月	7	7	100%
10月	7	4	57%
11月	7	6	86%
12月	7	6	86%
2月	7	6	86%
年間利用率	42	34	80%



(6) 療育相談について

【来所相談件数】

※学校など関係機関が PASSO 来所され相談された件数含む(費用は保護者負担)

相談者	利用児	外来一般相談	合計
保護者	36	6	42
本人	124	15	139
合計	160	21	<u>181</u>

(7) 発達検査について

【検査件数】

	利用児	外来検査	合計
TTAP	15	1	16
Vineland II	4	0	4
PEP III	0	0	0
WAIS III	0	0	0
合計	19	1	<u>20</u>

(8) 訪問相談

相談者	療育児	合計
小学校	0	0
中学校	0	0
高校・大学	0	0

(9) 紹介状作成

相談者	療育児	一般相談
小学生	1	0
中・高校生	0	0

(10) 普及啓発事業

①実習生受け入れ状況

実施日	内容	対象者
-----	----	-----

2018. 12. 5～ 2019. 1. 23(計 6 回)	公認心理師養成	武庫川女子大学大学院生 1 名
------------------------------------	---------	--------------------

②見学受入状況（今年度は新規療育児対象）

保護者		学校職員	施設職員	大学生	合計
4		0	0	0	<u>4</u>

(11) 学校など関係機関連携加算件数(制度を使つての療育見学と支援目標の共有)

相談者	療育児	合計
小学校	16	16
中学校	10	10
支援学校	1	1 <u>総合計 27</u>

(12) 事業所内相談支援加算件数(延べ回数)

相談者	療育児	合計
小学生	6	6
中学生	6	6
高校生	1	1 <u>総合計 13 件</u>

【 PASSO 公益事業 】

(1) 教育委員会より委託研修

講師派遣先		累計件数
研修先	高槻市小学校・中学校・教職員研修	18 件
	摂津市小学校・中学校・教職員研修	26 件
	豊能町小学校・中学校・教職員研修	6 件
研修合計		54 件

① 高槻市教育委員会

i) 巡回相談

小学校 3 校 延 11 回

ii) 4 回連続講座 30 年 5 月 26 日、6 月 8 日 7 月 13 日、7 月 20 日

iii) テーマ別実技研修「自立課題作り」「自立活動」30 年 8 月 3 日午前・午後

iv) 実践報告会 31 年 2 月 15 日

② 摂津市教育委員会

i) 巡回相談

小学校 4 校、中学校 1 校 延 18 回

ii) 基礎講座 「自閉スペクトラム症の特性とわかりやすい環境」

「わかりやすい環境作り～個に応じた環境整備～」

「自立課題を作ろう」

30 年 5 月 18 日、6 月 4 日、6 月 29 日

iii) テーマ別実技研修「自立課題」30 年 8 月 1 日、10 月 5 日 2 講座

iv) 実践報告会 31 年 2 月 22 日

③豊能町教育委員会

i) 巡回相談

小学校 1校、延 4回

ii) 基礎講座 「自閉スペクトラム症の特性と自立活動」 30年6月15日

iii) テーマ別実技研修 「自立課題」 30年7月27日

(3) 淀川区子育て支援事業(平成30年度 大阪市淀川区委託事業)

■会場：大阪市淀川区役所

① 親子講座

	開催月	テーマ	参加者
第1回	8月	夏休みの宿題といえど！工作に楽しくチャレンジ♪ ～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	3
第2回	9月	いっしょにあそぼう★おやこで楽し、リトミック♪ ～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	3
第3回	11月	メリー★クリスマス おやこで楽しく、クリスマス会 ♪～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	4
第4回	12月	おやこで楽しく、お正月遊び ～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	2
第5回	1月	～親子遊びと、保護者同士の意見交換会～	4

●ピアカウンセリング

① 実施回数：40回実施

② 実施期間：5月11日～2月22日

③ 実施曜日：金曜日

●一時保育

① 実施回数：14回実施（ピアカウンセリング・親子講座・座談会の時に実施）

② 実施期間：5月11日～2月22日

③ 実施曜日：金曜日

【児童デイサービスセンターan】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	56	24
合計	56	24

②療育の利用率

【契約内容】

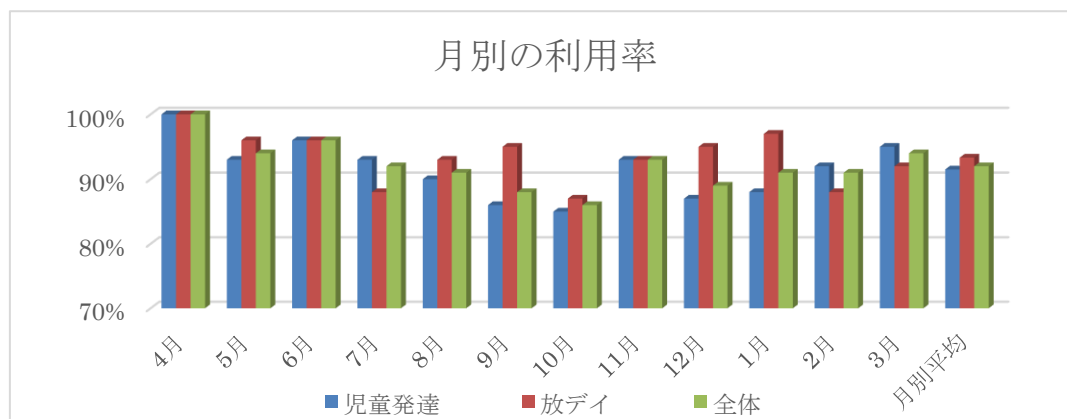
	児童発達(名)	放デイ(名)	全体(名)

契約定員（名）	56	24	80
年間延べ回数	1120	480	1600
年間必要回数	上限（一人：20回）		
1日定員	上限（1日10～12名）		

【月別・事業別の利用率表】

延べ人数	児童発達（名）	放デイ（名）	全体（名）
4月	56	24	80
5月	122	48	170
6月	46	24	70
7月	104	42	160
8月	104	41	145
9月	92	38	130
10月	74	38	112
11月	97	44	141
12月	98	41	139
1月	94	37	131
2月	97	41	138
3月	79	39	118
年間合計	1063	457	1520
月別平均	89	38	127

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) 保護者研修について

①年間プログラム（80名）

■日 時：月1回、全10回、2018年5月から2019年3月まで実施

■会 場：淀川区民センター・日本研修センター

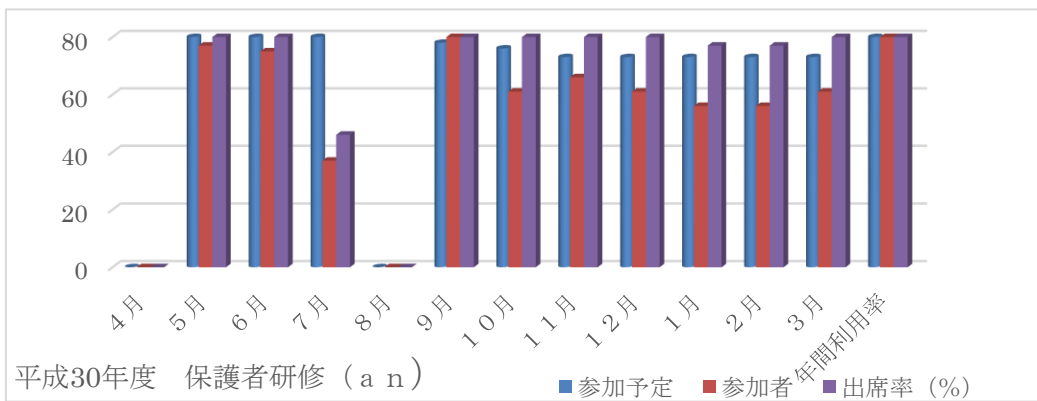
	開催月	テーマ	研修内容
第1回	5月	自閉症の子供たち、療育の概要説明	自閉症の大まかな特徴について理解を得られるよう動画を使用して講義を行

			った。さらに、療育の内容や考え方についての説明を行った。
第2回	6月	自閉症の特性理解～社会性・コミュニケーション～	自閉症の特性の中でも、社会性とコミュニケーションの特性や、特性に基づいた支援についての講義を及び体験ワークショップを行った。
第3回	7月	自閉症の特性理解～感覚の特徴・注意のむけ方の違い～	自閉症の特性の中でも、感覚の特徴と、注意の向け方の違いについて特性を説明し、必要な支援について講義を行い、体験して頂いた。
第4回	9月	子どものいいところを見つけよう	保護者同士で、我が子のいいところ、強み・長所を小グループで発表し合う場を設けた。
第5回	10月	子どもたちにわかりやすく伝えるには～構造化～	視覚支援（構造化）の支援方法について理解を深められるように、講義を行った。
第6回	11月	人との関わりやコミュニケーション	コミュニケーションの機能についてや、コミュニケーションの力を育てるために必要なサポートについて、動画を交えながら解説を行った。
第7回	12月	身辺自立やお手伝いの力を育てるには～構造化～	課題分析の手法について、実際に実習を交え、家庭での取り組みにつながるよう実例画像を提示しながら講義を行った。
第8回	1月	取り組みで気づいたこと	療育や家庭での支援の実践について、保護者同士で共有し、実践方法のアイデアの収集や家庭での支援の達成感を保護者様に感じて頂くように、実践内容の発表会を行った。
第9回	2月	困った行動の原因を考えてみよう	お子さまの行動上の問題について、お子様の特性から行動上の問題を振り返るため、行動上の問題への介入の基礎について講義を行った。
第10回	3月	発表～1年間を振り返って～	療育と保護者研修への参加を通して、我が子と保護者自身にどのような変化があったか振り返り、小グループに分かれて意見交換を行った。

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)	備考
4月	0	0	0	0	
5月	80	77	0.96	96	
6月	80	75	0.94	94	
7月	80	37	0.46	46	警報発令1回のみ実施
8月	0	0	0	0	
9月	78	95	1.22	122	3回実施(7月振替む)
10月	76	61	0.80	80	
11月	73	66	0.90	90	
12月	73	61	0.84	84	
1月	73	56	0.77	77	
2月	73	56	0.77	77	
3月	73	60	0.82	82	
年間利用率	759	644	0.84	84	

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等 (関係機関連携加算の件数含む)】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児	0	1	4	1	0	1	0	7
それ以外	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	4	1	0	1	0	7

(5) 療育相談利用人数

【療育相談利用件数表】

月	療育相談利用人数
8月	1名
12月	1名
2月	2名

(6) 普及啓発事業

①実施状況

(i) 療育終了児を対象にしたフォローアップ研修（平成30年度実施なし）

(ii) 公開講座 参加人数内訳（平成30年度実施なし）

【こども発達支援センターaz】

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
大阪市	10	30
合計	10	30

②療育の利用率

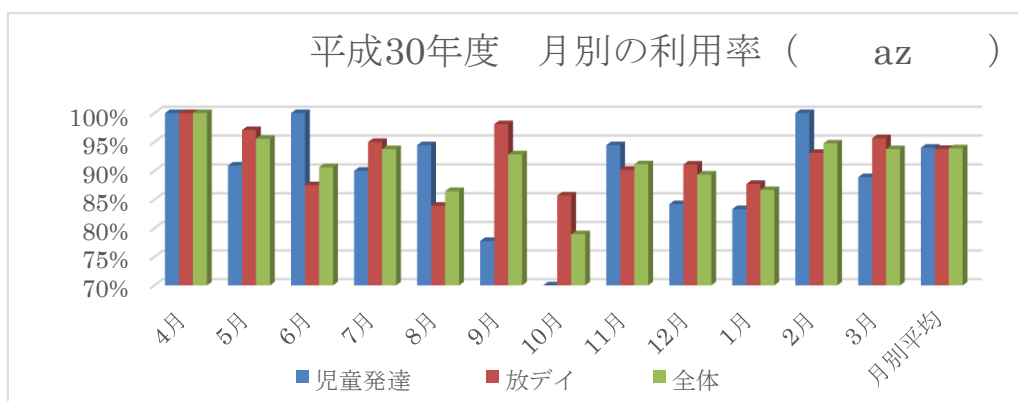
【契約内容】

	児童発達（名）	放デイ（名）	全体（名）
契約定員（名）	10	30	40
年間延べ回数	200	600	800
年間必要回数	上限（一人：20回）		
1日定員	上限（1日10名）		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放デイ	全体
4月	100%	100%	100%
5月	91%	97%	96%
6月	100%	88%	91%
7月	90%	95%	94%
8月	94%	84%	86%
9月	78%	98%	93%
10月	60%	86%	79%
11月	94%	90%	91%
12月	84%	91%	89%
1月	83%	88%	87%
2月	100%	93%	95%
3月	89%	96%	94%
月別平均	94%	94%	94%

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) 保護者研修について

①年間プログラム (40名)

■日 時：月1回、全10回、2018年5月から2019年3月まで実施

■会 場：長居障がい者スポーツセンターおよび長居ユースホステル

	開催月	テーマ	研修内容
第1回	5月	自閉症の特性の理解①	自閉症の大まかな特徴について理解を得られるよう動画を使用して講義を行った。さらに、療育の内容や考え方についての説明を行った。
第2回	6月	自閉症の特性の理解②	自閉症の特性の中でも、社会性とコミュニケーションの特性や、特性に基づいた支援についての講義を及び体験ワークショップを行った。
第3回	7月	自閉症の特性の理解③	自閉症の特性の中でも、感覚の特徴と、注意の向け方の違いについて特性を説明し、必要な支援について講義を行い、体験して頂いた。
第4回	9月	グループトーク	保護者同士で、我が子のいいところ、強み・長所を小グループで発表し合う場を設けた。
第5回	10月	物理的構造化とスケジュール	視覚支援(構造化)の支援方法について理解を深められるように、講義を行った。
第6回	11月	課題分析①	課題分析の手法について、基本的な概要を講義で説明した。
第7回	12月	課題分析②	課題分析の手法について、実際に実習を交え、家庭での取り組みにつながるよう実例画像を提示しながら講義を行った。

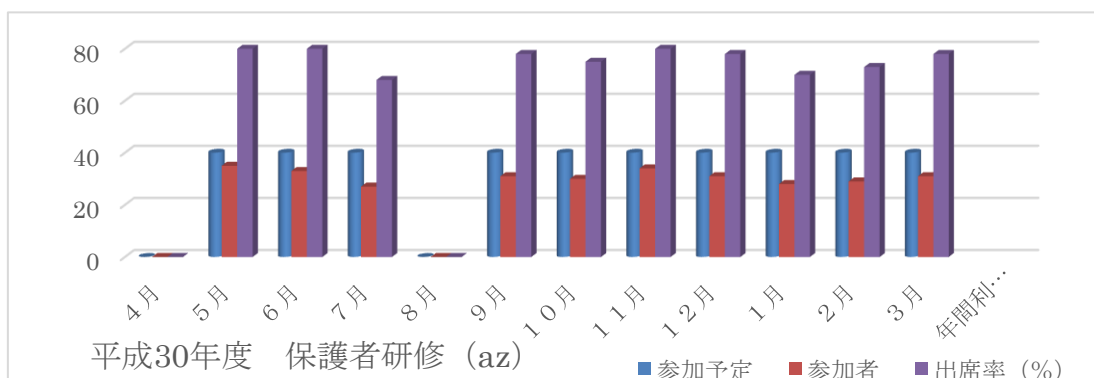
第8回	1月	実践発表	お子さまの行動上の問題について、お子様の特性から行動上の問題を振り返るため、行動上の問題への介入の基礎について講義を行った。
第9回	2月	行動上の問題の理解と対応	療育や家庭での支援の実践について、保護者同士で共有し、実践方法のアイデアの収集や家庭での支援の達成感を保護者様に感じて頂くように、実践内容の発表会を行った。
第10回	3月	一年間のまとめ	療育と保護者研修への参加を通して、我が子と保護者自身にどのような変化があったか振り返り、小グループに分かれて意見交換を行った。

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	40	35	0.88	88%
6月	40	33	0.83	83%
7月	40	27	0.68	68%
8月	0	0	0.00	0
9月	40	31	0.78	78%
10月	40	30	0.75	75%
11月	40	34	0.85	85%
12月	40	31	0.78	78%
1月	40	28	0.70	70%
2月	40	29	0.73	73%
3月	40	31	0.78	78%
年間利用率	400	309	0.78	78%

※7月は暴風警報発令のため振替え実施を行った

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等（関係機関連携加算の件数含む）】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児			2	4		2	1	9
それ以外	4							4
合計	4		2	4		2	1	13

(5) 療育相談利用人数

【療育相談利用件数表】

当年度利用児：4件 OB:0件

【こども発達支援センターwill】

(1) 利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
高槻市	23	17
茨木市	2	2
摂津市	3	1
島本町	8	0
合計	36	20

(2) 療育の利用率

【契約内容】

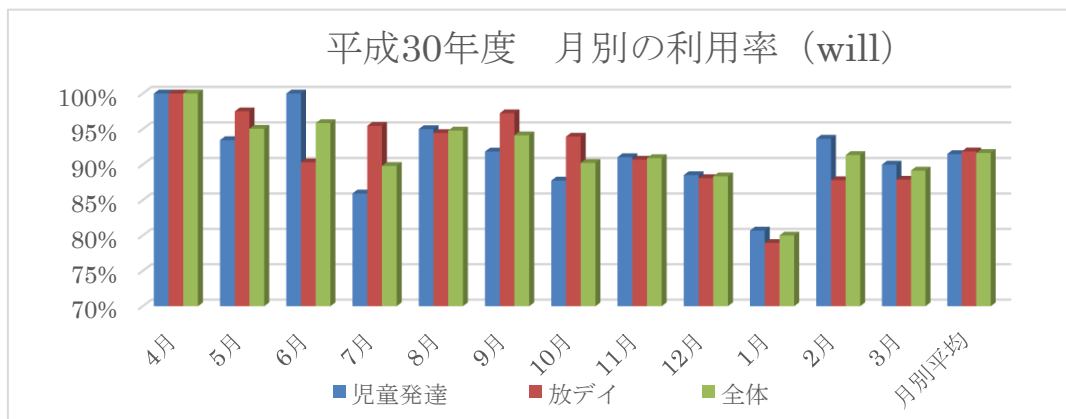
	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	36	20	56
年間延べ回数	721	403	1124
年間必要回数	上限 (一人:20回)		
1日定員	上限 (1日10~12名)		

【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放デイ	全体
4月	100%	100%	100%
5月	94%	97%	95%
6月	94%	86%	91%
7月	96%	92%	95%
8月	87%	86%	86%
9月	90%	91%	91%
10月	89%	86%	88%

11月	89%	91%	90%
12月	93%	86%	90%
1月	85%	86%	86%
2月	84%	84%	84%
3月	98%	97%	98%
月平均	92%	90%	91%

【月別・事業別の利用率グラフ】



(3) 保護者研修について

①年間プログラム (56名)

■日 時：月1回、全10回、2018年5月から2019年3月まで実施

■会 場：高槻現代劇場

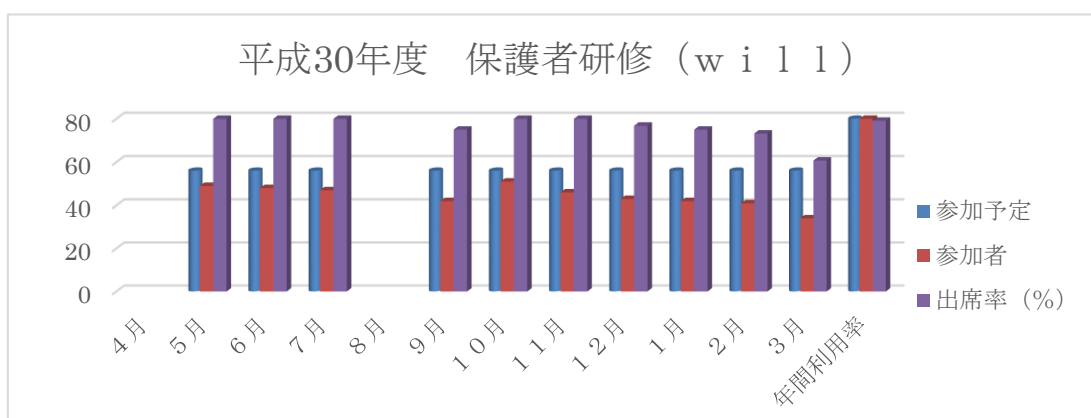
	開催月	テーマ	研修内容
第1回	5月	自閉症の特性の理解①	自閉症の人たちの世界の疑似体験、自閉症の特性 DVD 鑑賞、自己診断シート
第2回	6月	自閉症の特性の理解②	講義『自閉症の特性の理解～社会性・コミュニケーション～』、
第3回	7月	自閉症の特性の理解③	講義・グループワーク 『自閉症の特性の理解～感覚の特徴～』
第4回	9月	グループトーク	子どものいいところを見つけよう！
第5回	10月	物理的構造化とスケジュール	講義『子どもに分かりやすく伝えるには～構造化～』
第6回	11月	コミュニケーション	講義『人との関わりやコミュニケーション』
第7回	12月	課題分析	講義『身近自立やお手伝いの力を育てるには～課題分析～』
第8回	1月	実践発表	グループワーク 『取り組みでうまくいったこと』

第9回	2月	行動上の問題の理解と対応	講義「困った行動の原因を考えてみよう！」
第10回	3月	一年間のまとめ	グループワーク「一年間を振り返って」

②保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月				
5月	56	49	0.88	88
6月	56	48	0.86	86
7月	56	47	0.84	84
8月				
9月	56	42	0.75	75
10月	56	51	0.91	91
11月	56	46	0.82	82
12月	56	43	0.77	77
1月	56	42	0.75	75
2月	56	41	0.73	73
3月	56	34	0.61	61
年間利用率	560	443	0.79	79

【保護者研修参加率グラフ】



(4) 事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等 (関係機関連携加算の件数含む)】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児		1	3	2				6
それ以外	17					3	16	36
合計	17	1	3	2		3	16	42

(5) 普及啓発事業

①実施状況

(i) 療育終了児を対象にしたフォローアップ研修（実践交流会）

実施日	テーマ・内容	参加者数
9月14日(金)	作業療法士から学ぼう！手先の不器用さ・身体の使い方	16名
9月28日(金)	先輩保護者に思春期のことを聞いてみよう！	16名
11月19日(月)	思春期講座「思春期で何が違って、何が変わらないの？～今から必要なことを考えてみよう」	16名

(6) 平成30年度 大阪府委託事業

①通所支援事業者育成事業

<従業者研修>

	日時	場所	内 容	参加事業所数	参加人数
1	2018年6月1日 6月29日 10:30~12:00	高槻現代劇場	自閉スペクトラム症の特性の理解～社会性・コミュニケーション・想像力	17	28
2	2018年7月6日 7月13日 10:30~12:00	高槻現代劇場	自閉スペクトラム症の特性の理解～感覚面の特徴	17	39
3	2018年10月5日 10月12日 10:30~12:00	高槻現代劇場	子どもに分かりやすく伝えるには～構造化	17	24
4	2018年11月9日 11月16日 10:30~12:00	高槻現代劇場	人との関わりやコミュニケーション	17	26
5	2018年12月7日 10:30~12:00	高槻現代劇場	成人期を見据えた支援とは	25	34
6	2019年2月8日 2月15日 10:30~12:00	高槻現代劇場	困った行動の原因を考えてみよう	15	25
	合 計			108	176

<機関支援>

○全体件数

実事業所数	15
延べ事業所数	73

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	実習受入	(電話相談)
実事業所数	11	7		1
延べ事業所数	55	9		1

○見学受入

実事業所数	7
延べ事業所数	14

平成 30 年度通所支援事業者育成事業 事業報告（機関支援）

	事業所名（市）	事業種別	日 時	訪問/来訪
1	藍野療育園（茨木市）	医療型児童発達支援センター	平成30年7月3日 16:00～17:00	訪問
			平成30年7月23日 15:00～17:00	訪問
			平成30年9月10日 15:00～17:00	訪問
			平成31年1月21日 15:00～17:00	訪問
			平成31年3月4日 15:00～17:00	訪問
			平成30年8月29日 13:00～14:00	来訪
2	わくわくクラブ茨木校（茨木市）	放課後等デイサービス	平成30年7月4日 16:30～17:30	訪問
			平成30年8月21日 14:30～16:30	訪問
			平成30年9月15日 11:30～13:30	訪問
			平成31年2月1日 11:00～12:00	電話相談
			平成30年10月18日 13:00～14:00	来訪
3	玉川橋 fun パーク（高槻市）	放課後等デイサービス	平成30年7月9日 14:30～15:30	訪問
			平成30年8月6日 10:00～12:00	訪問
			平成30年9月18日 16:00～18:00	訪問
			平成30年11月30日 14:00～16:00	訪問
			平成31年1月23日 14:30～16:30	訪問

			平成31年3月20日 14:00～16:00	訪問
			平成31年9月14日 15:00～16:00	来訪
4	あけぼの学園(茨木市)	児童発達支援センター	平成30年7月23日 10:00～12:00	訪問
			平成30年9月10日 10:00～12:00	訪問
			平成30年11月12日 10:00～12:00	訪問
			平成31年2月14日 9:30～11:30	訪問
			平成31年3月15日 10:00～12:00	訪問
5	発達サポートセンターつむぎ (茨木市)	放課後等デイサービス	平成30年7月25日 17:00～18:00	訪問
			平成30年8月29日 14:30～16:30	訪問
			平成30年11月26日 16:00～18:00	訪問
			平成31年1月30日 16:00～18:00	訪問
			平成31年2月18日 16:00～18:00	訪問
			平成31年3月11日 16:00～18:00	訪問
			平成30年9月21日 15:00～16:00	来訪
			平成30年10月5日 15:00～16:00	来訪
6	りとるまーち(高槻市)	放課後等デイサービス	平成30年6月28日 15:00～17:00	訪問
			平成30年8月14日 15:00～17:00	訪問
			平成30年9月12日 13:00～14:00	来訪
			平成30年10月9日 13:00～14:00	来訪

			平成30年11月16日 15:00~17:00	訪問
			平成30年12月7日 15:00~17:00	訪問
			平成31年1月18日 15:00~17:00	訪問
7	よつば放課後デイサービス (高槻市)	放課後等デイサービス	平成30年10月17日 15:00~17:00	訪問
			平成30年11月21日 15:00~17:00	来訪
			平成30年8月14日 15:00~17:00	訪問
			平成31年2月7日 15:00~17:00	訪問
8	すまいるベース(高槻市)	放課後等デイサービス	平成30年6月27日 15:00~17:00	訪問
			平成30年9月26日 13:00~14:00	来訪
			平成30年10月10日 15:00~17:00	訪問
			平成30年12月12日 15:00~17:00	訪問
			平成31年1月30日 15:00~17:00	訪問
9	きららドリーム沢良宜 (高槻市)	放課後等デイサービス	平成30年7月5日 15:00~18:00	訪問
			平成30年8月23日 10:30~13:00	訪問
			平成30年11月8日 10:30~13:00	訪問
			平成30年12月17日 10:30~13:00	訪問
			平成31年1月25日 10:30~13:00	訪問
10	わくわくクラブ千里丘校 (摂津市)	放課後等デイサービス	平成30年7月4日 15:00~18:00	訪問
			平成30年8月4日	訪問

			14:00～16:00	
			平成30年9月15日	訪問
			15:00～18:00	
			平成30年10月13日	訪問
			15:00～18:00	
			平成30年11月24日	訪問
			15:00～18:00	
			平成30年12月15日	訪問
			15:00～18:00	
11	学園町 学童デイ ホーム遊育園 (摂津市)	放課後等デイサー ビス	平成31年1月26日	訪問
			15:00～18:00	
			平成31年1月31日	訪問
			11:00～13:00	
			平成31年2月9日	訪問
			15:00～18:00	
			平成30年7月2日	訪問
			15:00～17:00	
			平成30年9月12日	訪問
			15:00～18:00	
			平成30年11月19日	訪問
			15:00～18:00	
			平成31年2月4日	訪問
			15:00～18:00	
			15:00～18:00	

<圏域連絡会>

	日 時	場 所	内 容	参加事 業所数	参 加 人数
1	5月21日(月) 9:30～11:30	高槻現代劇 場	平成30年度巡回相談説明会、大阪 府・三島圏城市町村職員を交えた意 見交換会	20	23
2	2月22日(金) 9:30～11:45	高槻現代劇 場	実践報告 ポスター発表	34	74
3	3月6日(水) 15:30～17:00	高槻現代劇 場	児童発達支援センター・医療型児童 発達支援センターの実践報告	18	28
合 計				72	125

◆高槻市委託事業_巡回支援専門員整備事業

1) 実施状 況	巡回した日数 週 3 日				
	巡回した施設・場	施設数	述べ巡回回	助言など支援	対象児童に対 する助言等支

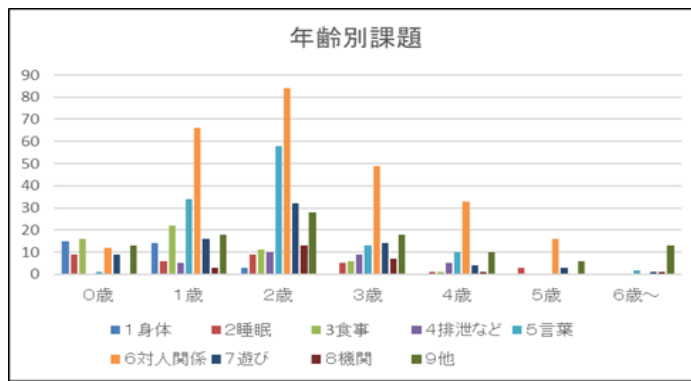
			数	の対象児童数	援の述べ回数
保育所	4	か所	18回	15人	34回
幼稚園	5	か所	9回	7人	10回
子育て支援拠点 施設	3	か所	34回	*121人	166回
その他(子育て広 場)	11	か所	132回	*369人	528回
合計	23	か所	193回	512人	738回

*複数個所での支援、2段階に亘る年齢は初回にカウント

◆助言等支援の対象児童数の年齢別内訳 ()内は延べ人数

年齢	(人)
0歳	58人(74)
1歳	150人(185)
2歳	164人(246)
3歳	72人(123)
4歳	41人(65)
5歳	17人(28)
6歳以上	10人(17)
合計	512人(738)

幼稚園保育所訪問の増加により機関への延べ巡回回数は昨年より増加したが、子育て広場2か所の閉鎖により対象児童と述べ人数は0、1歳児で減少、2歳児の対象児童数と、4、6歳児の対象児童数と助言指導の延べ人数が若干増加。



◆助言等支援の対象児童、施設の支援を担当する職員や対象児童の保護者に対する支援方法

児童：主に遊びや会話に関わりながらの観察

職員：プログラムへの参加、報告、訪問時以外の日常の親子の様子や他の情報の確認、子どもの像の共有、支援方法の確認と共有、訪問時に不在の児童について支援の相談、ケースの多角的な検討、医療・保健・福祉などの機関情報や専門的知識の提供、プログラムの進め方の検討

保護者：面談による聞き取りと観察時の子の様子などを統合して子ども像

	<p>の共有、具体的関わり方の提案、支援機関情報・発達に関する情報の提供、保護者のエンパワーメント、親子行事への参加</p>	
<p>2) 事業実施の効果について</p>	<p>① 発達障がい理解の広がり</p> <p>② 具体的支援についての情報や助言の受け入れと実行：幼稚園保育所での個別の配慮の進展</p> <p>—環境的配慮・物理的空間的支援の工夫・子どもの生活に合わせた視覚刺激の整理</p> <p>居室や多目的使用室の構造化・広場での母子の帰宅時間に合わせたプログラムや玩具収納</p> <p>—時間的見通し：全体スケジュールは定着；進行に沿っての活用が増加</p> <p>子どもに合わせた個別のスケジュールや手順書の利用もみられる</p> <p>—子どもに合わせた課題設定：集団遊びの工夫（特性に合わせた勝ち負けのないゲーム）</p> <p>発達に応じた玩具の備え（乳児への配慮も）</p> <p>母のためでなく子どもが楽しめるグッズの制作（ひろば）</p> <p>③ 家族からの園への支援についての感謝のことばがあったとの報告</p> <p>④ こどもの行動の変化—肯定的な行動が増加。</p> <p>⑤ スタッフ間での情報の共有と継続的見守り</p> <p>⑥ より低い年齢のこどもの対人疎通性や家族の利用状況への配慮</p> <p>⑦ 口コミによる利用機関の広がりによる幼稚園保育所からの相談の増加</p> <p>⑧ 否定的でない相談利用の広がり 2歳児の対象児童が増加</p> <p>・家族へのタイミングのよい声かけや雰囲気・特性への理解と配慮・保護者どうしのみまもり</p> <p>⑥ 育てにくい子を持つ母への共感と自身や我が子のありようの受け入れ</p> <p>⑦ 支援者自身の視点の修正</p> <p>⑧ 相談支援機関や関係機関への積極的連携への意欲</p>	
<p>3) 事業実施の評価について</p>	<p>A 保育所等の巡回支援先の感想 以下のような配慮の変化や巡回相談への肯定的評価が認められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもへの支援に生かすため全体的な配慮から個別の配慮へ ●家族の障がい受容や機関連携に生かされた ●発達障がい理解の改善「安易に大丈夫と言わないようにしたい」 ●先生自身の気づき ●巡回支援への肯定的評価 <p>・月に一回の巡回支援の定着と、専門家としての参加が心強いという感想。</p> <p>・特に若い先生方の保育の参考になった。</p> <p>・子どもと少し距離を取るという提案に先生が落着けた。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚の特異性（聴覚刺激が重なると聞き取れない）や複雑な刺激に対処できない可能性、最後にきまった特定の位置の席に着くのは刺激の少ない場所を選ぶためかもしれないなどの示唆が役立った。 ・巡回支援先と交流する機関にも訪問の要請があった。
	<p>B・保護者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ●機関紹介と連絡の提案に「おねがいします」 ●具体的方法の提案に効果があったとの報告 ●納得されると複数回相談に来られる ●対応に苦慮する行動への具体的提案に「やってみる」「とりいれられそう」「いけるかも」 ●相談の中での気づき・新しい工夫・前向きな変化 ●リミットセッティングの難しさの訴え。 ●その他の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・「情報は求めないと教えてもらえない」 ・「合理的配慮なんかできません、自分にとって支援はストレス」との教師による体験の吐露。 ・「時間を決めて話していた方が周りを気にせず話せたかもしれない」。 ・「視覚からの情報が強いから視覚でわかる指示を使ってみるという助言が役に立った」。 ・言語化されないが話しづらそうな保護者からは聞きたかったことまで十分話ができていなかったのではという印象や本人の行動に対応した答えを提案できなかった時には機関の利用は困難だという印象。 <p>一部にとどまるがアンケートの実施におおむね肯定的評価を得た。</p>
<p>4) 今後の課題について</p>	<p>生活における子どもと家族の困難への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ごく早期（5か月）から対人的な敏感さや難しさを示す子（感覚の敏感さの可能性）の理解と対応 ●年少児に多い睡眠と食・排泄などの課題（ASDを視野に入れて考える）。 <ul style="list-style-type: none"> ・ASDも視野に含めて考える。偏食外来（神奈川県立こども病院内）のような機関があれば、偏食から子どもの特性全体に視点を向ける機会になりそう。 ・卒乳、排泄、睡眠：乳児期に寝にくいと相談を受けた子どもが幼児期に多動や対人関係上の課題を示すことを体験する。就眠促しに応じにくい子への早期からの対応に工夫が必要。生活リズムの調整によるルーティンづくりや刺激の制御、音楽、ベビーマッサージやなどのほかにより効果的な対応法の検討。 ●1歳半健診や3歳半検診をスルーする知的に遅れのないグレーゾーンのASD疑いの児童への早期対応。 ●感情処理の困難など（テンションの上がりやすさなどの感情調整・周囲の刺激に引きずられやすい子どもへの支援・生活の組み立てをふくむ）への支援も。 <p>家族への支援における課題</p>

●子どもの興味（感覚的な操作）や要求や希望に気づかない保護者、発達障がい特性が疑われ、意識されない言動や孤立によって子どもの発達を阻害している可能性が危惧される保護者、障害否認のために発達の機会を失っている保護者と子への支援

●ひろばの先生との交流が社会との接点になっている場合の引継ぎ。（交流が困難で疎外感を感じやすく、被害的に事態を受け止める傾向のある時特に）早期の時点での情報の共有の必要。

●母子の日常生活における困難が子どもの特性（感覚・対人関係の持ち方・同一性保持傾向・注意の問題など）からくると考えられることも多い。養育の難しさが mal treatment を引き起こす可能性に配慮。

連携における課題

・関係機関の連携（アセスメント機関と支援機関の連携）：保健センターと他機関、支援センターやひろば、園や保育所、児童発達相談機関、児童発達支援機関の連携機関内部のすべての部署の連携

・小学校移行期及び小学生年齢の子どもの支援での、保健・教育・福祉・子育て支援の連携

・医療機関：保健センターから医療へのハードルが高いように思える。保健センターの受診を勧める際に嘱託医の受診を前提として勧める・あるいは待ち時間を考えての直接予約を積極的に勧める必要。

今年度のトピックスとして

●3歳児で希望しているにもかかわらずいずれの保育所や幼稚園にも入園できない3歳児が出現した。

●猛暑に伴う利用（戸外で遊べないため）が増加している印象。●利用児の低年齢化—2か月児の利用

全体として

●早期発見と早期診断と支援（家族と子どもへの）を受けられるシステムの構築。

●食事・卒乳・睡眠・排泄・感情処理などについて困難を示す発達障がい特性を持った子どもへの全体的なアセスメントと親子への継続的な支援。特に特性についてのアセスメントの必要（MSPA・PARS・ADOSなどの利用）と対人相互性の改善に役立つ個別的具体的対応と日常的な困りごとについての方策提示

●親子教室やペアレントプログラムと並行して、家族ができる取り組みを提供する個別支援（ESDMなど）。

●環境を整えるなどの合理的配慮が全機関で実施され、具体例を家族に提供できることを期待したい

●ペアレントメンターや療育手帳・精神保健福祉手帳など社会的なシステムも含めた情報伝達

①利用決定者内訳

市町村名	利用決定者	
	未就学児	学齢児
A市	29	14
B市	6	0
C市	3	1
D市	2	1
E市	1	0
合計	41	16

① 療育の利用率

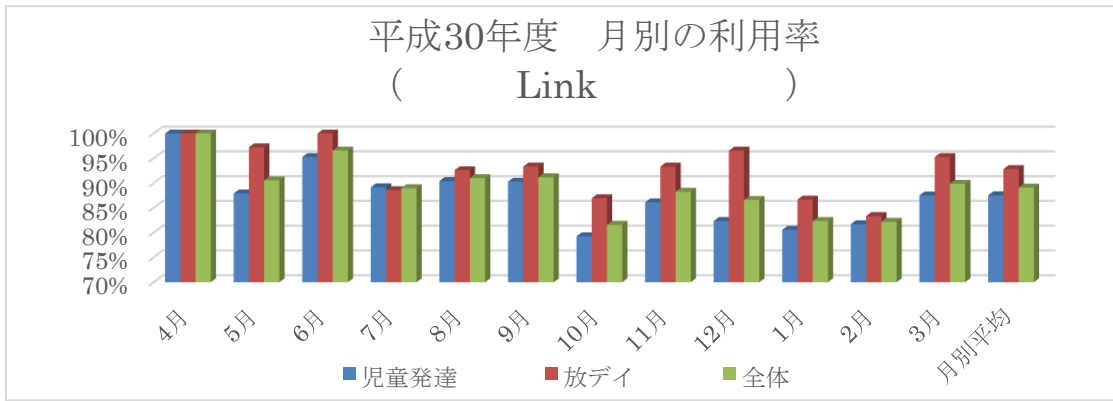
(1) 【契約内容】

	児童発達 (名)	放デイ (名)	全体 (名)
契約定員 (名)	41	16	57
年間延べ回数	820	320	1140
年間必要回数	上限 (一人：20回)		
1日定員	上限 (1日10～12名)		

(2) 【月別・事業別の利用率表】

	児童発達	放デイ	全体
4月	100%	100%	100%
5月	88%	97%	91%
6月	95%	100%	97%
7月	89%	89%	89%
8月	90%	93%	91%
9月	90%	93%	91%
10月	79%	87%	82%
11月	86%	93%	88%
12月	82%	97%	87%
1月	81%	87%	82%
2月	82%	83%	82%
3月	88%	95%	90%
月別平均	88%	93%	89%

(3) 【月別・事業別の利用率グラフ】



保護者研修について

(1)年間プログラム (57名)

■日 時：月1回、全10回、2018年5月から2019年3月まで実施

■会 場：枚方市民会館 ラポールひらかた

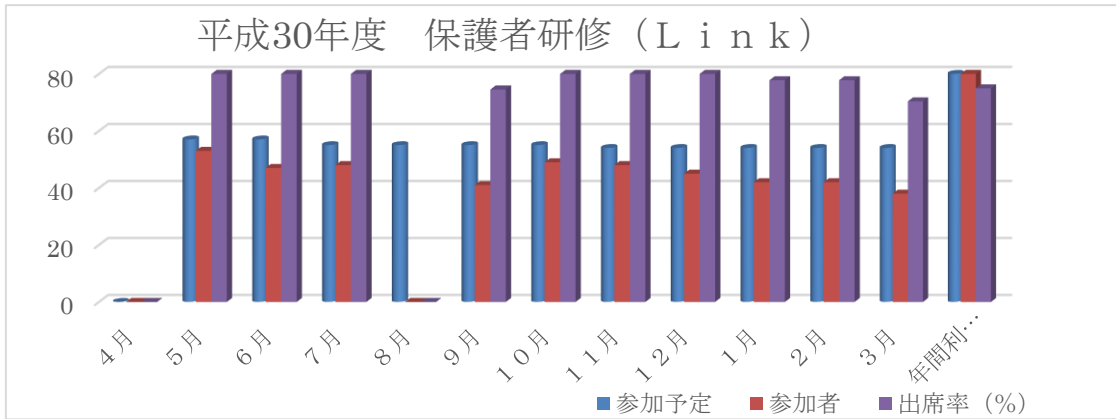
	開催月	テーマ	研修内容
第1回	5月	自閉症の子供たち、療育の概要説明	自閉症の大まかな特徴について理解を得られるよう動画を使用して講義を行った。さらに、療育の内容や考え方についての説明を行った。
第2回	6月	自閉症の特性理解～社会性・コミュニケーション・想像力～	自閉症の特性の中でも、社会性とコミュニケーションの特性や、特性に基づいた支援についての講義を及び体験ワークショップを行った。
第3回	7月	自閉症の特性理解～感覚の特徴～疑似体験	自閉症の特性の中でも、感覚の特徴と、注意の向け方の違いについて特性を説明し、必要な支援について講義を行い、体験して頂いた。
第4回	9月	子どものいいところを見つけよう	保護者同士で、我が子のいいところ、強み・長所を小グループで発表し合う場を設けた。
第5回	10月	子どもたちにわかりやすく伝えるには～構造化～	視覚支援（構造化）の支援方法について理解を深められるように、講義を行った。
第6回	11月	人との関わりやコミュニケーション	コミュニケーションとは何か、なぜ難しいのかを説明し、視覚的な手掛かりがあることで気持ちを伝えることができている場面など実例画像を提示しながら講義を行った。

第7回	12月	身辺自立やお手伝いの力を育てるには～課題分析～	課題分析の手法について、基本的な概要と実際に実習を交え、家庭での取り組みにつながるよう実例画像を提示しながら講義を行った。
第8回	1月	取り組みの中で気づいたこと	療育や家庭での支援の実践について、保護者同士で共有し、実践方法のアイディアの収集や家庭での支援の達成感を保護者様に感じて頂くように、実践内容の発表会を行った。
第9回	2月	困った行動の原因を考えてみよう	お子さまの行動上の問題について、お子様の特性から行動上の問題を振り返るため、行動上の問題への介入の基礎について講義を行った。
第10回	3月	発表～1年間を振り返って～	療育と保護者研修への参加を通して、我が子と保護者自身にどのような変化があったか振り返り、小グループに分かれて意見交換を行った。

(2)保護者研修参加率表

	参加予定	参加者	出席率	出席率 (%)
4月	0	0	0	0
5月	57	53	0.93	93
6月	57	47	0.82	82
7月	55	48	0.87	87
8月	55	0	0.00	0
9月	55	41	0.75	75
10月	55	49	0.89	89
11月	54	48	0.89	89
12月	54	45	0.83	83
1月	54	42	0.78	78
2月	54	42	0.78	78
3月	54	38	0.70	70
年間利用率	604	453	0.75	75

(3)【保護者研修参加率グラフ】



④事業所見学受入内訳書について

【施設見学者数及びその所属数等 (関係機関連携加算の件数含む)】

所属別	保護者	保育所	幼稚園	小学校	支援学校	施設職員	その他	合計
当年度 利用児			4	2				6
それ以外	18					6		24
合計	18		4	2		6		30

⑤通所支援事業者育成事業

(1) <機関支援> 訪問支援・来訪支援・研修形式

* 来訪支援は、主に Link の療育室見学であり、療育見学等が含まれる。

研修形式には、療育見学翌日の、複数職員参加のふり返りが含まれる。

○全体件数	(4月～3月)	
実事業所数	12 か所	(守口市) ・児童発達支援センター 市立わかくさ・わかすぎ園 くまぐるーぷ (個別療育) <訪問 4 回・来訪 0 回・研修形式 1 回>
延べ事業所数	123	(門真市) ・児童発達支援センター 市立子ども発達支援センター療育グループ こあらクラス <訪問 5 回・来訪 1 回>
		(交野市) ・児童発達支援事業所 市立機能支援センター (こどもゆうゆうセンター) 母子通園 (5 歳児単独通園) グループ <訪問 11 回・来訪 1 回・研修形式 2 回>
		(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス キッズ・トーン<訪問 5 回・研修形式 5 回>
		(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス 児童デイ スバル・ぷりずむ <訪問 5 回・来訪 1 回・研修形式 5 回>

(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス 児童デイ スバル・ゆりいか ＜訪問5回・来訪1回・研修形式5回＞
(守口市) 放課後等デイサービス オールケア大日＜訪問5回＞
(守口市) 児童発達支援/放課後等デイサービス きらら守口＜訪問11回・来訪6回・研修形式11回＞
(門真市) 児童発達支援/放課後等デイサービス キッズ・レインボー＜訪問5回＞
(枚方市) 児童発達支援/放課後等デイサービス らっかせい＜訪問7回＞
(枚方市) 放課後等デイサービス くれせんとクラブ御殿山＜訪問5回、研修形式5回＞
(枚方市) 児童発達支援/放課後等デイサービス くれせんとクラブ釈尊寺＜訪問5回、研修形式5回＞

○内 訳

	訪問支援	来訪支援	研修形式	実習受入/ (電話相談)
実事業所数	12	6	8	0 / (0)
延べ事業所数	73	11	39	0 / (0)

(2)見学受入（来訪支援；療育見学・Link 施設見学）

*機関支援実施以外の事業所（10月～1月に実施）

実事業所数	12
延べ事業所数	13

(四條畷市) 市立児童発達支援センター

(枚方市) 市立すぎの木園

(寝屋川市) 市立あかつき・ひばり園

(門真市) タートル

(大東市) くりーむうさぎ

(枚方市) ブランケット、LITALICO ジュニア枚方教室、
アートチャイルドケア SED スクール枚方長尾

(寝屋川市) あいの放デイねやがわ、あいの放デイ東ねやがわ
YCC もこもこ香里園教室、ロイヤルスクエア香里園

(3)＜ A 圏域交流会・B 圏域センター等交流会 ＞

場所：A;枚方市民会館 第3・第4集会室

B; (1回目)ラポール枚方 研修室3, (2回目)Link 療育室

	日 時	内 容	参加事業所数	参加人数
1 (B)	平成 30/ 5/25(金) 15 : 15～16 : 45	北河内圏域内各市の 児童発達支援センターと 公立の児童発達支援事業所を対象に 情報交換と交流 〈大阪府障がい福祉課より 2 名ご来席〉	5 機関 (5 市)	8 名
2 (A)	平成 30/ 6/28(金) 9 : 45～11 : 15	北河内圏域内すべての障がい児 通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 2 か所の相談支援事業所よりお話し (各事業所 2 名以内に制限)	32 機関	49 名
3 (B)	平成 30/11/16(金) 15 : 15～16 : 45	北河内圏域内各市の 児童発達支援センターと 公立の児童発達支援事業所を対象に 情報交換と交流 ～テーマ：移行支援について (主に就学支援) 機関連携について等	6 機関 (6 市)	7 名
4 (A)	平成 31/ 1/24(木) 9:45～11:15	北河内圏域内すべての障がい児 通所支援事業所を対象に 情報交換と交流 ペアレント・トレーニングについて お話し (2 事業所より) (各事業所 2 名以内に制限)	19 機関	29 名
		合 計	62 機関	93 名

⑥療育終了児対象の療育相談

OB 療育相談 10 件

⑦北河内圏域事業者向け研修講座

	日時	内容	参加人数
第 1 回目	平成 30/7/13 (金) 9 : 45～11 : 45	発達障がい児の特性の理解	24 名
第 2 回目	平成 30/9/28 (金) 9 : 45～11 : 45	構造化とコミュニケーション	21 名
第 3 回目	平成 30/11/22 (木) 9 : 45～11 : 45	行動の理解と支援	24 名
第 4 回目	平成 31/2/1 (金) 9 : 45～11 : 45	身体の使い方と支援の工夫	17 名
		合計	86 名

Ⅲ. 資料編

1. 利用者の概要

(1) 萩の杜

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	0	6	29	2	0	37
女	0	0	4	5	3	0	12
合計	0	0	10	34	5	0	49

②障がい支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	39	9	1	0	0	0	0

③療育手帳等取得状況

障害程度	療育手帳				身体障害者手帳						
	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	47	2	0	49	4	2	1	1	1	2	11

(2) ジョブサイトひむろ

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	3	10	11	12	2	1	39
女	1	6	4	5	0	0	16
合計	4	16	15	17	2	1	55

② 障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	29	18	8	0	0	0	0

③療育手帳取得状況

障害程度	療育手帳			身障手帳						
	A	B	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
合計	52	3	55	3	2	1	0	2	0	8

(3) グループホームみやた（レジデンスなさはら2丁目）・とんだ

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
0	2	4	6	3	1	(男性12名・女性4名)

②障害区分別

(共同生活援助)

区分	6	5	4	3	2	1	非該当
人数	2	8	4	1	0	0	1

(4) レジデンスなさはら

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
0	1	8	10	1	(男性13名・女性7名)

②障害区分別

(共同生活援助)

区分	6	5	4
人数	18	2	0

(5) ぷれいすB e

①年齢別・性別人員構成

【生活介護】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	1	26	8	0	1	1	37
女	1	17	3	0	0	0	21
合計	2	43	11	0	1	1	58

【就労継続支援B型】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	0	13	5	1	0	0	19
女	0	6	6	0	0	0	12
合計	0	19	11	1	0	0	31

②障害支援区分

【生活介護】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	27	19	9	3	0	0	0

【就労継続支援B型】

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	0	1	9	9	6	0	6

③療育手帳等取得状況

障害程度	療育手帳				身体障害者手帳						
	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	67	17	3	87	21	5	1	0	0	0	27

(6) LaLa-chocolat TAKATSUKI

①年齢別・性別人員構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男	1	3	4	2	0	0	10
女	1	6	1	3	0	0	10

合計	2	9	5	5	0	0	20
----	---	---	---	---	---	---	----

① 障害支援区分

区分	6	5	4	3	2	1	区分なし
人数	0	2	7	6	0	0	6

② 療育手帳等取得状況

	療育手帳				身体障害者手帳						
障害程度	A	B1	B2	計	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
人数	9	8	4	21			2		1		3

(7) ジョブサイトよど・ジェイ・ブランチよど

ジョブサイトよど

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
1	17	19	1	男性：31名 女性：7名

②障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1
	13	16	5	4		

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳
障害程度	A	B	計	計
合計	26	9	35	3

ジェイ・ブランチよど

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	50代	合計
	12	7	2	2	男性：17名 女性：6名

②障害区分別

区分	6	5	4	3	2	1
人数			3	5	3	1

③療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳
障害程度	A	B	計	計
合計	2	14	16	9

(8) ジョブジョイントおおさか・ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
0	20	4	2	(男性17名・女性9名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	
合計	0	6	6	8	12	20	0

ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

①年齢別・性別人員構成

10代	20代	30代	40代	合計
2	36	4	0	(男性32名・女性10名)

②療育手帳取得状況

	療育手帳			精神障害者保健福祉手帳			未取得
障害程度	A	B	計	2級	3級	計	
合計	0	14	14	14	14	27	

2. 職員配置（常勤換算） 平成31年3月31日現在

(1) 法人本部（総務部）

	基準職員数	実配置職員数
正職		10.5
嘱託		2.0
パートタイマー		5.0
計		17.5

(2) 萩の杜

	基準職員数	実配置職員数
正職		19.0
嘱託		4.0
パートタイマー		27.3
計	32.0	50.3

(3) ショートステイセンターぶれす

	基準職員数	実配置職員数
正職	基準がな	2.0
嘱託	く、萩の杜	1.0
パートタイマー	と一体で支	1.6
計	援に支障の ない数	4.6

(4) ジョブサイトひむろ

	基準職員数	実配置職員数
正職		7.5

嘱託		2.0
パートタイマー		19.8
計	28.6	29.3

(5) グループホームみやた（レジデンスなさはら2丁目）・とんだ

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.3
嘱託		2.0
パートタイマー		5.0
計	9.4	10.3

(6) レジデンスなさはら

	基準職員数	実配置職員数
正職		5.7
嘱託		7.0
パートタイマー		10.3
計	18.8	23.0

(7) ふれいすBe通所部門

	基準職員数	実配置職員数
正職		13.6
嘱託		4.8
パートタイマー		22.0
計	32.4	40.4

(8) あんだんて

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.0
嘱託		0
パートタイマー		0
計	2以上	3.0

(9) LaLa-chocolat TAKATSUKI

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.5
嘱託		2.0
パートタイマー		10.0
計	4.0	15.5

(10) ジョブサイトよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		6
嘱託		3.2

パートタイマー		7.5
計	16.5	16.7

(11) ジェイ・ブランチよど

	基準職員数	実配置職員数
正職		2
嘱託		2
パートタイマー		3.6
計	2.8	9.4

(12) ジョブジョイントおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.5
嘱託		2.0
パートタイマー		3.4
計	5.7	8.9

(13) ジョブジョイントおおさか たかつきブランチ

	基準職員数	実配置職員数
正職		5.5
嘱託		3.0
パートタイマー		6.4
計	8.2	14.9

(14) アクトおおさか

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		2.0
パートタイマー		0.0
計		6.0

(15) 児童デイサービスセンターan

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.4
嘱託		0
パートタイマー		1.2
計	4.0	5.6

(16) こども発達支援センターwill

	基準職員数	実配置職員数
正職		3.4
嘱託		1.0
パートタイマー		1.0

計	4.0	5.4
---	-----	-----

(17) 自閉症療育センターLink

	基準職員数	実配置職員数
正職		4.0
嘱託		0
パートタイマー		0.3
計	4.0	4.3

(18) PASSO 公益事業

	基準職員数	実配置職員数
正職		0.2
嘱託		0
パートタイマー		0
計		0.2

(19) こども発達支援センターaz

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		1
パートタイマー		0.4
計	3.0	3.4

(20) サポートセンターPASSO

	基準職員数	実配置職員数
正職		2.0
嘱託		0.5
パートタイマー		2.0
計	4.0	4.5

3. 採用状況

平成 30 年 4 月 1 日	ジョブジョイントおおさか	上口	夏菜穂
平成 30 年 4 月 1 日	萩の杜	梅村	将弘
平成 30 年 4 月 1 日	ジョブサイトよど	鎌田	茉鈴
平成 30 年 4 月 1 日	ふれいす Be	木村	嘉津夫
平成 30 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	黒木	みなみ
平成 30 年 4 月 1 日	こども発達支援センターwill	佐山	瑞希
平成 30 年 4 月 1 日	自閉症療育センターLink	中川	朱夏
平成 30 年 4 月 1 日	たかつきランチ	中田	有梨咲
平成 30 年 4 月 1 日	総務部	南部	美香
平成 30 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	船曳	佳奈
平成 30 年 4 月 1 日	こども相談支援センターwish	森本	奈央

平成 30 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	近藤 晶
平成 30 年 4 月 1 日	ジョブサイトひむろ	永野 愛
平成 30 年 4 月 1 日	サポートセンターPASSO	山下 真紗子
平成 30 年 11 月 1 日	ジェイ・ブランチよど	原田 寛

4. 退職

平成 30 年 4 月 13 日	ジェイ・ブランチよど	宮崎 健太
平成 30 年 12 月 31 日	ジョブサイトひむろ	清水 美景
平成 31 年 2 月 12 日	ジェイ・ブランチよど	原田 寛
平成 31 年 3 月 31 日	LaLa-chocolat	木戸 貴之
平成 31 年 3 月 31 日	レジデンスなさはら	黒木 由希子
平成 31 年 3 月 31 日	サポートセンターPASSO	大澤 佳世子
平成 31 年 3 月 31 日	こども相談支援センターwish	森本 奈央
平成 31 年 3 月 31 日	自閉症療育センターLink	谷岡 とし子
平成 31 年 3 月 31 日	萩の杜	阿野 貴志

5. 正職員の主な資格取得状況

資格の名称	人数
社会福祉士	54
介護福祉士	33
保育士	20
精神保健福祉士	16
臨床発達心理士	5
臨床心理士	4
准看護師	1
看護師	1
作業療法士	3
管理栄養士	1
日商簿記 3 級	4
日商簿記 1 級	1
クリーニング師	1
製菓衛生師	1

6. 平成 30 年度実習受け入れ状況

実習校名	施設名	人数	期間
桜の家	レジデンスなさはら	1	6 月 12 日～14 日
大阪リハビリテーション専門学校	ジョブサイトひむろ	1	6 月 25 日～8 月 17 日
藍野大学	ふれいす Be	2	7 月 2 日～7 月 4 日

阿武野高校	ふれいす Be	2	7月23日～7月28日
足羽学園	萩の杜	2	7月23日～25日 12月4日～6日
龍谷大学短期大学部	萩の杜	4	7月30日～8月4日 8月29日～9月11日 12月18日～12月26日
関西学院大学	ジョブサイトよど	1	8月6日～9月8日
京都府立大学	レジデンスなさはら	1	8月7日～10月2日
龍谷大学	will	1	8月20日、8月22日、8月31日
京都府立大学	will	2	8月20日～10月5日、 2月28日
大和大学	ふれいす Be	1	8月27日～8月31日
龍谷大学短期大学部	ふれいす Be	1	8月29日～9月12日
大阪総合福祉専門学校	ふれいす Be	1	9月3日～10月5日
大阪人間科学大学	will	1	9月3日、9月6日、9月14日
京都女子大学	an	1	9月5日、9月6日、9月10日
京都医療福祉専門学校	ジョブサイトひむろ	2	9月18日～9月28日
同志社女子大学	az	1	9月18日、9月19日
大阪府立大学	ふれいす Be	2	9月19日
藍野大学	ふれいす Be	2	10月3日～10月31日
阿武野中学校	ジョブサイトひむろ	3	10月30日、10月31日
あすわ福祉会	レジデンスなさはら	1	11月5日～7日
このみ園	レジデンスなさはら	1	11月5日～7日
十三中学校	ジョブサイトよど	2	11月7日～11月9日
高槻第二中学校	ふれいす Be	2	11月8日～11月9日
にいたかの里	ジョブサイトよど	1	11月14日
高槻第六中学校	ふれいす Be	2	11月15日、16日
訪問看護ステーションこころ	ジョブサイトひむろ	2	11月19日～12月19日
京都医療福祉専門学校	ジョブサイトひむろ	2	11月26日～12月11日
海萌	ジョブサイトよど	3	11月28日～12月4日
高槻ライフケア協会	ジョブサイトひむろ	1	11月30日、12月3日
だんけのそのポレポレクラブ	ジョブサイトよど	1	12月7日
大阪国際大学	an	1	12月27日
高槻市民後見人養成講座	ふれいす Be	1	1月10日、1月11日

大阪保育福祉専門学校	ふれいす Be	1	1月28日～2月12日
滋賀短期大学	ふれいす Be	1	2月4日～2月22日
関西福祉科学大学	az	2	2月6日、2月15日、2月25日、3月11日
兵庫医療大学	ふれいす Be	2	2月7日、2月8日
放送大学	an	1	2月8日
関西福祉科学大学	Link	1	2月14日、2月15日、2月20日
同志社大学	will	1	2月28日、3月1日
愛媛大学	az	1	3月6日
奈良女子大学大学院	an	1	3月12日
関西国際大学	Link	1	3月12日
奈良女子大学 大学院	will	1	3月19日

平成30年度：実習団体数44団体、実習人数のべ65人（参考）

7. 職員研修・研究会

4	バリアフリー展 2018
	ロングライフサポートの時代へ（内部研修）
	ヒラタ夏のイベント展示会
	新人職員のためのサービスマナーセミナー
	口腔ケア研修
	高槻市啓発デーシンポジウム
	自閉症啓発デーinOSAKA シンポジウム（大阪府）
5	日本PWS協会総会
	ジョブコーチカンファレンス
	全国就労移行支援事業所連絡協議会
	e サービス中級講座
	大阪府栄養士会「臨床検査値がなくても判断できる管理栄養士がすべき栄養診断スキル」
	真野 Dr 巡回相談
	個別支援計画と意思決定支援について
6	サービスマナーセミナー 中級リーダーコース
	喀痰吸引研修(3号研修)
	PECS レベル1 ワークショップ
	オフィスぼん 自閉症ライフセミナー『豊かな成人期に向けて、親・支援者ができること』
	ヒラタフードフェア

	たかつきしまもと就労支援ネットワーク会議
	発達障がいのある人の成人期の支援について
	ソーシャルストーリーズ入門ワークショップ
	CAT-Kit セミナー
	組織開発の研究会
	定着支援フォーラム
	e サービス中級講座
	非常勤研修 利用者と支援者の心をつなぐため
	感染症・食中毒予防対策講習会
	真野 Dr 巡回相談
	発達障害者支援センター全国連絡協議会 実務者研修会
7	喀痰吸引研修(3号研修)
	高槻市民間社会福祉施設連絡会新任職員研修会
	発達障害セミナー2018
	てんかん基礎講座
	関西感染症フォーラム
	大阪府栄養士会 臨床栄養セミナー
	SSTツールを活用した個別SSTを学ぶ研修会(基礎編)
	コミュニケーションとチームワーク(内部研修)
	自閉症eサービス(意思決定支援とコミュニケーションツール)
	就労支援基礎講座
	自閉症eサービス(門塾)
	かりがね福祉会、高水福祉会視察
	発達障害者支援者指導者養成研修
	大規模災害におけるリスクマネジメント研修
	ストレスマネジメント研修
	リーダー・主任対象研修会
	「医療と介護の連携を進める上での介護従事者に必要な医療の知識」
8	サービス管理責任者等養成研修(生活介護)
	自閉症カンファレンス
	保健師・看護師研修会
	PSCS研修 基礎講座(門 眞一郎先生)
	PECSレベル1ワークショップ
	評価から支援へ①(内部研修)
	ハラスメント防止について(内部研修)
	日本職業リハビリテーション学会北海道大会
	エンカレッジ実践報告会

	平成 30 年度 保健師・看護師研修
	強度行動障害の支援（国研修）
	発達障害者地域支援マネジャー研修会（基礎研修）
9	サービス管理責任者等養成研修(生活介護)
	大阪府相談支援従事者研修
	4 法人ジョイントセミナー
	ダウン症支援セミナー
	MSI アプローチ入門編研修
	平成 30 年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修【基礎研修】
	平成 30 年度栄養士・調理師研修会
	2018 年度高槻ルーロー講演会 TTAP
	P E C S 研修 ケース検討/S V (門 眞一郎 先生)
	評価から支援へ②～評価キットについて～（内部研修）
	TEACCH プログラム研究会 年間講座 『幼児期・学齢期サポート』
	自閉症 e サービス（特性理解とペアレントトレーニング）
	筑波大学勉強会
	CAT-Kit 指導法基礎（2）セミナー
	自閉症の人のバリアフリーを考える会はぐくみ 15 周年本田先生講演会
	高機能自閉症ワークショップ
	ダウン症の理解と支援
	全国グループホーム等研修
	信託勉強会
	ファシリテーション研修
	自閉症 e サービス「高機能自閉症就労・相談支援ワークショップ」
10	たかつき福祉基礎講座
	平成 30 年度大阪府強度行動障がい支援者養成研修【基礎研修】
	感覚統合療法入門講習
	臨床美術体験セミナー
	平成 30 年度給食施設栄養業務担当者研修会
	発達障がいのある子どもの感覚と運動
	サービス管理責任者研修
	インフルエンザ・ノロウイルスへの対応（内部研修）
	相談支援従事者研修
	TEACCH プログラム研究会 年間講座 『ライフスキルサポート』
	社会教育（人権）講座 『発達障がいのこと、知っていますか？』
	関西デザート・スイーツ&ベーカリー展
	自閉症 e サービス（ロングライフを支える仕組み）

	たかつきしまもと就労支援ネットワーク会議
	自閉症 e サービス (門塾)
	全日本自閉症支援者協会研究大会
	はるにれの里 視察
	真野 Dr 巡回相談
	発達障害者地域支援マネジャー研修会 (応用研修)
	TEACCH 研究会公開講座「アスペルガー症候群の就労支援～TTAP、T-STEP、ESPIDD から学ぶ～」
	発達障害者地域支援推進事業 実地研修「ひきこもりや家庭内暴力等に対する家族支援 (CRAFT をベースにした家族へのアプローチ)」
11	日本感覚統合学会研究大会
	知的障害のある人の意思決定支援と成年後見制度について
	ひきこもりや家庭内暴力等に対する家族支援 ～CRAFT をベースにした家族へのアプローチ～
	感染症予防対策講習会
	PECS 研修 ケース検討/SV (門 眞一郎 先生)
	自閉症 e サービス評価キットを使った評価のSV① (内部研修)
	TEACCH プログラム研究会 年間講座 『思春期サポート』
	オフィスぼん 自閉症ライフセミナー
	e サービス基礎講座
	TTAP 研修
	日本臨床発達心理士会 主催研修会
	相談支援従事者研修
	知的障がいのある方の「性の自立支援」について
	ヒラタ展示会 (バレンタイン&ホワイトデー)
	LITALICO フォーラム
	淀川区自立支援協議会研修会
	ジョブコーチ養成研修
	大阪知的障害者福祉協会施設長会
	はる、三気の里視察
	真野 Dr 巡回相談
	日本メンター協会設立公開講座
12	強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)
	PECS レベル1 ワークショップ
	高槻事業所連絡会職員研修会
	高槻市民間社会福祉施設連絡会研修会
	臨床美術体験セミナー

	大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修
	サービス管理責任者研修
	ケアマネ研修会「考えよう 変えよう 変わろう 高槻の相談支援」
	アクトおおさか公開講座『ライフステージを通じた支援体制づくりに向けて～大阪府発達障がい児療育拠点10年をむかえて～』
	自閉症 e サービス 分野別講座「医療と支援現場の連携」
	TEACCH 研究会講座
	相談支援者現任研修
	ADHD のある方の特徴と支援
	ATAC カンファレンス
	就労支援フォーラム
	評価キットセミナー
	強度行動障害支援者養成研修実践編
	真野 Dr 巡回相談
	発達障害者支援センター 近畿ブロック研修会
1	やまなみ工房「やりすぎ展」
	自閉スペクトラム症ワークショップ
	行動援護従業者研修
	相談支援従事者初任者研修
	SST ツールを活用した個別 SST を学ぶ（応用編）
	重度障がいのある子ども達の「動く」を追求して
	PECS 研修 ケース検討/SV（門 眞一郎 先生）
	自閉症 e サービス評価キットを使った評価のSV②（内部研修）
	相談支援者現任研修、強度行動障がい支援者養成研修【実践】
	TEACCH 研究会講座
	TTAP 研修
	ドコモ・プラスハーティ講演会
	大阪就労研
	JJ おおさか主催実践報告会
	人材確保・定着セミナー
	真野 Dr 巡回相談
2	アメニティーフォーラム
	発達障がいに対する生活動作の考えと具体的アプローチの方法
	ASD 勉強会～障がい特性の理解と支援～（内部研修）
	問題行動の理解と冰山モデル
	TTAP 研修
	報告会@JICA 関西

	職リハ学会国際委員会研修会
	大阪授産事業振興センター研修会
	はるにれの里 主催 強度行動障害支援者養成研修 実践編
	平成 30 年度大阪府障がい児者通所支援者育成事業 機関支援事業（訪問支援）実施報告
3	PECS レベル 1 ワークショップ
	社会福祉法人 やまなみ会 やまなみ工房 施設見学会
	P E C S 研修会 ケース検討/S V（門 眞一郎 先生）
	権利擁護と虐待防止（内部研修）
	TTAP 研修
	ヒラタ展示会
	職リハ学会近畿ブロック研究会
	働くチカラ PROJECT 実践報告会
	就労移行支援事業所職員向け研修会
	CEF2019
	真野 Dr 巡回相談
	医療と支援現場の連携

平成 30 年度：参加研修会（研究会）数 180